シテ金策ヲナサンモノト云云巡査大瀧龜之助ニ計リ云云副取締開花ノ主人ニ相談シタルヨリ云云祕密組合會議ヲ開キ云云吉田等ノ要求通リ金百圓ヲ伊知地ニ送ルコトニ決定セリ云云」トアリテ吉田及大瀧カ伊知地軍助ノ旨ヲ受ケ料理業者等ヘ金百圓ノ出金ヲ要求シタルモノナリトノコトハ少シモ記載ナキノミナラス却而該記事ニ依レハ吉田及大瀧カ料理業者等ニ相談シタルハ伊知地ノ甘心ヲ得ンカ爲メ同人ニ謀ラスシテ其交渉ヲ爲シタル事實ヲ明記シアリ然ルニ原院ハ前示ノ如ク伊知地軍助ノ旨ヲ受ケ吉田及ヒ大瀧カ前記ノ所爲ニ出テタル旨新聞紙ニ記載アリト認メラレタルハ事實認定ニ不法アリト信ス又前記百圓問題ニ付キ右新聞紙ノ記事ハ專ラ吉田及大瀧ノ行爲ヲ記載シタルモノニシテ伊知地軍助カ此問題ニ付キテハ何等ノ處分ヲ爲シタルコトヲ記載セス故ニ該記事ハ毫モ伊知地軍助ノ名譽ヲ毀損スル所ナシ假リニ被告ハ原院認定ノ如ク吉田及大瀧カ伊知地軍助ノ命ヲ受ケ百圓問題ニ付キ料理業者其他ヘ交渉シタリト通信シタルモノトスルモ現實新聞紙ノ記事中ニ伊知地ノ旨ヲ受ケタル旨ノ記載ナキ以上ハ該記事ヲ以テ伊知地軍助ノ名譽ヲ毀損シタリト云フヘカラス然ルニ原院カ該記事ヲ以テ伊知地軍助ノ名譽ヲ毀損シタリト認メ刑法第二百三十條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法アリト云フニ在レトモ○本論旨ハ原院カ其職權ヲ以テ爲シタル新聞記事ノ解釋若クハ判斷ヲ論爭スルモノニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラス

第四點原判決ハ擬律錯誤及法則ノ適用ヲ誤リタル不法アリ原判決ハ「前示記事中伊知地軍助外二名カ料理業者等ニ金百圓ノ出金ヲ要求シタリトノ事實ハ之レヲ同人等カ公務ヲ處理スル上ニ於テ爲シタル記事ト認メ難ク私人トシテノ行動ニ關スルモノト認ムヘキヲ以テ私行ノ範圍ニ屬シ事實ノ有無ヲ問ハス」云云ト判示セラレタリ然レトモ前記新聞紙中百圓問題ニ關スル記事ハ伊知地軍助外二名カ單純ニ一私人トシテ料理業者其他ヘ金百圓ノ融通ヲ求メタリト云フニ在ラスシテ伊知地軍助ノ職務上ノ位置ヲ奇貨トシ其權勢ヲ濫用シ直接ニ被監督ノ位置ニアル料理業者及藝妓業者ニ對シ金圓ノ出金ヲ要求シタリト云フニ在リテ殊ニ該記事ノ末段ニ於テハ「然ルニ組合員ノ中ヨリ若シ此事露顯セハ收受者ハ勿論贈與者モ刑法ノ制裁ヲ受クルニ至ルヘシ云云」ノ記事ニ徵スルモ右記事ハ百圓問題ニ付キ伊知地軍助外二名ノ私行ニ關スルモノニアラスシテ專ラ公益ヲ謀ルカ爲メナルコト明白ナリトス然ルニ原院ハ右記事ヲ以テ伊知地軍助外二名ノ公務ヲ處理スル上ニ於テ爲シタル記事ニ非スト爲シ之ヲ私人トシテノ行動ニ關スルモノナリト判示シ事實有無ヲ問ハス處罰スヘキモノナリトシ刑法第二百三十條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ニシテ又新聞紙法第四十五條ノ適用ヲ誤リタル不法アリト信スト云フニ在レトモ○良シ警察官吏カ職務上ノ位置ヲ利用シ其監督ノ下ニ在ル料理業者等ニ對シ金圓ノ融通ヲ要求シタリトスルモ之ヲ以テ公務上ノ行動ト認ムヘキモノニアラサレハ原院カ所論ノ記事ヲ以テ私人トシテノ行動ニ關スルモノト認メタルハ正當ニシテ本論旨モ亦理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

検事矢野茂干與明治四十四年三月九日大審院第二刑事部

○私印盜用詐欺ノ件

明治四十四年(れ)第一三九號
明治四十四年三月九日宣告

◎判決要旨

一連續犯(刑法第五十五條)ノ構成ニハ同一意思ノ發動ニ因リ同種ノ犯罪行爲ヲ反覆スルコトヲ要スレトモ其行爲ハ必スシモ時間ヲ隔ツルノ要ナキモノトス

(參照) 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス(刑法第五十五條)

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 吉岡德松 辯護人 横山鑛太郎

右私印盜用詐欺被告事件ニ付明治四十三年十二月十日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人横山鑛太郎上告趣意書第一原判決ハ「第二被告德松ハ旭商會ノ名義ヲ冒用シ既ニ引渡ヲ受ケタル生絲ノ領收書ヲ定吉ニ交付センカ爲メ辰治ヲ說得シ茲ニ兩名共謀ノ上意思ヲ繼續シ辰治ハ同年六月下旬前記商會ニ於テ被告德松ヨリ送付シ來リタル便宜定吉ニ於テ代書セル同商會名義ノ同年五月十二日附生絲十貫四百六十七匁代金五百五十二圓四十二錢同月二十八日附生絲九貫二百二十匁代金二百九十七圓八錢ノ二通ノ領收證ニ擅ニ同商會ノ認印ヲ盜捺シ其僞造ヲ完成シテ之ヲ被告德松ニ返付シ被告德松ハ即日之ヲ定吉ニ交付シテ行使シタルモノトス」ト認定シ即チ上告人ハ第一審ノ共同被告人タリシ糸井辰治ト共謀シテ旭商會名義二通ノ領收書ヲ僞造シ竝ニ該僞造領收書ヲ奥野定吉ニ交付シテ行使シタル犯罪事實ナリトセラル而シテ其所謂領收書ノ僞造トハ旭商會ノ印ヲ擅ニ押捺シタル點ニノミ存スルコト右認定ノ如シ果シテ然ラハ其僞造ハ上告人カ辰治ト共謀シテ之ヲ犯シタルモノナリトスルニハ右旭商會ノ印章ヲ盜捺シタル所爲ニ對シ上告人カ干與シタル事實ノ存在ヲ必要トシ此存在ハ證據ニ依リテ之ヲ說示セラレサルヘカラス蓋シ正犯ハ犯罪ヲ爲スヘキ行爲ノ實行ニ加擔シタル者ナラサルヘカラサレハナリ原判決ニ列擧セル證據理由ヲ通讀スルニ上告人ハ辰治ニ對シ定吉ノ代筆シタル旭商會名義ノ領收書ヲ添ヘ書狀ヲ以テ印ノ押捺ヲ依頼シ辰治ハ此依頼ニ應シ竊ニ之ニ押捺シタル事實ニ該リ

上告人カ押捺印ニ干與シタルコトハ之ヲ認ムル事能ハスシテ若シ上告人ニ罪責アリトセハ其教唆犯ヲ爲スヘキモノトスルヲ至當トス然ラハ即チ原判決カ上記ノ如ク上告人ヲ文書僞造ノ共同正犯ナリトセラレタルハ其證據說明ト一致セサル失當アリテ理由不備ノ裁判ナリト謂ハサル可ラスト云フニ在レトモ◎原判決ニ列擧セル證憑ニ據レハ所論判示事實ヲ認メタル理由自ラ明瞭ナルノミナラス既ニ共謀ノ事實アル以上ハ共謀者ノ全體カ犯罪ノ實行ニ干與スルコトヲ必要トセス故ニ原判決ニ於テ本件文書僞造ノ行爲カ被告ト第一審ノ相被告糸井辰治トノ共謀ニ出テ而シテ辰治カ右文書ノ僞造ヲ實行シタル事實ヲ判示シ之ニ對スル諸般ノ證憑ヲ掲載シアル以上被告ノ文書僞造罪ヲ認ムルニ付キ事實及ヒ證據ノ理由ニ缺クル所アルナシ

第二原判決ハ第二ノ事實ニ認メラレタル二通ノ領收證僞造ト其僞造領收證ノ行使トノ犯行ニ對シ各刑法第五十五條ヲ適用シ各連續犯ナリトシテ處斷セラレタルモ右ノ僞造及行使トモ各包括的一箇ノ決意ニ依リ而カモ同時ニ行ハレタル事實ナルヲ以テ之ヲ單一ノ犯罪ナリト見做スヲ至當ト信ス從テ原判決ハ擬律ノ錯誤アリト云フニ在リ◎按スルニ刑法第五十五條ノ連續犯ヲ構成スルニハ同一意思ノ發動ニ因ル同種ノ犯罪行爲ヲ反覆スルコトヲ要スルモ右行爲ハ必スシモ時間ヲ隔ツルコトヲ要セス同時ニ行ハレタルカ爲メニ連續犯タルコトヲ妨ケサルノミナラス原判決ノ認メタル事實ニ依レハ被告等カ連續シテ領收證書二通ヲ僞造シ之ヲ行使シタルモノナレハ原判決ニ於テ右行爲ニ對シテ刑法第五十五條ヲ適用シタルハ違法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十四年三月九日大審院第二刑事部

○脅迫及强姦致傷ノ件

明治四十四年(れ)第一四一號
明治四十四年三月九日宣告

◎判決要旨

一人ノ處女膜ヲ裂傷スルハ即チ人ノ身體ヲ傷害シタルモノニ外ナラス故ニ十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫スルニ因テ其處女膜ヲ裂傷シタル所爲ハ刑法第百八十一條ニ該當スルモノトス

(參照)　第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(刑法第百八十一條)

第一審　東京地方裁判所　第二審　東京控訴院

被告人　富永治三郎　辯護人　宮島次郎

姦淫ニ因ル處女膜ノ裂傷

右脅迫及ヒ强姦致傷被告事件ニ付明治四十三年十二月二十六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人宮島次郎上告趣意書第一點原判決ハ證人藤居正七ノ豫審調書ノ證言中處女膜ヲ裂傷シタルトノ點ヲ取リ被告ハ刑法第百七十七條ノ罪ヲ犯シ因リテ人ヲ傷ケタルモノトシ刑法第百八十一條ニテ處罰スヘキモノトス按スルニ刑法第百七十七條後段幼女姦淫所爲中ニハ當然處女膜裂傷ヲ含有スルモノニシテ處女膜裂破セスシテ幼女姦淫ハ實行スルコト能ハサルモノナリ若シ夫レ原判決ノ如ク犯罪行爲ノ一部ヲ分離シテ別ニ之ヲ論セントセハ宜シク淫行ニ伴フ膣壁抹消ノ如キモ又理論上當然致傷ヲ以テ問擬スヘシ然ルトキハ刑法第百七十七條ノ如キハ不用ノ條文トナルノ奇觀ヲ呈スルニ至ルヘシ畢竟スルニ原判決ハ杓子定規ニ失シテ法律ノ精神ヲ誤解シタルニ基ク不法ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ヲ査スルニ原審ハ被告カ十三歳未滿ノ幼女吉田チヨヲ姦淫シ因テ同人ノ處女膜ヲ裂傷シタル事實ヲ認メテ刑法第百七十七條第百八十一條ヲ適用シタルモノナリ顧フニ人ノ處女膜ヲ裂傷スルハ即チ人ノ身體ヲ傷害シタルモノニ外ナラス故ニ十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫スルニ因テ其處女膜ヲ裂傷シタル以上ハ刑法第百七十七條ノ罪ヲ犯スニ因テ人ヲ傷害シタルモノニシテ刑法第百八十一條ニ該當スルコト明ナリ蓋シ刑法第百七十七條ノ罪ヲ犯ス者カ暴行ニ因テ人ヲ死傷ニ致シタルハ暴行ニ因ラス姦淫其物ニ因テ人ヲ死傷ニ致シタルト擇フ所ナク齊シク同法第百八十一條ノ適用ヲ受クヘキモノナレハ十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シ姦淫其物ニ因リ其處女膜ヲ裂傷スル行爲カ同條ノ適用ヲ受クヘキハ當然ナルヲ以テナリ故ニ論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ニ於テ刑法第百七十七條後段ノ十三歳未滿ノ幼女姦淫罪ニ關スル規定ヲ姦淫ノ手段カ暴行又ハ脅迫ニ出ツル場合モ其然ラサル場合ヲモ共ニ同罪ヲ構成スヘキモノト規定シタルモノナリト解シタルハ不當ニ法條ヲ解シタルモノニシテ從テ判決ハ不法ノ判決タラサルヲ得ス刑法第百七十七條後段十三歳未滿幼女姦淫罪ハ性理上風教上其弊害ノ激甚ナルニヨリ十三歳以上ノ婦女强姦同一ニ論シタルモノナリ情狀ニ於テ惡ムヘキ暴行手段ヲ以テ淫行ヲ爲シタル場合モ含蓄セシメタルモノニアラス若シ刑法第百七十七條後段ニ暴行脅迫ニ依ル場合ヲモ包含スルモノトセハ同條前段ニ於テ十三歳以上ノ婦女ト制限ヲ置クヲ要セス暴行脅迫ヲ以テ婦女ヲ姦淫シタル者ハ云云十三歳未滿ノ婦女ヲ姦淫シタル者又同シトスヘキニ前段ニ於テ十三歳以上ニ制限セル以上同條後段ノ幼女姦淫中ニハ暴行脅迫ノ場合ヲ含マサルヤ明ナリ現行刑法ニ於テ十三歳以上ノ婦女ニ對スル姦淫ヲ不問ニ置キ暴行脅迫ニヨル姦淫ヲ强姦罪トシテ處分シ又强盜ノ竊盜ト其處分ヲ異ニスル點ヨリ考フレハ暴行脅迫ニ依ル犯罪ヲ情狀重シトシテ處分ヲ異ニスル事明白ナル事トセハ獨リ幼女姦淫ニ於テノミ普通ノ姦淫ト强姦ヲ同一視スル

ハ理論ヲ一貫セサルモノト云フヘシ現行刑法第百七十七條ト舊刑法第三百四十九條トヲ比較スルニ舊刑法ノ十二歳ヲ新刑法十三歳トシタルニ過キス幼女姦淫ヲ十三歳以上ノ婦女強姦ト同一視スルノ點暴行脅迫ヲ以テ處罰ノ條件トスル點同一ナリ然ラハ幼女強姦ノ場合モ又舊刑法ト同一ナリト論決セサルヲ得ス然ルニ舊刑法ハ幼女強姦ヲ幼女姦淫ノ刑ニ一等ヲ加重シテ處罰スヘキモノトス故ニ現行刑法ニ於テモ幼女強姦ヲ幼女姦淫ト同一ニ論セサルモノトセサルヘカラス原判決理由中「若シ夫レ幼女姦淫ノ手段タル暴行又ハ脅迫ヲ以テ別罪ヲ構成スヘキモノトセンカ斯ル手段ヲ以テ幼女ヲ姦淫シ因リテ死傷ニ致シタル場合ニ於テ而カモ其死傷ノ原因カ姦淫自體ノ結果ニアラスシテ暴行又ハ脅迫ノ結果ナルトキハ刑法第百八十一條ニ問擬スル事能ハサル事トナリ強姦死傷ノ場合ト對照シテ彼是ノ權衡ヲ失スルニ至ラン」ト極メタリ然ラハ死傷ノ原因ヲ暴行脅迫ノ結果ナル時ハ刑法第百七十七條ノ罪ト脅迫殺人又ハ其他ノ犯罪ト俱發シタルモノトシ各本條ニ對照シ其重キニ從ヒテ處斷セハ權衡ヲ失セス却テ原判決ノ如クセハ幼女姦淫ハ十三歳以上ノ婦女ニ對スル强姦ト同一視スルトキハ姦淫ハ强姦ト同一ナリトノ論決ニ達スヘシ即チ强姦姦淫トノ權衡ヲ失スルモノト云フヘシ畢竟スルニ原判決ハ法律ヲ不當ニ解シタルモノニ基ク違法ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノナリト云フニ在レトモ○十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シタル行爲ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テスルト否トヲ問ハス刑法第百七十七條後段ニ該當スルコト明ナリ蓋シ十三歳未滿ノ幼女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テシタル姦淫モ暴行脅迫ヲ以テセサル姦淫モ齊シク其姦淫タルヲ妨ケサレハナリ故ニ原判決カ被告ノ行爲ヲ同法條ニ問擬シタルハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十四年三月九日大審院第二刑事部

○傷害ノ件

明治四十四年(れ)第一七五號
明治四十四年三月十三日宣告

○判決要旨

一傷害ハ暴行ニ因リテ他人ノ生活機能ヲ毀損スルノ謂ナレハ暴行ノ方法、程度、兇器ノ有無及ヒ其種類ノ如キハ傷害罪ノ成立ニ何等ノ關係ナシ(判旨第一點)

一二人以上ノ者カ共同シテ他人ニ暴行ヲ加ヘ其身體ヲ傷害シタルトキハ其傷害ハ共同的暴行ノ結果ニ外ナラサレハ各犯人ノ加ヘタル暴行及ヒ其結果ノ程度ニ因リテ罪責ヲ分擔スヘキモノニ非ス(判旨

第二點）

一苟モ二人以上ノ者カ共同シテ他人ニ暴行ヲ加ヘタル以上ハ傷害ヲ生セシメタルト否ト又傷害ノ輕重ヲ問ハス總テ普通ノ共犯例ニ依ルヘキモノトス（同　上）

第一審　長野地方裁判所飯田支部　第二審　東京控訴院

被告人　鈴木宮治外一名　辯護人　森　濱

右傷害被告事件ニ付明治四十三年十二月十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

各被告辯護人森濱上告趣意書第一點原判決ノ理由中（前畧）被告吉治ノ弟タル前審共同被告鈴木宇宙治ト共同シテ右庄五郎ヲ毆打シ云云ト判示シ果シテ如何ナル方法ヲ以テ行ハレタル毆打ナリヤ更ニ明確ナラス換言スレハ如何ニシテ傷害シタルモノナルカハ勿論必要的ナル事實理由タリ何トナレハ傷害ノ方法トシテハ或ハ兇器ヲ以テスヘク又ハ棍棒ノ如キヲ以テスル場合モアルヘク要スルニ突然傷害ノ出來得ヘキモノニアラサレハ從テ須ラク傷害ヲ加ヘラレタル方法ヲ詳ニセサルヘカラスト信スレハナリ

然ルヲ原判決ノ理由中此重要ナル事實ノ明示ヲ缺如シタルハ畢竟理由不備ノ違法タルヲ免レサル裁判ナリト云フニ在リ○然レトモ傷害ハ暴行ニ因リテ他人ノ生活機能ヲ毀損スルノ謂ナレハ暴行ノ方法程度竝ニ兇器ノ有無及ヒ其種類ノ如キハ傷害罪ノ成立上毫モ問フ所ニアラス故ニ原判決ニ於テ被告等カ鈴木庄五郎ニ對シテ暴行ヲ爲シ其身體ニ腫脹ヲ生セシメタル事實ヲ判示シアル以上ハ其傷害ヲ加ヘタル方法用器ノ種類等ヲ說示セサルモ事實理由ノ不備アルモノト謂フヲ得ス

第二點凡ソ傷害ノ事實トシテ二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ハ刑法第二百六條ヲ以テ之ヲ擬スヘキハ當然ノ措置ナリ然ルニ本件上告人等ノ犯行トシテ其傷害事實ヲ認メラレタル原判決ノ理由ニヨレハ（前畧）之ニ喧嘩ヲ仕掛ケタル末被告兩名ハ被告吉治ノ弟タル云云被告鈴木宇宙治ト共同シテ右庄五郎ヲ毆打シ同人ノ右顱頂骨部左側眼窠周圍部左側面部左側耳輪部ニ腫脹ヲ來サシメ爲メニ疾病休業八日ニ至ラシメタルモノトストアリ要スルニ三人共同シテ庄五郎ヲ傷害シタルモノトノ事實ヲ認メラレ居ルコトハ判文上知ルヲ得ヘケレトモ果シテ三人カ同一ノ傷害ヲ加ヘタリト認メタルニモアラス否ナ三人カ不可分的ナル方法ノ下ニ於テ行ハレタル同一傷害ナリト認メンニハ宜シク其レニ相當ナル事實理由ヲ示ササルヘカラス何トナレハ三人カ一齊ナル働掛ケニ於テ同一ノ傷害ヲ加フルコトハ殆ント稀有ノ事實ナルニモ拘ハラス尚其事實アリトセハ之カ理由ヲ說示セサルヘカラサレハナリ然ルニ原判決ハ斯ル主要ナル理由ヲ說示セスシテ漫然三人共同ニ於テ行ハレタル傷害ナリトシタルハ其意

殆ント解スヘカラス或ハ本件ニ於テ原判決カ判示シタル事實ヲ其儘トシテモ刑法第二百四條ヲ適用スヘキモノニアラスシテ其第二百七條ヲ適用スヘキヲ以テ誤ツテ第二百四條ヲ適用シタルニアラサルナキカヲ疑フ若シモ然リトセハ第二百七條ヲ適用スルモノトシテモ所謂傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルモノナリトノ理由ヲ示シテ初メテ第二百七條ヲ當行スヘキモノタリ然ルニ原判決ハ第二百四條ヲ當行シタルハ寧ロ事實ハ之ニ適應セサルヲ奈何セン又第二百七條ヲ適用センカ事實中傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルモノナリヤ否ヤヲ確定セサルヲ奈何セン孰レニシテモ原判決ハ擬律錯誤若クハ事實理由不備ノ瑕瑾アルヲ免ル可ラサル裁判ナリト云フニ在リ◎然レトモ二人以上ノ者カ共同シテ他人ニ暴行ヲ加ヘ其身體ヲ傷害シタル場合ニ於テハ其傷害ハ各人ノ加ヘタル共同的暴行ノ結果ニ外ナラサレハ各犯人ノ加ヘタル暴行及ヒ其結果ノ程度ニ因リテ罪責ヲ分擔スヘキモノニ非ス故ニ原判決ニ於テ被告等カ共同シテ暴行ヲ加ヘ他人ヲ傷害シタル事實ヲ判定シ依テ同一ノ法條（刑法第二百四條）ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ各被告カ同一程度ノ暴行ニ因リ同一程度ノ傷害ヲ生セシメタル事實ヲ判斷セサルモ理由不備ノ違法アルモノニ非ス又刑法第二百七條（論旨ニ第二百六條トアルハ第二百七條ノ誤記ト認ム）ハ二人以上ノ者カ共同的行爲ニ非スシテ各別ニ暴行ヲ加ヘ他人ヲ傷害シ而カモ傷害ノ輕重又ハ傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサル場合ニ對スル規定ニ屬シ本件ノ如キ共同的犯行ノ場合ニハ苟クモ暴行ヲ爲シタル以上ハ傷害ヲ生セシメタルト否ト又傷害ノ輕重ヲ問ハス總テ普通ノ共犯例ニ依ル

判旨第二點

ヘキモノトス然ラハ原判決カ刑法第二百四條ノミヲ適用シ同法第二百七條ヲ援引セサリシハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナキモノト謂ハサルヘカラス

第三點原判決ニ於テ認メラレタル傷狀ニヨレハ右顱頂骨部左側ニ云云腫脹ヲ來サシメタリトアルモ原判決ノ援用ニ係ル原參三ノ診斷書ニ依レハ（一）「右顱頂骨軟部ニ亘ル圓形腫脹ヲ認メ」トアツテ之ヲ原判決理由中ノ所謂右顱頂骨部左側云云腫脹ヲ來タシ云云トノ記載アルヲ見ス（二）眼窠周圍部左側云云腫脹ヲ來シ云云トハ原判決ノ示ス所ナレトモ右ノ診斷書ノ記載ニヨレハ右側眼窠周圍軟部ニ著シキ腫脹ヲ認メ云云トアツテ右ハ眼窠ノ右側ニシテ左側ニアラサルヲ示シ即チ右ト左トノ相違アリ既ニ臓列スル如ク原判決ノ認メタル傷狀ハ證據トシテ援用シタル診斷書記載トハ吻合セサルヤ甚タ明カナリトス然ルニ原判決ハ（前署）原參三ノ診斷書ニ明治四十二年七月二十七日鈴木庄五郎ヲ診査スルニ其身體ニ判示ノ如キ腫脹アリ云云ト說示スレトモ兩ツナカラ相牴觸スルコト彼レカ如シ因テ理由齟齬ノ違法アル裁判ナリト云フニ在リ◎然レトモ原判決ニ於テ判示シタル事實ハ被告等ハ共同シテ鈴木庄五郎ヲ毆打シ同人ノ右顱頂骨部、左側眼窠周圍部、左側面部、左側耳輪部ニ腫脹ヲ來タサシメタリト云フニ在リ而シテ之ニ對スル證據トシテ援用セル原參三ノ診斷書ニハ「一、右顱頂骨軟部ニ云云」「二、左側眼窠周圍軟部ニ云云」「猶ホ左側半顏面及左側耳輪ニ亘ル云云」トアルカ故ニ原判決ニ於テ右診斷書ニ「其身體ニ判示ノ如キ腫脹アル旨ノ記載アリ」ト說示セルハ相當ニシテ所論ノ如ク事實判示ト證據

ノ說示トノ間ニ相牴觸セル違法アルコトナク本論旨ハ洵ニ謂ハレナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事中川一介干與明治四十四年三月十三日大審院第二刑事部

○私書僞造行使ノ件

明治四十四年(れ)第五八號
明治四十四年三月十四日宣告

◎判決要旨

一豫審判事カ證人タル資格ナキ者ニ對シ宣誓ヲ爲サシメ證人トシテ訊問スルハ違法ニシテ其調書ハ無效ナリ

第一審　大阪地方裁判所　第二審　大阪控訴院

被告人　中野廣太郎外一名　辯護人　上村豐　高木益太郎　牧野充安

右私書僞造行使被告事件ニ付明治四十三年十月二十九日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

原判決中有罪ノ部分ヲ破毀シ事件ヲ名古屋控訴院ニ移送ス

理由

各被告辯護人上村豐追加上告理由書第一點原判決ハ被告有罪ノ證據トシテ豫審ニ於ケル證人江藤岩彥ノ調書ヲ援用セラレタリ依テ同人ノ豫審調書ヲ檢スルニ判事ハ刑事訴訟法第百二十三條第百二十四條ニ該當セサルコトヲ認メ宣誓セシメタル旨ノ記載アリ然ルニ證人江藤岩彥ハ刑事訴訟法第百二十四條第五號ニ該當セルコトハ一審第二回公判始末書（四十三年二月二十三日）同人カ本件共同被告トシテノ供述ノ冒頭ニ「前科ナシ但昨年（四十二年）六月中大阪地方裁判所ニ於テ私書僞造詐欺取財罪ニ依リ懲役三年ニ處セラレ目下控訴中ナリ」トノ供述ト本件公訴ノ提起カ明治四十二年六月三十日ニシテ岩彥カ證人トシテ訊問セラレタルハ同年七月三十日又同人カ本件共犯被告人トシテ起訴セラレタルハ同年九月二十日（江藤岩彥被告人トシテ豫審第一回調書前科有無訊問ノ項參照）ナルコトニ徵シテ明瞭ナリ故ニ豫審ニ於テ同人ニ宣誓ヲ命シテ取調ヘタルハ違法ニシテ調書ハ全部無效ニ屬スヘキモノナルニ原院カ之ヲ判決ノ資料ニナシタルハ不法ナリ（江藤控訴公判始末書及身分調書等）尙事實ヲ明瞭ナラシムル爲メ岩彥ニ係ル前記事件ノ記錄取寄相成度ト云ヒ」被告廣太郎辯護人高木益太郎上告趣意書第六點原判決ハ其證據說明ノ部ニ於テ證人江藤岩彥ノ豫審調書（明治四十二年七月三十日附記錄第一五一丁以下）ヲ引用セラレタレトモ同人ハ其訊問當時被告トシテ公判ニ付セラレアリシコトハ第一審第二回公判始末書中「被告岩彥ハ一前科ナシ但シ昨年（四十二年）六月中大阪地方裁判所ニ於テ私

書僞造行使詐欺罪（自働車會社事件）ニヨリ懲役三年ニ處セラレ目下控訴中ナリ」（記錄第六一一丁七行以下）トノ供述記載ニ徵シ明白ナレハ則チ刑事訴訟法第百二十四條第五號ニ依リ證人タルノ資格ヲ有セサルコト勿論ナリ然ルニ之ヲ證人トシテ宣誓ヲ爲サシメ取調ヘラレタル同調書ハ無效ニ歸スヘキモノナレハ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違反スル不法アルモノトスト云ヒ」被告清辯護人牧野充安上告趣意書第六點尙ホ中野廣太郎ノ辯護人ヨリ提出シタル上告趣意各點ノ論旨ヲ後藤清ノ上告趣意ニ援用スト云フニ在リ○仍テ本件記錄ヲ査閲スルニ第一審第二回公判始末書中ニ論旨所揭被告江藤岩彥ノ供述記載シアルノミナラス當院ニ於テ取寄セタル江藤岩彥ニ對スル私書僞造行使詐欺取財被告事件記錄ニ依レハ同人ハ明治四十二年五月三十一日前揭被告事件ニ付大阪地方裁判所ニ於テ有罪ノ言渡ヲ受ケ同年六月三日控訴申立ヲ爲シ更ニ上告ノ結果明治四十三年七月一日該事件ハ終局シタルコトヲ認ムヘク從テ同人カ明治四十二年七月三十日本件ニ付證人トシテ大阪地方裁判所豫審判事ノ訊問ヲ受ケタル當時ハ重禁錮ノ刑ニ該ルヘキ輕罪事件ニ付公判ニ付セラレタル者（刑法施行法第三十條第三項參照）ナレハ刑事訴訟法第百二十四條第五號ニ依リ宣誓ノ上證人トシテ陳述スルノ資格ナキモノナルニ拘ラス同人ヲシテ宣誓セシメタル上證人トシテ訊問シタルハ違法ニシテ所論同人ノ豫審調書ハ無效ナリトス左レハ該調書ヲ證據ニ援用シタル原判決ハ違法ニシテ破毀スヘク叙上辯護人上村豐同高木益太郎ノ各上告論旨ハ理由アリ從テ右論旨ヲ援用シタル辯護人牧野充安ノ論旨亦理由アリ既ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スル以上ハ他ノ論旨ニ付テハ逐一說明ヲ與フルノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事板倉松太郎干與明治四十四年三月十四日大審院第一刑事部

○恐喝取財ノ件

明治四十四年(れ)第一五二號
明治四十四年三月十四日宣告

◎判決要旨

一人ヲ恐喝シテ金圓等ノ如キ有體ノ財物ヲ自己又ハ他人ニ交付セシメタル場合ニハ刑法第二百四十九條第一項ヲ適用スヘキモノニシテ其第二項ヲ適用スヘキモノニ非ス(判旨第二點)

(參照) 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ(刑法第二百四十九條)

一受命判事カ鑑定人ヲ訊問シタル調書ニシテ唯其鑑定ヲ命セシ手續ヲ明カニシタルモノノ如キハ縱令公判ニ於テ之ヲ讀聞ケサリシトテ證據決定ヲ完全ニ施行セサルモノト云フヲ得ス(判旨第十二點)

第一審　大津地方裁判所　第二審　大阪控訴院

被告人　今井六之助外二名　辯護人　(松田波佳作　森田茂藏　櫻井長二郎　荘田要二郎)

右恐喝取財被告事件ニ付明治四十三年十一月二十五日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

原判決中被告六之助喜和藏ニ關スル部分ヲ破毀ス

刑法第二百四十九條第一項ノ適用○證據ヲ要セサル訊問調書

被告六之助ヲ懲役六月ニ處シ被告喜和藏ヲ懲役四月ニ處ス

領置物件ハ各差出人ニ還付ス

公訴裁判費用中第一審ニ於テ生シタル部分ハ被告六之助喜和藏ノ兩名ニ於テ被告甚之助及原審相被告家本辰藏並ニ第一審相被告杉本三藏中川榮藏西川松次郎ト連帶負擔シ原審ニ於テ生シタル部分ハ右兩名ニ於テ被告甚之助及原審相被告家本辰藏ト連帶負擔スヘシ

被告甚之助ノ上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告喜和藏辯護人松波佳作上告趣意書第一點原判決ハ證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタル不當アリ原判決ヲ按スルニ云云同時ニ長松ノ居宇共有山林ニ對スル收益權ヲ剝奪シ且居宇住民ト絶交スル旨ノ決議ヲナシテ之ヲ長松ニ通告シ以テ同人ヲ恐喝シ同人カ大ニ畏怖シタルニ乘シ云云金六十圓ヲ出金セシメ云云ト判示シ其所謂恐喝ナルモノハ收益權ノ剝奪ト住民ノ絶交ニアルモノノ如キモ長松ノ供述ニヨレハ絶交剝奪ハ長松ノ甘受セルモノニシテ其間何等恐喝若クハ畏怖ノ事實存在セサルコトハ其供述自體ニ徵シ明白ニシテ其供述中農業ニ差支ヘ甚タ困難シ居ルトアルモ該供述ハ未タ以テ畏怖ノ念ヲ生シタルモノトノ資料トナスニ足ラスト云フニ在レトモ○本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル證據判斷並ニ事實認定ヲ非難スルニ外ナラサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

第二點原判決ハ擬律ノ錯誤アリ原判決ハ法律適用ノ神頭ニ於テ右被告ノ長松ヲ恐喝シテ金員ヲ交付セシメタル所爲ハ各刑法第二百四十九條第一項ニ該當シ飲食代ヲ支拂ハシメタル所爲ハ各同條第二項第一項ニ該當スル處何レモ一箇ノ所爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ同法第五十四條第一項第十條ニヨリ云云本件ハ一箇ノ恐喝手段ニヨリ數回金員ヲ交付セシメ且ツ不法ニ數名ニ對スル債務ノ支拂ヲ免レタルモノナレハ刑法第五十四條第一項ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノ云云ト判示スルヲ以テ其前段ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノト云フハ一箇ノ恐喝手段ヲ以テ一箇ノ行爲ト見做シタルモノナルコトヲ認メ得ヘシ然レトモ其手段ノ同一ナルコトハ未タ必スシモ一箇ナリト云フヲ得サルノミナラス假ニ之ヲ一箇ナリトスルモ一ツハ現金ヲ交付セシメタルモノニシテ刑法第二百四十九條第一項ニ該當シ一ツハ債務ノ支拂ヲ免レタルモノニシテ同條第二項ニ該當シ其所爲タル全然別箇ノ行爲ニ係ルヲ以テ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノト云フヲ得サルヲ以テ該事實ヲ認定スル以上ハ須ラク刑法第四十七條ヲ適用スヘキモノナルニ同第五十四條第一項ヲ適用シタルハ不當ナリト云ヒ」第三點原判決ハ擬律ノ錯誤アリ原審ハ右第二點ノ如ク被告等カ長松ヲシテ飲食代等ノ支拂ヲナサシメタル行爲ヲ以テ刑法第二百四十九條第二項ニ該當スルモノナリトスモ被告等カ長松ヲシテ被告等ノ債務ニ屬スル負債ノ辨濟ヲ爲サシムルハ長松ヨリ被告等カ現金ヲ受取リ更ニ他ニ支拂ヲ爲スノ煩ヲ避ケ長松ヲシテ被告等ニ代リ他ニ現金ヲ支拂ハシメタルモノナレハ

長松ヨリ現金收受シタルト毫モ異ル所ナケレハ等シク同第二百四十九條第一項ヲ適用スヘキモノナルニ同第二項ヲ適用シ尙同第五十四條第一項ヲ適用シタルハ失當タルヲ免レスト云フニ在リ○依テ原判決ヲ見ルニ「云云明治四十一年十一二月頃云云被告等ハ長松ニ對シ右盜伐木ノ賠償ヲ爲スニアラサレハ六之助ニ於テ告訴スヘキ旨申聞ケ次テ同年十二月中旬頃云云長松ニ對シ同人ノ先代カ二十年前ニ居字ノ谷川ニ土砂ヲ投入シタル爲メ前記三藏松次郎ノ所有田地ニ多大ノ被害アルヲ以テ之ヲ除去スヘキ旨ヲ告ケ同時ニ長松ノ居字共有山林ニ對スル收益權ヲ剝奪シ且居字住民ト絶交スル旨ノ決議ヲ爲シテ之ヲ長松ニ通告シ以テ同人ヲ恐喝シ同人カ大ニ畏怖シタルニ乘シ同月下旬頃云云數回ノ集會ノ爲メ多額ノ費用ヲ要シタルニ付金六十圓ヲ出金スヘク左スレハ絶交ヲ解除シ併テ收益權ヲ回復スヘシト申聞ケ同人ヲシテ金六十圓ヲ出金セシメ又翌四十三年（四十二年ノ誤記ナラン）一月中云云長松カ引續キ畏怖シ居ルニ乘シ尙集會費用金百三圓ヲ出金スヘシト申迫リ該金員ヲ出金セシメ云云且居字集會ノ爲メ要シタル飲食代金合計金十八圓二十錢餘ヲ居字家本鐵之助外數箇所ヘ支拂ハシメ云云」トアリテ即チ原判決事實認定ノ趣旨ハ被告等ハ被害者長松ニ對シテ右判示ノ如ク順次恐喝手段ヲ施シ長松ハ是等恐喝ノ結果遂ニ畏怖ノ念ヲ生シ依テ最初ニ金六十圓次ニ金百三圓ヲ被告等ニ交付シ仍ホ金十八圓二十錢餘ヲ家本鐵之助方外數个所ヘ居字集會ニ要シタル飲食代トシテ交付シタリト云フニ在レハ右被告等ノ行爲ハ要スルニ單一ナル恐喝罪ヲ構成スルモノニシテ數箇ノ恐喝罪ヲ構成スルモノニアラス從テ本

件ニ付テハ所論ノ如ク併合罪ニ關スル刑法第四十七條ヲ適用スヘキモノニアラサレハ原判決カ該法條ヲ適用セサリシハ固ヨリ相當ナルノミナラス本件ニ付右法條ヲ適用スヘキモノナリト云ヘル本論旨ハ畢竟自己ニ不利益ナル事項ヲ主張シテ原判決ヲ攻擊スルモノナレハ適法ナル上告理由トナラスト雖抑モ刑法第二百四十九條第二項ノ規定ハ人ヲ恐喝シテ有體ノ財物ニアラサル財產上ノ利益ヲ自己ニ取得シ又ハ他人ヲシテ之ヲ取得セシメタル場合ニ適用スヘキモノニシテ人ヲ恐喝シテ金員等ノ如キ有體ノ財物ヲ自己ニ交付セシメ又ハ他人ニ之ヲ交付セシメタル場合ニ適用スヘキモノニアラス即チ右後段ノ場合ニハ同條第一項ヲ適用スヘキモノナルコト該法條ノ文理解釋上疑ナキ所ナリ而シテ原判決認定ノ被告等カ恐喝ノ末被害者長松ヲシテ家本鐵之助方外數个所ニ飲食代ヲ支拂ハシメタル行爲ハ所謂人ヲ恐喝シテ有體ノ財物ヲ他人ニ交付セシメタルモノナレハ該行爲ハ被告等カ右長松ヲ恐喝シテ金六十圓及金百三圓ヲ交付セシメタル點ト共ニ合シテ刑法第二百四十九條第一項ニ問擬スヘキモノナルニ原判決ノ擬律茲ニ出テス前記行爲ニ對シ同條第二項ヲ適用シ且其結果右行爲ト金六十圓及金百三圓ヲ自己ニ交付セシメタル行爲トハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルモノトシ刑法第五十四條第一項ヲ適用シタルハ共ニ擬律錯誤ノ不法タルコトヲ免レサルモノニシテ此點ニ關スル論旨ハ結局理由アリ原判決ハ此點ニ於テ破毀セラルヘキ原由アルモノトス

第四點原判決ハ法則ヲ適用セサル不法アリ原審ハ相被告家本辰藏ニ對シ刑ノ執行ヲ猶豫シ刑法第二十

五條ヲ適用セラレタルモ被告及相被告今井甚之助ニ對シ右法則ヲ適用セラレサリシハ失當ナリ蓋シ原審ノ被告等ノ刑ノ執行猶豫ヲ與ヘラレサリシハ當時被告及甚之助ハ居字ノ區長又ハ區長代理者タリシモノナレハ他被告ニ比シ其罪狀重キモノト誤認シタルモノナルヘキモ被告及甚之助ハ身區長又ハ區長代理者ノ職ニ在リタルモ本件ノコトタル大字住民ノナシタル決議ニ基キタルモノニシテ其集會決議ノ如キ被告ノ敢テ左右シ得ル所ニアラス名ハ實ニ區長又ハ區長代理者ナルモ徒ラニ虛信（虛位ノ誤記ナラン）ヲ擁スルノミニシテ自己ノ意見ヲ主張シ得ラルヘキ權力ヲ有セサリシ事ハ一件記錄及押收書類ニ徵シ明白ナルノミナラス該金員ノ如キモ毫モ被告等一個ノ私利ヲ營ミタルモノニアラスシテ集會ノ費用又ハ字協議費ノ補助トナシタルコトモ亦顯著ナル事實ニ屬セリ且長松ヲ絕交シタルハ長松ニ於テ字內多數ノ地所ヲ橫領シ不正ノ行爲多多アルニ拘ラス住民ノ忠告ヲ容レス私利ヲ營ミ爲セルニ起因セルコトモ記錄及ヒ押收書類ニ徵シ殊ニ右不正行爲ハ第二審ノ檢證ノ際ニ於ケル長松ノ自白ニヨリ明確ナリトス左レハ假令被告等ニ判示ノ罪アリトスルモ他被告同樣ノ刑ノ執行ヲ猶豫セラルヘキ情狀存在スルヲ以テ均シク刑法第二十五條ヲ適用セラルヘキモノナルニ原審ニ於テ此事ナカリシハ失當ナリト云フニ在レトモ○刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アリヤ否ヤヲ按シ之カ猶豫ヲ與フヘキヤ否ヤヲ決スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルモノナレハ原院カ被告ニ對シ刑ノ執行猶豫ヲ與ヘサリシヲ不當トシテ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

被告六之助辯護人森田茂上告趣意書第一點恐喝取財罪ハ或手段ヲ用ヒ被恐喝者ヲシテ畏怖ノ念ヲ起シ財物ノ交付ヲ爲サシムルニヨリ成立スルモノナル事ハ明瞭ナリトス而シテ原院判決理由ニヨルトキハ被告六之助ハ前記肩書ノ居字山本長松ニ對シ（中畧）長松カ被告所有ノ居字貫井谷山林ノ立木ヲ盜伐シタリト恐喝シ金員ヲ交付セシメンコトヲ企テ（中畧）前記被告等ハ共謀ノ上明治四十一年十一二月頃被告喜和藏ハ右盜伐事件ノ解決ヲ名トシ自宅又ハ居字清源寺ニ於テ數回字集會ヲ開キ其席上ニ於テ被告等ハ長松ニ對シ右盜伐木ノ賠償ヲナスニ非サレハ六之助ニ於テ告訴スヘキ旨申聞ケ次テ同年十二月中旬頃居字ナル前記三藏方ニ於テ前同樣字集會ヲ催シ同席上ニ於テ長松ニ對シ同人ノ先代カ二十年前ニ居字ノ谷川ニ土砂ヲ投入シタル爲メ前記三藏松次郎ノ所有田地ニ多大ノ被害アルヲ以テ之ヲ除去スヘキ旨ヲ告ケ同時ニ長松ノ居字共有山林ニ對スル收益權ヲ剝奪シ且居住民ト絕交スル旨ノ決議ヲナシテ之ヲ長松ニ通告シ以テ同人ヲ恐喝シ同人カ大ニ畏怖シタルニ乘シ同月下旬頃更ニ前記寺院ニ集會シ長松ニ對シ數回ノ集會ノ爲メ多額ノ費用ヲ要シタルニ付金六十圓ヲ出金スヘク左スレハ絕交ヲ解除シ併テ收益權ヲ回復スヘシト申聞ケ金六十圓ヲ出金セシメトアルヲ以テ見レハ即チ被告等ハ告訴又ハ絕交ノ解除及ヒ收益權ノ回復ヲ恐喝手段トシテ金六十圓ヲ交付セシメタルモノト云ハサル可ラス然ラハ被告六之助カ右山林ノ立木ヲ盜伐シタルニ付キ賠償ヲナスニアラサレハ告訴スヘシトノ申聞ケハ其主張カ權利ノ主張ナリヤ否ヤヲ前提トシテ說明セサル可ラサルニ之カ說明ナキハ裁判ニ理由ヲ付セサル違

法アルモノトス且ツ告訴云云ニ付山本長松カ畏怖心ヲ起シタリトノ認定材料ナキニ恰モ同人カ畏怖心ヲ起シタルモノノ如ク斷定シタルハ矢張リ違法タルヲ免レスト云フニ在レトモ○原判決ハ被告等ニ於テ被害者長松カ所論山林ノ立木ヲ盜伐シタリトノ虚構ノ事實ヲ擧ケ以テ同人ニ對シ告訴スヘキ旨ヲ告ケテ恐喝シタリト云フノ趣旨ニシテ從テ右ハ權利ノ主張ニアラサルコトヲ判斷シタルモノナルコト判文上自ラ明ナルヲ以テ論旨ノ前段ハ理由ナシ又論旨ノ末段ニ付テハ原判決ハ其證據理由ニ掲ケタル各證據ヲ綜合考覈シテ所論ノ事實ヲ認定シタルモノナレハ此點ニ於テ認定ノ資料ヲ欠如スルモノト云フ可ラス此論旨ハ畢竟原院ノ職權ニ屬スル證據判斷ヲ非難スルニ外ナラサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

第二點前第一點ニ援用スル裁判ノ理由ニヨルトキハ被告等カ長松ヲシテ金六十圓ヲ交付セシメタル恐喝手段ハ告訴又ハ絶交ノ解除及收益權ノ回復等ニアルコト明瞭ナルモ次ニ被告等カ四十三年一月中居字家本鐵之助方ニ於テ金百三圓ヲ長松ヨリ交付セシメ仍ホ飲食代金合計金十八圓二十錢餘ヲ家本鐵之助外數个所ヘ支拂ハシメ不正ノ利益ヲ得タリトノ點ニ付テハ單ニ長松カ引續キ畏怖シ居ルニ乘シト說明セルノミニテ如何ナル手段ニヨリ金百三圓ヲ交付セシメタリヤ又金十八圓二十錢ノ支拂ヲ爲サシメタルヤ總テ之ヲ說明セス之ヲ文法上ノ解釋ヨリスルモ前第一點ノ說明ノ如ク金六十圓ヲ以テ告訴ヲナササル事並ニ絶交ノ解除及收益權ノ回復ヲ得タルモノトスレハ更ニ長松カ何故ニ畏怖心ヲ繼續セルヤ又金百三圓ノ交付及合計金十八圓二十錢ノ不當支拂ハ如何ナル必要ニ出ルモノナリヤ其說明ヲ得サレハ此點ニ關スル認定ハ殆ト理解ニ苦シム所トス故ニ此點ニ關シテモ亦裁判ニ理由ヲ付セサル違法アルモノトスト云フニ在レトモ○本論旨ノ理由ナキコトハ前記被告喜和藏辯護人松波佳作上告趣意書第二點第三點ニ對スル說明ノ前段ニ就テ了解スヘシ

被告六之助辯護人櫻井長藏上告趣意書第一點原判決ハ云云金員ヲ交付セシメン事ヲ企テ之ヲ被告喜和藏甚之助長藏及原審相被告杉本三藏中川榮藏西川松次郎等ニ謀リタルニ云云トアリ然レトモ引用ノ證據ノ部ヲ按スルニ喜和藏ニ之ヲ謀リタルノ事實ヲ認メ得ヘキモ其他ノ相被告ニ之ヲ謀リタル事實ノ見ルヘキモノナシ此點ニ關シテ證據ト認定ト相副ハサルノ不法アルモノト思料スト云フニ在レトモ○原判決ハ其證據理由ニ掲ケタル各證據ヲ綜合考覈シテ所論ノ事實ヲ認定シタルモノナレハ原判決ニ所論ノ如キ不法アルコトナク論旨ハ畢竟原院ノ職權ニ屬スル證據ノ綜合判斷ヲ非難スルニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラス

第二點原判決ニハ又「長松カ被告所有ノ居村字貫井谷ノ山林ノ立木ヲ盜伐シタリト恐喝シ金員ヲ交付セシメン事ヲ企テ云云」ト認定セラレアリテ本件ニ於テハ被害者長松カ六之助ノ立木ヲ伐リタルヤ否ヤノ點ハ重要ノ關係アルモノナリ然ルニ此點ニ關シテ原判決カ被告辰藏ノ調書ナリトシテ引用セル證據ハ重要ノ點ニ於テ同人ノ豫審調書ノ記載ト全然相反對シアルヲ見ル今原判決ノ記載ニヨレハ「被告

辰藏ノ豫審調書ニ明治四十一年舊十月上旬山本長松カ自分方ニ來リ今井六之助カ同人所有ノ貫井谷山林ノ立木ヲ自分ノ養父カ伐ツタト申スニ付斷リニ行キタルモ云云」トアルニ關ラス同人豫審調書ノ記載ニハ「同月上旬テアリマシタ私方ニ長松カ貫井谷ノ六之助ノ山ノ木ヲ養父カ伐ツタ夫ヲ斷リニ行ツタケレトモ云云」トアリ右ハ畢竟虛無ノ證據ヲ採リテ斷罪ノ用ニ供シタル不法アルモノナリト思料スト云フニ在レトモ○本論旨ハ結局原院ノ職權ニ屬スル證據判斷ノ非難ニ歸スルヲ以テ適法ナル上告理由トナラス

第三點原判決ハ「云云居字集會ノ爲メ要シタル飲食代金合計十八圓二十錢餘ヲ居字家本鐵之助外數个所ヘ支拂ハシメ不正ノ利益ヲ得タルモノナリ」ト認定セラレタリ然レトモ字集會ニ要シタル飲食代金ハ敢テ上告人等ノ負擔セサル可ラサルモノニアラスシテ字ノ負擔ス可キモノナリ（字ハ私法上ノ權利義務ノ主體タリ得ルモノナリ）或ハ延ヒテ間接ニ負擔スル事トナランモ上告人等ハ直接ノ義務者ニアラス然ラストスルモ是又字住民全體ニ負擔スヘキモノニシテ上告人等若クハ本件被告人ノミニ於テ此全體ノ費用ヲ負擔ス可キモノニアラス若シ然ランニハ此點ニ關シテ何等カノ說明ヲナササル可ラサルモノナリ然ルニ原判決ハ漫然本件飲食代金合計金十八圓二十錢餘ハ上告人等ノ債務ナルカ如ク特ニ全部ヲ上告人等ニ於テ不正ニ利益シタル如ク認定セラレタルハ要スルニ（イ）理由不備ニアラサレハ少クモ（ロ）他人ヲシテ得セシメタル利益迄ヲモ自己ニ得タリト誤認シタルノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原院判旨ニ徵スルニ論旨ニ所謂字集會ハ被告等ニ於テ本件ノ犯罪實行ノ爲メニ之ヲ開催シタルモノニ外ナラサレハ之カ爲メニ生シタル所論ノ費用ハ被告等ノ負擔ニ歸スヘキモノナルコト勿論ナルヲ以テ從テ該費用ハ被告等ノ負擔スヘキモノニアラスト主張シ之ヲ論據トシテ原判決ヲ攻擊スル本論旨ハ毫モ其理由ナキモノトス

第四點原判決ハ本件飲食代金ヲ交付セシメタル所爲ヲ以テ刑法第二百四十九條第二項ノ罪ナリトシ同第五十四條ヲ適用セラレタリ然レトモ同第二百四十九條ニ「財物ヲ交付セシメタル」トノ一句ハ必スシモ恐喝者自身ニ交付セシメタル事ヲ要セス第三者ニ交付セシメタル場合ヲモ廣ク包含スルモノナリ從テ本件ノ如ク山本長松ヲシテ財物ヲ支拂交付セシメタルノ所爲ハ當然同第一項ニ該當スルモノニシテ第五十四條ヲ適用スヘキモノニアラス況ンヤ右支拂ノ一部ハ共犯者ノ一人ニ對シテナサレタルノ事實アルオヤ要スルニ本件ハ第二百四十九條第一項ニ該當スル一箇ノ犯罪ナリト思料スト云フニ在リテ

○本論旨ノ理由アリ從テ原判決ノ破毀セラルヘキモノナルコトハ前記被告喜和藏辯護人松波佳作上告趣意書第二點第三點ニ對スル說明ノ如クナルヲ以テ茲ニ之ヲ援用ス

被告喜和藏辯護人莊田要二郎上告趣意書第一點原判決理由中證據說明ノ部ニ「上揭事實ハ當審第二回公判始末書中證人山本長松供述ノ部ニ云云」トアリテ同調書ヲ斷罪ノ資料ニ供セラレタルモ原審第二回ノ公判ハ第一回公判ト裁判官ヲ異ニセルヲ以テ第二回公判ニ於テハ審理ヲ更新シ公判手續全部最初

ヨリ履行セサル可ラス然ルニ同始末書ニヨレハ「裁判長ハ被告人ニ對シ裁判所ノ構成ニ變更ヲ生シタルニ付更新スヘキ旨ヲ告ケ更ニ審理ヲナシタリ其更新ノ部分ニ付テハ前回公判始末書ニ記載アルト同樣ナリシ」(記錄六六四丁裏面)トアリ文意明晰ヲ欠クノ嫌アルモ要スルニ更新シタル部分ト更新セサル部分トアリテ全部手續ヲ新タニセサリシ事疑ナシ是レ即チ口頭審理ノ大則ニ違反シタルモノニシテ從テ其取調ラレタル證人ノ證言モ亦結局正當ノ手續ニヨリ取扱ヒタルモノト云フヲ得サレハ原判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○所論原院第二回公判始末書記載中「云云更ニ審理ヲ爲シタリ其更新ノ部分ニ付テハ前回公判始末書ニ記載アルト同樣ナリ」トアル其所謂「更新ノ部分」トハ第一回公判始末書ニ記載スル所ノ審理手續全部ヲ指スモノニシテ從テ右第二回公判ニ於テ第一回公判ニ於ケル審理手續ノ全部ヲ更新シタルモノナルコト右第二回公判始末書ノ記載ニ照シ明カナレハ第二回ノ公判手續上何等違法ノ廉ナク從テ右公判ニ於ケル證人山本長松ハ適法ナル手續ニ依リテ取調ヘラレタルモノナレハ其證言ノ適法ナルコト亦辯ヲ俟タサルヲ以テ之ヲ罪證ニ供シタル原判決ハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ

第二點原審公判始末書ニ依レハ明治四十三年四月十八日第二回公判ニ於テ裁判長ハ受命判事ニ臨檢鑑定等ヲ爲サシムルノ決定ヲ言渡シ(記錄六七三丁)受命判事ハ同年五月二十二日該決定ヲ施行セラレタリ(記錄五四一丁)然ルニ該證據調ノ期日ハ裁判長ヨリモ又受命判事ヨリモ被告人及辯護人ニ何等通知ヲ爲サス從テ辯護人柿崎欽吾石野正弘ハ臨檢ノ場所ニ立會フヲ得ス爲メニ訊問ヲ受命判事ニ求メ以テ被告ニ利益ナル證言等ヲ得ルノ機會ヲ逸セシメタルハ辯護權ヲ蹂躪シタルモノニシテ從テ原判決ハ正當ノ手續ニ依リ審理セラレタルモノニ非ス區裁判所ノ公判ニ於テハ檢證處分ヲ爲スニ當リ豫審ヲ經サル事件ニ限リ訴訟關係人ノ立會ヲ要セサル旨ノ法文(刑、訴、二一六)アリテ地方裁判所カ受命判事ヲシテ檢證ヲ爲サシムル場合ニハ右特別ノ規定(刑、訴、二三八)ナキニ徵スルモ臨檢ニ際シ辯護人ニ期日ヲ通知スルヲ要スルモノト信スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法中公判以外ノ訴訟手續タル臨檢ニ付テハ被告人其他辯護人等ノ立會ヲ必要トスル旨ノ規定アルコトナキヲ以テ原院受命判事ノ臨檢ニ際シ所論被告及辯護人ニ對シ其期日ノ通知ヲ爲ササリシモノトスルモ違法トセサルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第三點假リニ前第二點ノ不法ナシトスルモ受命判事ノ施行シタル手續ノ書面一切ヲ公廷ニ顯出スルニ非レハ證據決定ヲ完全ニ施行シタルモノト謂フヲ得ス(御院四十一年(れ)第一五五同年三月二十日判決四十一年(れ)七七三號同年十月二十三日判決)然ルニ本件ニ付受命判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ鑑定人ヲ訊問シタルニ拘ハラス(記錄五七三丁以下)其後ニ於ケル第三回公判廷ニ於テ之ヲ讀聞ケ又ハ指示シタル形迹ナシ此ノ如ク證據決定ヲ完全ニ施行セスシテ爲シタル判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○記錄ニ徵スルニ原院ノ證據決定ニ基キ原院受命判事ノ命シタル所論鑑定人ノ鑑定ニ係ル事項ハ右鑑定

人ノ訊問調書中ニ之ヲ掲ケタルニアラスシテ別ニ鑑定書ヲ以テ之ヲ表示シタルモノナレハ原院公判始末書ニ明ナル如ク原院公判ニ於テ該鑑定書ヲ讀聞ケタル以上ハ右原院ノ證據決定ハ完全ニ施行セラレタルモノト云フヘク受命判事カ所論鑑定人ヲ訊問シタル調書ノ如キハ該調書ニ示ス如ク單ニ同判事カ鑑定人ニ鑑定ヲ命シタル手續ヲ明カニシタルモノニ過キサレハ是等調書ハ右公判ニ於テ之ヲ讀聞ケサリシトテ前記證據決定ヲ完全ニ施行セサルモノト云フヲ得サルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第四點受訴裁判所ハ自ラ證據ヲ取調ヘ之ニ依リ心證ヲ形成スルヲ口頭審理ノ大則トナシ法ニ明文アル場合ニ限リ囑託若クハ受命判事ヲシテ取調ヘシムルコトヲ得ルヤ勿論ナリ然ルニ原審第二回公判ニ於テ原院ハ受命判事ヲシテ臨檢鑑定ヲ爲サシムルノ外「右證據調ノ外必要ト認ムル證據調ヲモ受命判事ヲシテ爲サシムルコト云云」ノ決定ヲ爲シ（記錄六七三丁）受命判事ハ特ニ受命シタル外被告人證人カ訊問等ヲ爲シタリ（記錄五四一丁）此ノ如ク口頭審理ノ大則ニ違反シ爲シタル判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○公判裁判所カ受命判事ヲシテ臨檢處分ヲ爲サシムル場合ニ於テ被告人證人等ノ訊問ヲ爲ス如キ臨檢處分上必要ナル行爲ヲ受命判事ヲシテ臨機ニ行ハシムルコトヲ決定シ受命判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ必要ニ應シ是等訊問ノ手續ヲ爲スコトハ毫モ法律ノ禁スル所ニアラサルヲ以テ原院カ所論ノ如ク證據決定ヲ爲シ且原院受命判事カ所論ノ如ク被告人證人等ノ訊問ヲ爲シタリトスルモ違法トセス從テ原判決モ亦違法ニアラサルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第五點以上ノ外本件共同被告ノ爲メ提出シタル上告趣意ハ當被告人ノ爲メ援用スト云フニ在リテ即チ本論旨ノ一部理由アリテ他ハ理由ナキコトハ各其援用ニ係ル論旨ニ對シテ爲シタル説明ニ就テ了解スヘシ

被告甚之助ハ上告申立ヲ爲シタルモ刑事訴訟法第二百七十八條ノ法定期間内ニ趣意書ヲ提出セス

右ノ理由ナルヲ以テ被告甚之助ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却スヘク被告六之助喜和藏ノ上告ニ付テハ同法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原判決中右兩名ニ關スル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スヘキモノトス依テ原判決ノ認メタル事實ヲ法律ニ照スニ右被告兩名ノ行爲ハ各刑法第二百四十九條第一項ニ該當スルヲ以テ同條項所定ノ刑期範圍内ニ於テ處斷シ領置物件ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ各差出人ニ還付シ公訴裁判費用ハ刑事訴訟法第二百一條第一項刑法施行法第六十七條ニ依リ第一審ニ於テ生シタル部分ハ被告六之助喜和藏ノ兩名ニ於テ被告甚之助及原審相被告家本辰藏並ニ第一審相被告杉本三藏中川榮藏西川松次郎ト連帶負擔シ原審ニ於テ生シタル部分ハ右兩名ニ於テ被告甚之助及右家本辰藏ト連帶負擔スヘキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與明治四十四年三月十四日大審院第一刑事部

○横領監守盜私印盜用官文書僞造行使詐欺取財ノ件

明治四十四年(れ)第一八八號
明治四十四年三月十四日宣告

◎判決要旨

一豫審判事カ一事件ニ付キ宣誓ノ上訊問シタル證人ヲ爾後同一被告人ニ對シテ新ニ訴追セラレタル他事件ニ付キ再ヒ訊問スルニ當リテハ併合審理ニ係ル場合ト雖モ更ニ宣誓セシメサルヘカラス(判旨第九點)

一如上ノ場合ニ於テ豫審判事カ第一ノ起訴事件ニ付テノミ前回ニ引續キ同一證人ヲ訊問スルニ當リテハ更ニ宣誓ヲ爲サシメサルヲ當然トス(同上)

第一審　東京地方裁判所　第二審　東京控訴院

被告人　時枝虎雄　辯護人　(安田要六　高木益太郎)

右横領監守盜私印盜用官文書僞造行使詐欺取財被告事件ニ付明治四十三年十二月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人安田要六上告趣意書第一點原審判決ノ原本ヲ査閲スルニ裁判長判事柳川勝二判事横村米太郎判事中尾芳助判事玉川次致ト順次ニ署名シ其次ニ於テ判事署名スヘキ部分ハ漸クニシテ遠藤ナル姓ヲ讀ミ得ルニ止マリ其名ニ該ルヘキ部分ハ之ヲ文字トシテ解スヘカラサルナリ或ハ公判始末書中判事遠藤某ナル記載ハ唯一ナルニ對照シ之ヲ知リ得ルカ如シト雖モ凡ソ文字ハ我國古來一定ノ書體ノ存スルアリ文字自體カ其書風ニ從テ之ヲ判斷スヘク他ノ關係若クハ符號等ト對照シテ推知シ得ヘキモノニアラサルナリ然ルニ其名ニ該ルヘキ部分ハ書體ヲ爲サス殊ニ其最終部分ハ單ニ釣針形ヲ爲シタル墨痕ト見ルノ外ナキヲ以テ末席判事ノ署名部分ハ遠藤ナル姓ノミヲ記シテ其名ヲ記サヽルモノト云ハサルヘカラス故ニ原審判決ノ原本ハ判事ノ署名ヲ缺如セル違法アルモノナリト信スト云フニ在レトモ◎原院ノ判決原本ヲ査閲スルニ判事遠藤武治ノ署名タルコト疑ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ被告ハ(中畧)其額合計金二百餘圓ヲ驛夫ニ分配セスシテ前記期間内ニ意思繼續シテ數十回ニ擅ニ(中畧)費消シ横領シタリト事實ヲ認定シテ刑法第二百五十二條第一項ノ外連續犯ニ關スル同法第五十五條ヲ適用セラレタリ依テ之カ認定資料タル證憑ヲ檢スルニ被告カ連續シテ數十回ニ消費即チ數十回ノ横領行爲ヲナシタリトノ事實ヲ證明スヘキ證據ハ同判決中一モ存セサルノミナラス諸般ノ證據ヲ綜合スルモ之ヲ發見スルヲ得ス只被告カ數十回ニ金額ヲ委託セラレタリトノ事實ハ之ヲ認メ得ヘシトスルモ此事實ハ直チニ被告カ一箇ノ横領行爲ヲ爲シタリヤ將タ數十箇ノ横領行爲ヲ爲シタリ

ヤノ事實ヲ斷スヘキモノニアラサルナリ左レハ原判決ハ連續犯ノ成立ニ必要ナル數十箇ノ横領行爲アルコトヲ判示シナカラ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明セサルモノニシテ理由不備ノ違法アルモノナリト信スト云フニ在レトモ○原判決ニハ茨田萬藏ノ豫審調書ヲ引用シテ所論ノ判示事實ヲ認メタル理由ヲ説明シテ欠ク所ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ被告ノ犯罪事實ヲ認定スルニ當リ被告ハ(中畧)貨物積卸貨車手押請負人平林政吉ヨリ同人カ毎月新橋運輸事務所ヨリ拂渡ヲ受クル手數料ノ内其四分ノ一ニ相當スル金額ヲ同驛驛夫一同ニ贈與スル爲メ其分配ヲ委託セラレ(中畧)毎月右四分ノ一ニ相當スル金額ヲ平林政吉ヨリ受取リ又ハ同人ニ手數料ヲ拂渡ス際控除シテ之ヲ預リ置キ(中畧)横領シタリト説明シテ被告カ金額占有ノ事實ヲ新橋運輸事務所ヨリ平林政吉カ毎月拂渡ヲ受クル金員中同人ヨリ受取リタル關係ト同人ニ渡ス際預リ置キタル關係トニヨリ之ヲ判示セラレタルヲ以テ占有ノ事實認定ノ根據モ右二ノ場合ニ關スル證據ニヨリ占有ノ基源ニ之ヲ求メサルヘカラス依テ同判決ニ援用セラレタル證據ヲ査閲スルニ平林政吉豫審調書中其請負賃ノ拂渡ハ驛ヘ請求書ヲ差出シテ驛長ヨリ拂渡ヲ受ケ其四分ノ一ヲ驛夫等ヘ贈ルコトトシ一纒トシテ驛長ニ渡シ置キタリ明治四十一年五六月頃以後ハ請負手數料ヨリ控除シテ殘金ヲ拂渡シタル旨ノ供述記載ヲ採用セラレタリ此供述記載ニヨレハ請負手數料ヲ拂渡スヘキモノハ大森驛ナリト認ムルノ外ナシ只同人豫審調書ノ「問(中畧)手押料及積卸手數料ヲ幾ラ鐵道局カラ貰ヒタルカ」ノ記載ヲ援用アリト雖モ其所謂鐵道局トハ何レヲ指セシカ證據ノ全體ニヨルモ之ヲ知ルヘカラサルナリ左レハ原判決ハ新橋運輸事務所ヨリ拂渡スモノノ中ヨリ受取リ又ハ預リタリトノ事實ヲ認定シ乍ラ之ト矛盾セル大森驛ヨリ拂渡スモノナリトノ證據ヲ採用セラレタルモノニシテ被告カ金員ヲ占有シタル事實ノ關係ニ付キ何等ノ證明資料ナシ從テ原判決ハ横領罪ノ構成要素タル占有ノ事實ニ付キ證據ヲ付セラレサルノ違法アリト信スト云フニ在レトモ○手數料ヲ拂渡ス官署ノ新橋運輸事務所ナルコトハ本件ノ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ之ヲ認メタル證據説明ヲ欠クモ被告カ毎月平林政吉ノ受取ル手數料ノ内其四分ノ一ニ相當スル金額ヲ同人ヨリ受取リ又ハ同人ニ手數料ヲ拂渡ス際控除シテ之ヲ預リ置キタル判示事實ノ證據説明ハ間然スル所ナキヲ以テ原判決ハ理由不備ニ非ス論旨ハ理由ナシ

第四點原判決ハ被告ハ委託ノ金額ヲ大森ニ於テ費消シ横領シタリト判示シ犯罪ノ場所カ大森ナルコトヲ認定セラレタルモ同判決中大森ニ於テ費消シタリトノ證據一モナシ故ニ此點ニ於テモ證據ニ因リ認メタル理由ヲ説明セサルノ瑕疵アリト信スト云フニ在レトモ○犯罪ノ場所ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ原判決ニ本件ノ犯所ヲ大森ト認メタル證據説明ナキモ理由不備ニ非ス故ニ論旨ハ理由ナシ

被告上告趣意書ハ要スルニ自己ノ眞實ナリトスル事實關係ヲ縷述シ原院カ助役馬場祐三郎等ノ虚僞ノ申立ニ措信シ以テ無辜ノ被告ヲ横領罪ニ問擬シタルハ服スルコト能ハサル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定及ヒ證據ノ取捨判斷ヲ非難スルニ外ナラサルヲ以テ上告適法

ノ理由トナラス

辯護人高木益太郎上告趣意書第一點原判決ノ認定事實ハ「被告ハ明治三十九年九月頃ヨリ同四十二年六月ニ至ル迄ノ間ニ毎月四分ノ一ニ相當スル金額ヲ平林政吉ヨリ受取リ又ハ同人ニ手數料ヲ拂渡ス際控除シテ之ヲ預リ置キ其額合計金二百餘圓ヲ横領シタルモノナリ」ト云フニアリ然レトモ今證據說明ヲ見ルニ平林政吉豫審調書ノ中ニ「前署時枝驛長ノ就任前ヨリ其手數料ノ四分ノ一ヲ驛夫等ニ茶菓子料トシテ贈ルコトトシ一纏メニシテ驛長ニ渡シ置キタリ時枝驛長就任後モ同樣其金ヲ驛夫等ニ分配スルコトヲ被告ニ話シ置キタリ明治四十一年五、六月頃ヨリ以後ハ其四分ノ一ヲ被告カ請負手數料ヨリ控除シテ殘金ヲ拂渡シタリ(中略)明治四十年十二月以後同四十二年六月マテノ請負手數料六百餘圓ノ拂渡ヲ受ケ其四分ノ一ヲ驛夫ニ分配スル爲メ時枝驛長ニ託シタル事實ハ相違ナシ其四分ノ一ハ計算上百五十圓餘ニ相當スルモノトセハ此ノ金額ハ一昨年(四十年)十二月以降驛長ニ託シタルモノニ該當スル旨」トアルノミ之レニヨリテ見レハ少クモ明治四十年十一月以前ハ被告カ果シテ驛夫等ニ分配スヘキ金額ヲ占有セシモノナルヤ否ヤ全ク不明ナリ而シテ此點タル横領罪ノ成立スルヤ否ヤノ繫カル重要ナル點ナルニ原判決ハ之レヲ明カニスル何等ノ證據說明ヲナササルハ是レ明ニ違法ナルモノト信ス」ト云フニ在レトモ○本件カ判示ノ如ク明治三十九年九月頃ヨリノ連續犯タルコトニ付キテハ原判決ハ平林政吉ノ豫審調書ノミナラス茨田萬藏ノ豫審調書ヲモ引用シ之ヲ綜合シテ其事實ヲ認メタル理由ヲ說明シタルモノナルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ其事實理由中「同人カ毎月新橋運輸事務所ヨリ拂渡ヲ受クル手數料ノ內云云」ト判示セラレタレトモ今之レニ對スル證據說明ノ部ヲ通覽スルニ之レニ該當スル說示トシテ見ルヘキモノハ只平林政吉豫審調書(記錄二七六丁以下)中「手押料及ヒ積卸手數料ヲ幾ラ鐵道局カラ貰ヒタルカ云云」ノ記載アルニ止マリ毫モ判示認定ノ如ク新橋運輸事務所ヨリナル旨ノ證據說明ノアルナシ果シテ然ラハ原判決ハ虛無ノ證據ヲ以テ罪證トナセルカ又ハ理由ト證據ト相符合セサルノ違法アルヲ以テ當然破毀セラルヘキモノナリト信スト云フニ在レトモ○其理由ナキコトハ辯護人安田要六上告趣意書第三點ニ對スル說明ニ就キ了解スヘシ

第三點原判決事實ノ認定ニヨレハ「被告ハ大森驛長在職中同驛貨物積卸貨車手押請負人平林政吉ヨリ(中略)同人ニ手數料ヲ拂渡ス際控除シテ之ヲ預リ置キ其額合計金二百餘圓ヲ驛夫ニ分配セスシテ前記期間內ニ意思繼續シテ數十回ニ擅ニ大森ニ於テ費消シ横領シタルモノナリ」ト判示セラレタルモ其證據說明ニ就キ精査スルモ被告カ前記期間(明治三十九年九月頃ヨリ同四十二年六月ニ至ル迄)內ニ意思繼續シテ數十回ニ消費シタル事實並ニ大森ニ於テ消費シタル事實ヲ發見スルコトヲ得ス然ラハ原判決ハ事實認定ノ證據ヲ示ササル違法アリトスト云フニ在レトモ○所論ノ連續犯ノ事實ハ原判決ノ證據說明ニ依リ原院カ其事實ヲ認メタル理由明白ナルヲ以テ論旨ハ理由ナク而シテ消費ノ場所ニ付キテノ

論旨ノ理由ナキコトハ辯護人安田要六上告趣意書第四點ニ對スル說明ニ就キ了解スヘシ

第四點被告ニ對シ檢事ハ明治四十二年六月二日横領監守盜ノ犯罪事實ニ付キ起訴シ而シテ該事件ノ豫審ニ於テ同年六月二十三日平林政吉ヲ證人トシテ訊問シタリ然ルニ其翌日即チ六月二十四日檢事ハ更ニ被告ニ對シ私印盜用官文書僞造行使詐欺取財罪ニ付キ追起訴ヲ爲シタルニ拘ハラス同年八月二十日右政吉ヲ被告ノ第一第二起訴事實ノ豫審ニ於ケル證人トシテ訊問スルニ當リ更ニ刑事訴訟法第百二十三條ノ關係ノ有無ヲ訊問シテ民事原告人タルヤ否ヤ及ヒ其他ノ關係ノ有無ヲ確メス且ツ第二起訴事件ニ付キ宣誓セシメス直ニ證人トシテ訊問シタル違法アルニ原判決ニ於テ該訊問調書ヲ證據トシテ援用シタルハ無效ノ調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト云フニ在リ◎按スルニ豫審判事カ一事件ニ付キ宣誓ノ上訊問シタル證人ヲ爾後同一被告人ニ對シテ新ニ訴追セラレタル他ノ事件ニ付キ再ヒ訊問セントスルニハ假令併合審理ニ係ル場合ト雖モ更ニ宣誓セシメサルヘカラサルヲ以テ證人平林政吉ノ第二回豫審調書ニシテ所論ノ如キ事實ナリトセハ論旨ハ寔ニ理由アリト云ハサルヲ得ス依テ該調書ヲ査閲スルニ其冒頭ニハ被告人時枝虎雄横領監守盜私印盜用官文書僞造行使詐欺取財事件ニ付キ前回ニ引續キ證人ニ對シ訊問ヲ爲スコト左ノ如シトアリテ宛モ第二ノ訴追事件ニ付キテモ亦證人トシテ訊問ヲ爲シタルカ如ク見ユルモ翻テ其内容ヲ精査スレハ第二ノ訴追事件ニ付キテハ全然沒交渉ニシテ第一ノ起訴事件ニ付キテノミ前回ニ引續キ證人トシテ訊問シタルモノナルコト極メテ明白ナリ左レハ更ニ宣誓ヲ用ヒサリシハ當然ニシテ從テ該調書ハ無效ニ非サルヲ以テ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニ非ス論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與明治四十四年三月十四日大審院第一刑事部

○有價證券僞造ノ件

明治四十四年(れ)第七一號
明治四十四年三月十六日宣告

◎判決要旨

一刑事訴訟法第五十七條ハ其第二號ニ所謂其他ノ物件ニ付キ何等限定スル所ナケレハ苟モ犯罪行爲ヨリ生シタル物件其モノヲ携帶セルニ依リ現ニ犯人タルコトヲ確認スルニ足ル以上ハ既知ノ犯罪ニ非サルモ同條所定ノ准現行犯ト爲スヲ相當トス

(參照)重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身體、被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ(刑事訴訟法第五十七條第二號)

准現行犯手續ノ條件

第一審　名古屋地方裁判所　第二審　名古屋控訴院

被告人　堀田惣太郎　辯護人　高木益太郎

右有價證券僞造被告事件ニ付明治四十三年十二月十七日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人高木益太郎上告趣意書第一點本件ハ被告カ僞造約束手形ヲ所持シ居タリトノ故ヲ以テ之ヲ准現行犯トシテ取扱ハレタレトモ抑モ刑事訴訟法第五十七條第二號ノ所謂「兇器賍物其他ノ物件ヲ携帶シテ犯人ト思料スヘキトキ」トハ必スヤ曩キニ或一定ノ犯罪アリシコト明カニシテ且其携帶物件カ之ニ相應スルヲ以テ則チ既知ノ犯罪ハ此者ノ所爲ナリト推認シ得ヘキ場合ナラサルヘカラス然ルニ本件ノ約束手形ハ明治四十三年八月三日ニ僞造完成シ爾來自己ノ手裡ニ收メ居リテ何人モ之レカ犯行アリシコトヲ確知セサリシニ其後九月二十七日ニ至リ偶然ノ事由ニ依リ初メテ發覺シタルモノナレハ之レヲ以テ准現行犯ナリトシテ特別處分ノ手續ニ依ル能ハサルハ勿論ナリ果シテ然ラハ本件ニ付キ檢事ハ訊問調書ヲ作成スルノ權限ヲ有セサルヲ以テ原判決カ其證據說明ノ部ニ援用セラレタル被告ニ對スル檢事ノ訊問調書ハ無效ノ書類ナリト云ハサルヘカラス故ニ之ヲ罪證ニ援用シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違反スルモノト信スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第五十七條第二號ニハ兇器賍物其他ノ物件ヲ携帶シ云云犯人ト思料スヘキトキトアリテ同號ニ所謂其他ノ物件ニ何等限定スル所ナケレハ犯罪行爲ヨリ生シタル物件其モノヲ携帶スルニ依リ現ニ犯人タルコトヲ確認スルニ足ル以上ハ既知ノ犯罪ニ非サルモ前示法條ニ規定スル准現行犯ト解スルヲ相當トス故ニ本件ニ於ケル如ク行使ノ目的ヲ以テ他人名義ノ證書ヲ僞造シ之ヲ所持セル者ヲ警察署ニ同行シタル場合ニ於テ巡査カ右僞造證書ヲ發見シ其者ヲ證書僞造ノ犯人ト思料シタルトキハ現行犯人ニ准シ之ヲ逮捕シ司法警察官ニ告發シ得ヘク而シテ右告發ヲ受ケタル司法警察官ハ逮捕及告發ニ關スル調書ヲ作成スルハ違法ニ非ス從テ檢事カ被告惣太郎ヲ准現行犯トシテ訊問シタル調書ハ適法ノモノナルヲ以テ之ヲ罪證ニ供スルモ無效ノ書類ヲ採用シタルモノト云フヲ得ス本論旨ハ理由ナシ

第二點檢事又ハ司法警察官ハ現行犯又ハ准現行犯事件ニ付犯所ニ臨檢シタル場合ニ限リ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ本案ノ如ク巡査ノ搜査報告ニ基キ被告カ任意ニ門前町警察署ニ巡査ト同行シタル場合即チ純然タル非現行犯事件ニ付司法警察官カ逮捕告發代用調書ナルモノヲ作成シタルハ違法ナルノミナラス固ヨリ犯所臨檢ノ處分ヲ施シタルコトナキヲ以テ現行犯處分ノ手續ニ據ルコトヲ許ササルハ勿論ナルニ檢事カ堀田惣太郎ニ對シ之ヲ現行犯事件ト看做シ其訊問調書ヲ作成シタルハ越權ノ處分ニ依ル無效ノ書類ナリ故ニ之ヲ原判決カ罪證ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レト

モ◎司法警察官カ本件ニ付キ作成シタル逮捕及告發調書ノ不法ノモノニ非サルコトハ前項論旨ニ於テ說明スル所ノ如シ而シテ檢事ハ司法警察官ヨリ准現行犯ノ被告人ヲ受取リタルトキハ假豫審ノ處分ヲ經タルト否トヲ問ハス被告人ヲ訊問スルコトヲ得ルハ刑事訴訟法第百四十八條第二項ノ規定ニ依リ明ニシテ又所論訊問調書ハ右條項ニ依リ檢事ノ訊問ノ上作成セラレタルモノナルコトハ記錄上自ヲ明ナレハ該調書ヲ罪證ニ供スルモ無效ノ證據ヲ採用シタル不法ノ裁判ニ非ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十四年三月十六日大審院第二刑事部

○傷害致死ノ件

明治四十四年(れ)第二〇三號　明治四十四年三月十六日宣告

◎判決要旨

一共犯ニ關スル總則ハ過失犯ニ適用スヘキモノニ非サレハ二人以上ノ者カ共同的過失行爲ニ因リテ他人ヲ死ニ致シタル事實ニ付キ刑法第六十條ヲ適用セサリシハ相當ナリ

第一審　名古屋地方裁判所　第二審　名古屋控訴院

被告人　內藤友吉外一名　辯護人　後藤文一郎

右傷害致死被告事件ニ付明治四十三年十二月十九日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告等ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告兩名辯護人後藤文一郎上告趣意書第一點原判決ハ被害者市川庫三郎カ酒氣ニ乘シテ上告人兩名ニ對シ暴言ヲ吐キ暴行ヲ加ヘタルヨリ本件ノ生シタルコトヲ認メラレナカラ且其證據トシテ引用セラレタル被告內藤友吉都築熊次郎ノ豫審調書中其事實ノ明カナルヨリ刑法第三十六條若クハ第三十七條ノ適用ヲ爲シテ無罪ノ判決ヲ與フルカ少クモ同法第六十六條及第二十五條ヲ適用シテ其刑ノ減輕及執行猶豫ヲ與フヘキモノナルニ右刑法第三十六條若クハ第三十七條ハ勿論第六十六條第二十五條ノ適用ヲモ爲ササリシハ刑事訴訟法第二百六十八條第二項ノ所謂法則ヲ適用セサル違法ノ判決ナリト云フニ在リ◎然レトモ所論判示事實ハ舊刑法第三百九條ニ「自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス」トアルニ該當スルモ刑法ハ如上ノ規定ヲ設ケス而シテ他人ヨリ不法ノ暴行ヲ受クルモ其侵害急迫ニシテ且自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サル場

合ニ非サレハ刑法第三十六條ニ定ムル緊急防衛行爲ト爲ラス又他人ノ暴行ニ因ル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サル行爲ト雖モ暴行者以外ノモノニ對スルニ非サレハ刑法第三十七條ノ緊急避難行爲ト爲ラス暴行者ニ對シテハ唯前示緊急防衛行爲存在スルノミ故ニ原判決ハ本件犯罪ノ動機トシテ被害者カ被告等ニ對シテ暴行ヲ加ヘ因リテ怒ヲ挑發シタル事實ヲ判示スルノミニシテ緊急防衛行爲又ハ緊急避難行爲ヲ構成スヘキ事實ヲ判定セサルヲ以テ刑法第三十六條若クハ同法第三十七條ヲ適用セサルハ當然ナリ而シテ酌量減輕スルト否ト又刑ノ執行ヲ猶豫スルト否トハ一ニ事實裁判所ノ職權ニ屬スルヲ以テ之ヲ論難シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

第二點原判決ノ所謂暴言ヲ吐キ暴行ヲ加フルニ逢ヒ云云トノミノ判示ニテハ未タ以テ刑法第三十六條第一項若クハ第三十七條ノ初段ニ該當スルモノナルヤ否分ラストセンカ右兩法條中ノ已ムヲ得サルニ出テタル行爲ナルヤ否ヤノ分ラサル所謂理由不備ナルモノニテ刑事訴訟法第二百六十九條第九號ノ裁判ニ理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ原判決ノ判示セル事實ハ全然刑法第三十六條若クハ第三十七條ノ場合ニ該當セサルヲ以テ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ナリヤ否ヤヲ判定スヘキ事實ノ說示ナキハ當然ナリ本論旨ハ謂レナシ

第三點刑法第二百七條ノ二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルトキハ共犯ノ例ニ依ルトアレハ刑法第六十條ノ共犯ノ法條ノ適用明示ヲ要スルハ勿論第二ノ所爲ニ付テモ同法條ノ適示ヲ要スルモノナルニ原判決カ該法條ノ援用ヲ爲ササリシハ是亦法則ヲ適用セサル違法ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ原判決中第一判示事實ニ據レハ被告等ハ共謀ニ出テスシテ同時ニ他人ニ對シテ暴行ヲ加ヘ因テ之ヲ傷害シ而シテ其傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルモノナレハ刑法第二百七條ニ從ヒ共犯ノ例ニ依リ處斷スヘキモノニ該當ス故ニ原判決ニ於テ第一判示事實ニ付キ同條及第二百四條ヲ適用シ共犯ヲ以テ被告等ヲ論セル以上ハ判文上共犯ニ關スル同法第六十條ヲ援用セサルモ違法ニ非ス又第二判示事實ニ據レハ被告等ハ共同的過失行爲ニ因リテ他人ヲ死ニ致シタルモノナレトモ共犯ニ關スル總則ハ過失犯ニ適用スヘキモノニ非サルヲ以テ原判決ニ於テ被告等ノ過失致死罪ヲ處斷スルニ付キ刑法第六十條ヲ適用セサリシハ相當ナリ本論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十四年三月十六日大審院第二刑事部

○收賄ノ件

明治四十四年(れ)第二〇七號
明治四十四年三月十六日宣告

◎判決要旨

一舊刑法第二百八十四條第二項ニ所謂因テ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキトハ積極的不正行爲ヲ爲シタル場合ノミナラス當然爲スヘキ事ヲ爲ササル消極的行爲ヲモ包含スルモノトス

(參照)官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ(舊刑法第二百八十四條)

第一審　福島地方裁判所　第二審　宮城控訴院

被告人　木村新平

右收賄被告事件ニ付明治四十三年十二月二十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告上告趣意書第一點本件ノ起訴ハ被告カビスケット一箱及金二十圓ヲ收賄シタリト云フニ止マリ其收賄ノ結果不正ノ處分ヲ爲シ若クハ爲スヘキ行爲ヲ爲ササリシ點ニ付テハ起訴ナシ然ルニ原判決ニ於テ職務上相當ノ行爲ヲ爲ササリシモノナリト判定シ舊刑法第二百八十四條第二項ヲ適用セルハ不法ナリト信スト云フニ在レトモ◎檢事起訴狀ニ被告ニ對スル犯罪事實ハ司法警察官意見書記載ノ通リトアリ該意見書ニ被告カ收賄ノ後權太カ伐採期限後尙伐採スルヲ默許シ居リタル事實ノ記載アルヲ以テ被告カ收賄ノ結果其職務上爲ササルヘカラサル行爲ヲ爲ササリシ事實ノ起訴アリタルモノナレハ原院ニ於テ被告ノ行爲ニ對シ舊刑法第二百八十四條第二項ヲ適用シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ニ於テハ被告ハ「故ラニ同國有林ヲ巡視セスシテ之ヲ看過シ以テ職務上相當ノ行爲ヲ爲ササルモノナリ」トノ事實ヲ認定シ之ニ對シ舊刑法第二百八十四條第二項ヲ適用セルハ不法ナリト信ス何トナレハ同條第二項ニハ「因テ不正ノ處分ヲ爲シタルトキハ」トアリテ積極的不正行爲ヲ爲シタル場合ニ限リ不行爲ノ場合ハ包含セサルヲ以テナリ現ニ刑法第百九十七條第一項ニ「因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキ」ト規定セルニ徵スルモ舊刑法ニ於テハ消極的不行爲ヲ包含セサルコト明瞭ナルヲ以テナリ即チ原判決ハ擬律ノ錯誤アルモノニ外ナラスト云フニ在レトモ◎舊刑法第二百八十四條第二項ニ所謂因テ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキトハ獨リ積極的不正行爲ヲ爲シタル場合ノミナラス當然爲スヘキ行爲ヲ爲ササル消極的行爲ヲモ包含スヘキモノニシテ其法意ハ刑法第百九十七條ト異ナル所ナケレハ原院ハ所揭ノ事實ヲ認メ被告ヲ舊刑法第二百八十四條第二項ニ問擬シタルハ

擬律錯誤ニアラス論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十四年三月十六日大審院第二刑事部

○横領詐欺ノ件

明治四十四年(れ)第二〇九號　明治四十四年三月十六日宣告

○判決要旨

一公務員カ其職務上保管スル物件ハ縱令職務ヲ免セラレタル場合ト雖モ事務引繼ヲ爲シタル後ニ非サレハ之カ保管ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス從テ其事務引繼ヲ爲スニ當リ該物件ヲ横領シタル所爲ハ刑法第二百五十三條ノ所謂業務上占有スル他人ノ物ヲ横領シタルモノニ外ナラス

(參照)業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(刑法第二百五十三條)

第一審　大阪地方裁判所　第二審　大阪控訴院

被告人　伊藤晃　外三名　辯護人　内藤正剛

右横領詐欺被告事件ニ付明治四十三年十一月二日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告晃上告趣意書第一點原審第二回公判始末書ニ依レハ裁判長ニ於テ次回公判期日ヲ指定セラレタルハ當被告ノ辯護人岸本辯護士ノ退廷後ニ係ルコト明白ナリ故ニ其裁判長ノ指定ヲ了知セサル同辯護人ニ對シテハ更ニ適式ノ呼出狀ヲ以テ期日告知ヲ爲ササルヘカラサルハ勿論ナルニ原院カ其手續ヲ爲スコトナク從テ同辯護人ノ出頭ナキニ拘ハラス第三回ノ公判ヲ終了シタルハ刑事訴訟法公判ニ關スル條規ニ背キタル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○因テ原院第二回公判始末書ヲ査スルニ「岸本辯護人ハ被告晃ノ爲メニ利益ナル辯論ヲ爲シタリ被告晃ハ奥宮辯護士(被告隆造辯護人)ヲ其辯護人ニ選任シ奥宮辯護士ハ承諾シタリ岸本辯護人退廷」ト記載シアルニ依レハ岸本辯護人ハ既ニ被告晃ノ爲メニ辯論ヲ爲シ他ニ辯論スヘキコトナキモ本件ハ重罪ナルカ爲メ結審ニ至ルマテ辯護人ノ立會ヲ要スルヲ以テ被告ヲシテ更ニ奥宮辯護士ニ辯護ヲ依頼セシメ自己ハ閉廷ニ先チテ退廷シタルモノナルコト洵ニ明ナ

リ而シテ第三回公判始末書ヲ査スルニ奥宮辯護人ノミナラス第二回公判ニ缺席シタル被告晃ノ辯護人武内作平モ出廷セル旨記載シアルヲ以テ岸本辯護士ニ對シ呼出狀ヲ發シ第三回公判ノ期日ヲ告知セサリシトスルモ毫モ公判手續ニ違背スル廉アルコトナシ故ニ本論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ其證據理由ノ末尾ニ於テ「尙ニ檢第一號同第七號同第九號乃至同第十一號ノ現存スルトヲ綜合考覈シ云云」ト說明シ檢事領置ノ書類ヲ犯罪事實認定ノ資料ニ供セラレタリ然ルニ原審公判始末書ニハ「裁判長ハ云云押收ノ各證據物件ヲ示シ云云」トアルモ檢事領置ノ書類ヲ示サレタル事蹟ナシ或ハ領置モ亦押收ノ一種ナリト說クモノアリト雖モ押收ナル語ハ刑事訴訟法上謂フ所ノ差押ト同意義ニシテ差押ハ犯罪ノ證據トナルヘキ又ハ沒收ニ係ルヘキ物件ヲ强制ヲ以テ裁判所ノ管理ニ移ス爲メノ命令ニ外ナラサルカ故ニ檢事ノ領置ハ押收ノ一種ニアラサルコト明ナリ然ラハ則チ原判決ハ被告人ニ示シ意見辯解ヲ聞カサル證據ヲ斷罪ノ資ニ供シタルモノニシテ刑事訴訟法第百九十八條第二項ニ背キタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ◎押收ナル用語ニハ差押及領置ノ意義ヲ包含スルコトハ當院判例ニ於テ屢次示ス所ナレハ本論旨モ亦理由ナシ

第三點右ノ如ク原判決ハ檢第七號同第九號乃至第十一號ヲ以テ本件犯罪事實認定ノ證據ニ供セラレタリト雖モ原判決ヲ通覽スルニ其何レノ部分ニ於テモ檢第七號及同第九號乃至第十一號ノ內容ヲ明示セラレタルコトナク又少クトモ此等ノ證據ニヨリテ原院ノ解釋セラレタル趣旨ヲ示サレタルコトナシ故ニ其證據ハ如何ナルモノニシテ本件犯罪事實ノ何レニ如何ナル關係ヲ有スルヤ得テ知ルコト能ハス即チ原判決ハ唯證據ノ題目ヲ掲記シタルニ止マリ其證憑カ犯罪ヲ證明スルニ足ルヘキ理由ヲ明示セサルモノニシテ刑事訴訟法第二百三條ニ背戻スル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ◎原判決ニ援用シタル證人伊佐壽ノ豫審調書ノ摘示ニ依レハ檢第七號及同第九號乃至第十一號ハ何レモ原判決第二、第三及第四ニ認メタル虛僞ノ請求書及領收證ナルコトヲ認ムルニ足ルヲ以テ證據ノ內容及立證ノ趣旨共ニ明ナレハ本論旨モ亦理由ナシ

同上告趣意追加書ハ前ニ提出シタル趣意書ノ理由ノ外相被告田村重成安藤隆造中村市松ニ關スル上告理由中當被告人ニ共通スヘキモノハ總テ之ヲ引用スト云フニ在ルヲ以テ其理由ナキコトハ左記各說明ニ就テ了解スヘシ

被告重成、隆造、市松辯護人內藤正剛上告趣意書第一點原審公判始末書ヲ閱スルニ被告安藤隆造ニ對スル辯護人（奥宮辯護士）ニ辯護權ヲ行使セシメタル事蹟ナシ果シテ然ラハ原判決ハ辯護權ノ行使ヲ爲サシメスシテ審理終結シタル違法アリ（公判始末書參照）ト云フニ在リ◎因テ原院公判始末書ヲ査スルニ奥宮辯護人カ辯論ヲ爲シタル事蹟ナキコトハ論旨ノ如クナルモ他ノ辯護人ニ於テ順次辯論ヲ爲シタル形蹟ニ徵スレハ原院カ奥宮辯護人ニ對シ辯論ヲ爲スノ機會ヲ與ヘタルコト毫末ノ疑ナキヲ以テ奥宮辯護人カ辯論ヲ爲ササレハトテ辯護權ノ行使ヲ爲サシメナルモノト謂フヲ得ス故ニ本論旨モ亦理

由ナシ

第二點安藤隆造田村重成中村市松等ハ他ノ被告伊藤晃等ト共謀シ夫夫犯行ヲ爲シタルモノトシ主犯晃ノ業務ニ關シ原判決ハ「被告晃ハ元大阪市書記ナリシカ明治四十二年七月三十一日大阪市北區ノ大火災ニ關シ……同年八月十七日大阪市參事會ヨリ其倉庫係主任ヲ命セラレ其後罹災者ニ右寄贈品ヲ配給スル事務ヲモ一任セラレ……其ノ業務ニ從事中各自左ノ犯罪ヲナシタルモノナリ……」ト確定シ（判示）第五ニ「晃ハ明治四十二年十一月二十九日倉庫主任ヲ免セラレ後任者タル和住秀三郎ニ事務引續ヲ爲スニ當リ倉庫ニ於ケル……物品……ヲ擅ニ横領センコトヲ企テ……」云云被告隆造市松ハ晃ト相謀リタルモノトセラレタリ而シテ其刑ノ適用モ亦刑法第二百五十三條ナリ然レトモ原判決ハ其前提ニ於テ晃カ倉庫主任トシテ其業務ニ從事中犯罪アリタルモノト一面ニ事實ヲ確定シ乍ラ他ノ一面ニ於テハ免職後判示第五ノ犯行アリタルモノトセルハ明ニ理由ノ齟齬アルモノニシテ又業務中ノ犯罪ト業務外ニ詐欺ノ手段ニ基キ騙取シタル犯行トハ事實並法ノ適用ニ於テモ同一價値ニ見タルヤノ違法アリ從テ被告隆造市松ニ對シテモ亦判示事實如何ガ影響ヲ及ホスヘク犯罪構成要素ノ重要ナル點ニ關シ不備アルヲ免レスト云フニ在レトモ◎公務員カ其職務上保管スル物件ハ縱令職務ヲ免セラレタル場合ト雖モ後任者ニ對シテ事務引繼ヲ爲シタル後ニアラサレハ之カ保管ノ責ヲ免カルル能ハサルヲ以テ其事務引繼ヲ爲スニ當リ保管ノ物件ヲ横領スルニ於テハ刑法第二百五十三條ニ所謂業務上占有スル他人ノ物ヲ横領シタルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ原院カ其判決第五ノ事實ヲ認メ之ニ對シ刑法第二百五十三條ヲ適用シタルハ正當ニシテ理由ノ齟齬若クハ擬律錯誤ノ違法アルコトナシ

第三點原判決中被告晃カ倉庫係主任トシテ業務ニ從事セシヤヲ認定スヘキ資料「證人宮島茂次郎豫審訊問調書ニ……被告晃ハ其倉庫主任トナリ……寄贈品ノ保管ヲ爲スノ職務ナリシカ其後罹災民ニ寄贈品ヲ配給スル事務モ右倉庫係主任ニ一任シタル旨」供述記載アリト判示スレトモ右豫審調書ニハ寄贈品配給事務ヲ倉庫係主任ニ一任セシ旨ノ供述錄取ナシ果シテ然ラハ配給事務ニ關シ虚無ノ證據ニ基キ責格ヲ確定シ其結果ヲ本上告人ニ對シテ判定シタルハ違法アルヲ免カレスト云フニ在レトモ◎證人宮島茂次郎ノ豫審調書ヲ閲スルニ「伊藤晃ハ其倉庫係主任トナリ居タルモノニテアリマス倉庫係ハ主トシテ寄贈品ノ保管ヲ爲ス職務ナリシカ其後調査部ニ於テ寄附金ハ云云又寄贈品ハ云云一定ノ袋ニ詰メ之レヲ罹災民ニ配給スル事トシ其袋ニ詰メ込ム事ハ總テ倉庫係主任ニ一任シ主任ノ手ニ於テ相當ニ其額ヲ定メ倉庫係ノ吏員カ人夫ヲ使用シテ之レヲ爲ス事ト爲リ居リマシタ」トアルヲ以テ本論旨ハ謂ハレナシ

第四點原判決ハ其證據理由ニ於テ他ノ被告晃ノ第一審公判始末書ニ……「五十四圓ノ流用ニ付テハ田村ヨリ市松ニ談シアリテ右金員ヲ慰勞會費ニ宛テタリ」……ト有之旨判示シ又前記始末書同一人ノ供述トシテ「……三圓四十四錢ノ過剩金生シタルヨリ……文具類ヲ買フコトニ相談シタルカ……吉田ハ

文具屋ニシテ……同人ニ對シ……都合上請求書及領收證丈ヲ差出シ呉レト云ヒ受取リタルカ右件ニ付テハ「安藤」ニ金カ餘ル故文具代トシテ精算シテハ如何トノ話ヲナシタリ」ト有之旨復判示シ同人ノ原審公廷ニ於ケル供述ニモ「四十二年十一月初旬頃中村市松ニ請求セシメタル五十四圓ノ人夫賃ハ吏員ノ慰勞會費ニ流用シタルカ此件ニ付テハ田村書記モ了知セリ」……ト供述有之旨此亦判示セラルレトモ以上ノ諸點ニ關シテハ此カ錄取供述ノ見ルヘキモノナシ然ラハ虛無ノ證據ヲ採リテ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アリ又證人吉田豐熙ノ豫審訊問調書ニハ「本月（十二月）四日市役所ニ文具類賣却ノ爲メ行キ居タルニ給仕カ至急檢査課ニ來リ呉レトノ事ナリシ故行キタルニ伊藤書記宛ニテ直ニ印判ヲ差出スヘシトノ事ナリシニ依リ云云」ト有之モ原判決ニハ伊藤書記「居ラレ」……供述アリト爲シ給仕ノ供述カ伊藤書記ノ供述ト看做サレタルハ明ニ採證ノ文意ニ齟齬アル證據ニ因リテ判決ヲ爲シタル失當アルヲ免レスト云フニ在リ○因テ第一審第一回公判始末書ヲ査スルニ其第十八葉ニ「問流用ノ事ハ市松ニ話シタルヤ、答五十四圓ハ田村ヨリ云云市松ニ注文シタリ、問其金ハ市松ニハ如何ニ使用スルト云ヒシカ、答最初ノ五十四圓ハ田村等ヨリ慰勞會ヲ開キ呉レトノ請求アリシモ金ナシ云云其金ハ慰勞會費ニ充テ終ニ人夫ハ使用セス」トアリ其第二十一葉及第二十二葉ニ「問第三ニ付テハ安藤モ關係セルヤ、答同人ハ云云第四市長ヨリ假渡金ニ付精算シタルニ三圓四十四錢ノ過剩金生シタリ依テ其殘金ニ相當スル文具類ヲ買フコトニ相談シタルカ精算ヲ迫マラレ居ルニ付吉田ハ文具屋ニシテ毎日市役所ニ出入シ居ルヲ以テ同人ニ對シ品物ハ何ニテモ後ヨリ宜敷精算上ノ都合アル故請求書及領收證丈ヲ差出シ呉レト云ヒ受取リタリ、問夫レモ安藤ト共謀ノ上ナルカ、答別ニ共謀ト云フ譯ニハアラサルモ金カ餘ル故文具代トシテ精算シテハ如何トノ話ヲシタルモ實際文具ハ買ハス云云」トアリ原院第一回公判始末書ヲ査スルニ其第十二葉ニ「問右ノ中人夫賃五十四圓ノ分ハ慰勞會ニ使用セシカ、答左樣ニス夫ハ田村ト慰勞會ノ費用ニ付相談シタルニ同人ハ中村ニ賴ンテ人夫賃トシテ請求書領收證ヲ出サシメテハ如何ト申シタル故左樣致シタノテアリマス夫ハ四十二年十一月初旬ノ事テアリマス」トアリ又證人吉田豐熙ノ豫審訊問調書ヲ査スルニ其二葉及三葉ニ「然ルニ本月四日市役所ニ文具類賣却ノ爲メ行キ居リタルニ給仕カ至急檢査課ニ來リ呉レトノ事ナリシ故行キタルニ伊藤書記居ラレ直ニ印判ヲ差出スヘシトノ事ナリシニヨリ云云」トアリテ何レモ原判決ノ摘示ニ符合スル記載アリ本論旨ハ要スルニ書類調査ノ粗漏ニ基クモノニシテ理由ナシ

第五點原判決ニハ第一審第一回公判始末書中晃、市松兩被告ノ供述ヲ證憑トセラレアルモ被告中ノ田村重成ニ對スル第一審第一回公判ハ四十三年三月三十一日ニシテ他ノ被告ハ同年二月二十八日ヲ第一審第一回公判トセラレアリテ被告重成ニ對シ公訴事實ニ付檢事ノ陳述アリタルモ三月三十一日ナリトスルヲ以テ原審カ所謂一審公判始末書ハ（此時他ノ三名即晃、市松、隆造ノ各被告ノ事件カ併合セラレ審理セラレタルコトハ記錄上明ナルコトニ屬セリ）重成ニ對シテハ一ノ別件書證ニ過キス然ルヲ被

告重成ニ對シテモ公判審理ノ一部ヲ爲ス如ク之ヲ同人等ニ對スル始末書トシテ採證シタルハ違法タルヲ免レスト云フニ在レトモ○原判決ニハ「原審第一回公判始末書ニ被告晃ノ供述トシテ云云同始末書ニ中村市松ノ供述トシテ云云」トアリテ之ヲ被告田村重成ニ對スル公判始末書トシテ援用シタルモノト認ムヘキ形蹟アルコトナシ而シテ原院ニ於テハ重成ニ對シ同始末書ヲ讀聞ケ辯解ヲ爲サシメアルヲ以テ之ヲ採テ以テ罪證ニ供シタルハ正當ニシテ違法ノ廉アルコトナシ

第六點其他被告晃ノ上告趣意凡テ茲ニ援用スト云フニ在リ○故ニ被告晃ノ上告趣意ニ對スル說明ニ依リ其理由ナキコトヲ了知スヘシ

被告重成上告趣意書第一被告晃カ大阪市臨時救護部倉庫係主任ノ資格ニ於テ倉庫係ニ要スル費用ノ仕拂ニ充當スヘキ爲メ大阪市ヨリ假出ヲ受ケタル現金ノ仕拂ニ關シテハ一一市長ニ稟申決議ヲ要セス倉庫係主任ニ於テ必要アリト認メタル事項ノ爲メニ要スル費用ハ直ニ假出金ヨリ仕拂ヲ爲スコトヲ得ヘキ權能ヲ認メラレタルモノナレハ其費用ノ直接ナルト間接ナルトヲ問ハス倉庫係主任ニ於テ倉庫事務執行上必要ナリト認メタル費用ハ直ニ假出金ヨリ仕拂ヲ爲シ得ヘキモノナリ從テ倉庫係主任ノ假出金仕拂ニ關シ第三者ノ地位ニアル倉庫係員タル被告重成ヨリ之ヲ見レハ市ノ代表者タル市長ノ行爲ト同一視スヘキモノナリト信ス果シテ然ラハ假出金仕拂ニ關スル當該主任ノ許否ハ直ニ其仕拂ノ正否ノ由テ岐ルル所ナリト謂ハサル可ラサルナリ故ニ被告重成カ假ニ第二審認定ノ如ク倉庫係主任タル被告晃ニ對シ大阪市臨時救護部倉庫係ニ配屬セラレ倉庫及寄贈品配給事務ニ從事セル大阪市吏員及給仕小使等ニ對シ非常事務勉勵ノ慰勞トシテ酒肴ヲ饗應セラレテハ如何トノ申出ヲ爲シ倉庫係主任タル被告晃カ之ヲ是認シ慰勞會ヲ擧行スルニ至リタリトセンモ是レ畢竟被告重成ノ右申出ハ倉庫係ニ要スル經費ヲ支辨スヘキ假出金ノ仕拂權能アル倉庫係主任タル被告晃ニ對シ其許否ヲ伺ヒ出テタルニ止マルモノナレハ寧ロ當然ノ順序ニシテ被告重成カ前記金額ノ横領ニ共謀シタリトノ理由トナスニ足ラサルヤ明カナリ然ルニ之ヲ以テ直ニ共犯ナリト判決シタルハ擬律ノ錯誤ナリト信スト云ヒ」第二前項ノ如ク大阪市臨時救護部倉庫係ニ要スル經費ノ仕拂ニ關シ專行ノ權限ヲ有スル倉庫係主任タル被告晃ニ於テ被告重成ノ前項ノ申出ヲ許容シ既ニ大阪市吏員其他ニ慰勞會ヲ擧行スルコトニ決定セラレタル以上ハ第三者タル被告重成ヨリ之ヲ見レハ正ニ大阪市ノ慰勞會ニシテ決シテ私宴ト見ルヘキモノニアラサルナリ而シテ前記慰勞會ニ要スル費用ノ仕拂ニ關シ大阪市臨時救護費豫算科目ノ關係上倉庫係人夫賃名義ヲ以テ假出金ヨリ其費用ヲ仕拂フコトトシ被告重成ハ倉庫係主任タル被告晃ノ命ニ依リ被告市松ニ金五十圓ノ人夫賃領收證書ヲ作成セシメ假出金ヨリ仕拂ヒタルコトトシ之ヲ以テ大阪市吏員及給仕小使等ニ對シナシタル慰勞會費ニ充當シタルモノナレハ何レニシテモ均シク公費ヨリ仕拂フヘキモノナルヲ以テ假出金ヨリ仕拂ヲナセシ倉庫係主任タル被告晃カ大阪市長ニ對シ假出金仕拂ヲ證明シ清算ヲ遂ケ責任ヲ明カニシタルニ當リ仕拂ノ事實ヲ僞リタル責ハ免ルルコト能ハサランモ既ニ專行ノ權限ヲ有

スル倉庫係主任ニ於テ倉庫係所屬ノ事務進捗上必要ナリト認メタル事項ノ爲メニ要スル費用ナル以上ハ其直接ナルト間接ナルトヲ問ハス公費ヨリ仕拂フヘキモノナリト謂ハサルヘカラス從テ大阪市臨時救護部倉庫係ノ費用トシテ上記ノ金額ヲ假出金中ヨリ仕拂ヲナスヘキモノナルヲ以テ之レカ仕拂證明書作成ニ關係シタリトスルモ畢竟通常ノ事務ヲ取扱ヒタルニ過キサレハ前記金額ノ横領ニ加效シタリト認ムヘキ理由トナスニ足ラサルヤ明カナリ然ルニ之ヲ以テ直チニ共犯ナリト判決ヲ與ヘラレタルハ擬律ノ錯誤ナリト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ認メタル事實ニ依レハ被告重成ハ大阪市書記ニシテ同市臨時救護部倉庫係ニ屬シ同係ノ主任被告晃ノ配下ニ在テ分掌事務ニ從事中被告晃ト共謀シテ晃カ保管中ノ假出金ヲ私ニ費用スル目的ヲ以テ之ヲ横領セント企テ被告市松ニ情ヲ告ケテ不實ノ人夫賃五十四圓ノ請求書及領收證ヲ差出サシメ該金額ヲ人夫賃トシテ支出シタルモノノ如ク裝ヒ之ヲ横領シタル事實ナルヲ以テ原院カ被告重成ノ行爲ニ對シ刑法第六十五條同第二百五十二條ヲ適用シタルハ正當ナリ要スルニ本論旨ハ原判決ニ認メサル事實ヲ掲ケ來テ横領ノ共謀者ニ非スト主張シ延テ其擬律ヲ論爭スルモノナレハ上告適法ノ理由トナラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十四年三月十六日大審院第二刑事部

○殺人並附帶私訴ノ件

明治四十四年(れ)第二一七號
明治四十四年三月十六日宣告

○判決要旨

一裁判所カ鑑定書中特ニ圖面ヲ引用シタル部分ヲ除キ文字ノミニテ完全ニ說明セル部分ヲ擇ミ其記載ヲ罪證ト爲スニ當リ該書面ヲ讀聞ケタル以上ハ別ニ之カ展示ヲ爲ササルモ違法ニ非ス

第一審　秋田地方裁判所　第二審　宮城控訴院

公訴私訴上告人　高橋章三　辯護人　高木益太郎　阿部喜藤治

私訴被上告人　庫山正　外四名

右殺人被告事件並ニ之ニ附帶スル私訴事件ニ付明治四十三年十二月二十四日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ公私訴ニ付上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件公私訴上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

私訴裁判費用ハ上告人ノ負擔トス

理由

鑑定書ニ關スル證據調ノ手續

辯護人高木益太郎同岡部喜藤治公私訴上告趣意書第一點原判決ハ渡邊恭助ノ作成シタル鑑定書ノ記載ヲ援用シテ本件事實ヲ確定セラレタレトモ該書面ハ原院公判廷ニ於テ被告ニ展示セス即チ適法ノ證據調ヲ爲ササルモノナレハ之ヲ斷罪ノ資料ニ供セル原判決ハ違法ナリト信ス何トナレハ右鑑定書ハ其末尾ニ二葉ノ圖面アリ之ト一體ヲ爲スモノナル事ハ記錄第一一四丁第一一五丁及第一一六丁ノ間ニ鑑定人渡邊醫師ノ契印アルニヨリ明カナルノミナラス同鑑定書ノ記載ハ末尾ノ二葉ノ圖ヲ基礎トシテ之ヲ說明セルモノナルコトハ記錄第一一四丁裏ノ說明ニ依リ明白ナル所ナレハ其記載ハ全ク圖面ヲ離レテ解スル能ハサルモノナリ故ニ何レヨリ見ルモ圖面ト記事トハ渾然トシテ一體ヲ爲シ本件鑑定書ヲ組織スルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ同鑑定書ノ證據調手續ハ少クトモ其圖面ヲ被告ニ展示セラルヘキ筋合ナルニ原院ハ此手續ヲ履踐セス之ヲ被告ニ讀聞ケタルニ過キサルモノナレハ右ハ決シテ適法ノ證據調ニ非ス從テ之ヲ罪證ニ供セル原判決ハ破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レトモ○記錄ヲ查スルニ原判決カ所論鑑定書中特ニ圖面ヲ引用シテ說明セル部分ヲ除キ圖面ニ霜ラス文字ノミニテ完全ニ說明セル部分ヲ擇ミ其記載ヲ罪證ニ供シタルコトハ判文及該鑑定書ノ對照上自ラ明白ナルヲ以テ原審カ證據調ヲ爲スニ當リ右鑑定書ヲ讀聞ケタル以上ハ別ニ之カ展示ヲ爲ササルモ該記載部分ヲ罪證ニ供スルノ妨ケト爲ラス故ニ論旨ハ理由ナシ

第二點原院判示ノ事實ニ被告ハ喜代志ノ暴行ヲ憤リ之ヲ打懲サント欲シ室內ニアリタル所有ノ短刀ヲ携ヘ云云ト判示セラレタリ而シテ斯ル意思ハ傷害致死ノ存否ノ分ル要素ナルニ拘ハラス其列擧セル證據中ニ右意思ノ存立ヲ認ムヘキモノナシ左レハ原判決ハ事實認定ノ證據ヲ示ササル不法アリトスト云フニ在レトモ○原判決ヲ查スルニ第一審公判始末書中參考人齋藤與助供述トシテ喜代志ハ私ノ顏ヲ平手ニテ一二回打チ續テ私ヲ腰掛臺ヨリ仰向ケニ仆シ私ノ右手ヲ持チ宅內ニ入ラントシテ引張リ私ハ同人ノ右手ヲ押ヘ之ヲ拒ミ揉合フ際章三カ私ノ右方ヨリ廻來リ何カ一言云ヒタルニ喜代志モ亦何カ一言云ヒナカラ私ノ手ヲ離シ章三ノ方ニ振向カントスル際喜代志ハ章三ニ刺サレタル旨ヲ記述シタル部分及同上公判始末書中被告供述記載部分倉田勘兵衛、井上永助各豫審調書供述記載等ヲ綜合判斷シテ論旨ニ掲クル事項ヲ認定シタルコト判文上明白ナルカ故ニ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ

第三點原判文認定ノ事實ニハ被告ハ被害者タル庫山喜代志ト明治四十一年以來互ニ相反目シ來リシ處ト判示セラルルモ假令反目ノ事實アリトスルモ果シテ判示ノ年月ヨリ生セシヤ否ヤ其證據ノ見ルヘキモノナシ然ラハ原院判決ハ前同斷ノ違法アリトスト云フニ在レトモ○原判決ヲ查スルニ所論事項ハ倉田勘兵衛豫審調書（明治四十三年七月二十八日附）供述記載ニ依リ之ヲ認メタルコト判文上明白ナルノミナラス本來犯罪構成事實ニ屬セサルヲ以テ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルノ要ナシ故ニ論旨ハ理由ナシ

第四點原院判示ノ事實ニハ被告ハ喜代志ノ實父庫山正ニ對シ明日部落民ノ集會ヲ開キ神社合併ノ件ヲ

決定セン事ヲ通知シタルヨリ喜代志ハ該集會ニ先チ被告ヲ威迫シ自說ニ屈服セシメント欲シ同夜十一時頃酒氣ニ乘シ云云ト判示セラレタルモ被告カ果シテ右通知ヲ爲シタルヤ否ヤ又被害者喜代志ニ果シテ右ノ意思アリシヤ其列擧セル證據說明ニ於テ發見スルコトヲ得ス反テ喜代志ニ殺意アリシヤモ知レス其援用セル第一審公判始末書ノ記載ニ「喜代志ノ聲ニテ章三ヲ殺シニ來リト云フヲ聞キ」「喜代志ハ酒ニ醉ヒ今夜章三ヲ殺シニ來ル故案內セヨト申ス」等ノ摘示アルヨリ見ルモ被害者喜代志ニ被告ヲ威迫シテ自說ニ服セシメントシタル意思ノ窺ヒ見ルヘキナシ然ラハ原判決ハ右點ニ付キ事實認定ノ證據ヲ示ササル不法アリトスト云フニ在レトモ○所論事項ハ犯罪構成事實ニ屬セサルヲ以テ原判決カ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ判文ニ明示セサルモ違法ニアラス論旨ハ理由ナシ

第五點原院判示ノ事實ニ被告章三ハ喜代志ノ暴行ヲ憤リ之レヲ打懲サント欲シ室內ニアリタル所有ノ短刀ヲ携ヘ云云ト示サレタルモ其證據說明ニ第一審公判始末書ヲ援用シ同始末書ニ被告ノ陳述トシテ「判示日時ニ自分ハ一室ニアリテ調物ヲナシ居リタルニ前庭池ノ傍ニ腰掛ケ涼ミ居リタル私共ノ雇人ニ對シ喜代志ノ聲ニテ章三ヲ殺シニ來リト云フヲ聞キ夫レヨリ間モナク足音高ク玄關ノ方ヘ入リ來タリ又一二間モ出タリト思フ頃格鬪ヲ始メタル樣子ニテ雇人與助ノ聲ニテ痛イト申シタル故之レ必ス喜代志カ兇器ヲ持チ來タリ與助ヲ切リタルナラント思ヒ雇人等カ倒サルレハ室內ニ亂入スルナラント考ヘ有合ノ短刀ヲ持チ外ニ出テタルニ喜代志ハ與助ト格鬪シ居リシニ付キ止メヨト申シタルニ喜代志ハ與助ノ手ヲ放シテ私ニ向ヒ來リタル咄嗟ニ刺シタリト思フ旨ノ記載アリ」ト摘示シ又同始末書ニ參考人齋藤與助ノ供述トシテ「前畧喜代志ハ酒ニ醉ヒ今夜章三ヲ殺シニ來ル故案內セヨト申シ金藏ノ手ヲ取リ宅內ニ入リタルモ(中畧)喜代志ハ私ノ右ノ手ヲ持チ室內ニ入ラントテ引張リ私ハ同人ノ右手ヲ押ヘ之レヲ拒ミ揉合フ際章三カ私ノ右方ヨリ廻リ來リ何カ一言云ヒタルニ喜代志モ亦何カ言ヒナカラ私ノ手ヲ離シ章三ノ方ニ振リ向カントシタル際喜代志ハ章三ニ刺サレ」云云ノ記載アリト摘示シアルモ章三ニ喜代志ノ暴行ヲ憤リ之ヲ打懲サント欲スル意思ノ見ルヘキ證據アルコトナシ之ニヨリテ見レハ原判決ハ事實認定ノ證據ヲ示ササル違法アリトスト云フニ在リテ○原判決ヲ查スルニ證據說明ノ部ニ論旨ニ揭クルカ如ク第一審公判始末書ノ被告供述及參考人齋藤與助供述ヲ引用シ之ニ依レハ喜代志カ暴行ヲ爲スニ當リ被告カ故意ヲ以テ喜代志ヲ刺シタルコト明瞭ナルノミナラス前記各證據ヲ原判決ニ擧示スル倉田勘兵衛、井上永助各豫審調書供述記載ト綜合判斷スレハ所論事項ヲ認定スルニ難カラサルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第六點原判決ハ證據トシテ證人齋藤庫次ノ豫審調書ヲ援用セラレタリ仍テ今同調書ヲ查閱スルニ豫審判事代理堀口貞文氏ハ證人ノ氏名年齡身分職業住所ヲ訊問セラレタル旨ノ記載アリテ且ツ同調書ニ署名捺印セラレタリ然レトモ證人ニ宣誓ヲ命セラレ其ノ他訊問ヲ爲サレタルハ別人タル豫審判事ナルコトハ同調書中他ノ部分ニ記載アル豫審判事ノ豫審ノ二字ハ特ニ削除シアルニ拘ハラス第一葉裏八行目

（記錄一一八丁裏）ノ豫審判事ノ豫審ノ二字カ抹消（法律上有效ニ）セラレサルニヨリテ明カナリト云フヘシ或ハ曰ハン「豫審判事代理モ要スルニ一ノ豫審判事ニ外ナラサレハ同行ノ豫審判事トアルモ豫審判事代理堀口貞文氏ヲ指シタルモノニ外ナラス」ト然リト雖モ若シ然リトセンカ殊更ニ他ノ部分ニ於テ豫審判事ノ豫審ノ二字ヲ削除シ又ハ豫審判事ノ下ニ「代理判事」等ノ記載ヲ爲ス必要ナキニアラスヤ要スルニ同調書ハ證人ニ宣誓ヲ命シ訊問ヲ爲シタル豫審判事ノ署名捺印ヲ缺ケルモノニシテ法律上ノ要件ヲ備ヘサル無效ノモノナリトス果シテ然ラハ此無效ノ調書ヲ證據トセラレタル原判決ハ當然破毀ヲ免レサルモノト思考スト云フニ在レトモ○記錄ヲ查スルニ證人齋藤庫次豫審調書ニハ首ニ豫審判事代理堀口貞文云云列席ノ上判事ハ證人ニ對シ訊問ヲ爲スコト左ノ如シト掲ケ次ニ問答ヲ記載シ末尾ニ同判事ノ署名捺印アルカ故ニ中間ニ證人資格ヲ調査シ宣誓ヲ命シタルコトノ記載ヲ挾ミタル部分ニ豫審判事ト掲ケ其中豫審ノ二字ヲ抹消シタル痕跡アルモ右抹消ハ刑事訴訟法第二十一條ノ規定ヲ履踐セサルカ爲メ法律上削除ノ效力ヲ生スルコトナキニ拘ハラス前後ノ文辭ト對照シテ其豫審判事トアルハ即チ豫審判事代理判事堀口貞文ヲ指示スルモノト解釋スルヲ得ヘシ故ニ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ

第七點原判決ノ認定事實ノ要領ハ「被告ハ被害者喜代志カ被告方ニ至リ庭前ニ在リタル被告方雇人ト揉合ヒ居リタル處被告ハ一室ニアリ之ヲ見テ喜代志ノ暴行ヲ憤リ之ヲ懲サントシテ遂ニ之ヲ傷害スルニ至リタリ」ト云フニ在リ然レトモ其證據說明ノ部ヲ見ルニ被告カ喜代志ト雇人トノ聲ヲ聞キタルコトニ付キテハ之ヲ認ムルニ足ルモノアリト雖モ被告カ兩人ノ格鬪セルヲ目擊シタル旨ノ說明アルコトナシ而シテ他人カ格鬪ヲ爲セルカ如キ場合ニ於テ實際之ヲ目擊スルト物ヲ隔テテ其叫聲ヲ聞クトハ大ナル差異アルモノナルニ原判決カ斯ル心理作用ニ重大ナル影響ヲ及ホス點ニ付キ事實認定ノ證據ヲ示ササルハ大ナル違法アルモノト云ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○原判決ハ其擧示スル第一審公判始末書中參考人齋藤興助供述ノ事項ヨリ推理シテ所論事項ヲ認メタルコト判文上明白ナルノミナラス原判決判示事實中之ヲ見テトアル部分ハ犯罪成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニアラサルヲ以テ本來證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルノ要ナキモノナレハ論旨ハ理由ナシ

第八點以上ノ數點ヲ綜合觀察スルニ章三ノ所爲ハ傷害致死ナリトスルコトヲ得ス果シテ然ラハ他ニ其所爲ノ本然ノ性質ヲ求メサルヘカラス而シテ其性質ヲ定メ之レニ適當ナル罪名ト刑罰トヲ定メンニハ更ニ審理ヲ爲ササルヘカラス然ラハ原判決ハ此點ニ於テ破毀セラレサルヘカラサルモノト信ス抑モ事實ノ認定ハ裁判官ノ職權ニ屬スルカ故ニ漫リニ容喙スルヲ得スト雖モ被告章三ノ所爲ヲ其列擧スル證據ニヨリテ斷定スレハ緊急防衛ナルコトハ前述摘示ノ證據ニヨルモ明カナルノミナラス其援用セル豫審調書ニ齋藤庫次ノ供述トシテ「喜代志ハ居村深堀貴船神社ノ神官ナル處神社合併ノ事ニ付村民ト意見ヲ異ニシ互ニ軋轢シ居リ私ト飲酒スル時喜代志ノ父正モ來リ明日ノ事アル故左樣ニ酒ヲ飲ムナト注

意シ」云云ノ記載アリト摘示シ又倉田勘兵衛豫審調書ニ「喜代志ハ酒癖アリ身體ハ强壯ニシテ昨年ハ稅務官吏ニ抵抗シ當春ハ湯澤町ノ峯山某ノ頭部ヲ打チタルコトアリテ兎ニ角暴行ヲ働ク故村内一般ニ蛇蝎視セラレ居ルモノナル旨」記載アリト摘示セラレタルヨリ見ルモ被告章三ノ所爲ハ緊急防衛ナリト斷スルヲ得ヘク然ラストスルモ緊急防衛ノ事實アリトノ誤認ニ出テタルモノニシテ畢竟罪ト爲ルヘキ事實ノ錯誤ニ出ツルモノト云ハサルヘカラス依テ原判決カ傷害致死ナリト判斷シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ◎前出各論旨ニ理由ナキコトハ嚮キニ說示スル所ノ如ク又證據ノ判斷事實ノ認定ハ事實裁判所タル原審ノ職權ニ屬スルハ言ヲ俟タサルカ故ニ自己ノ見解ヲ根據トシ原審ノ職權ニ基キ爲シタル證據判斷及事實認定ヲ批難シ延テ其違法ヲ鳴ラス本論旨ハ上告適法ノ理由ト爲スニ足ラス

第九點原公訴判決ニシテ破毀セラルヘキモノトセハ同一ノ事實ノ認定竝ニ證據ニ基因スル私訴判決モ亦破毀セラルヘキモノナリト信スト云フニ在レトモ◎公訴判決ニ破毀ノ理由存セサルコト前ニ說示スル所ノ如シ從テ本論旨ノ理由ナキコトヲ了解スヘシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十四年三月十六日大審院第二刑事部

○公文書僞造行使横領ノ件

明治四十四年(れ)第二二九號
明治四十四年三月十六日宣告

◎判決要旨

一町村收入役カ受領シタル町村ノ收入ハ一切收入役ノ占有ニ屬スヘキモノニシテ町村長ハ之ヲ占有スルノ權限ナシ(判旨第三點)

一刑法第六十五條ニ所謂身分トハ必スシモ男女ノ性、內外國人ノ別、親族ノ關係又ハ公務員タル資格ノ如キ關係ノミニ限ラス汎ク一定ノ犯罪行爲ニ於ケル犯人ノ人的關係タル特殊ノ地位又ハ狀態ヲ指稱セルモノトス(同　上)

(參照)犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス」身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス(刑法第六十五條)

一共犯者ノ一人カ其占有セル他人ノ物件ヲ不法ニ領得スル意思實行ヲ爲スニ於テハ縱シヤ他ノ共犯者カ該物件ヲ占有セサルモ其總員ニ對シテ即時ニ横領罪ヲ構成スルモノトス(判旨第四點)

第一審　金澤地方裁判所　第二審　名古屋控訴院

被告人　佐藤周作　辯護人　大橋誠一

右公文書僞造行使横領被告事件ニ付明治四十三年十二月十九日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告辯護人大橋誠一上告趣意書第一點原判決ハ判示第一事實ニ付キ被告ハ南北村戸籍吏在職中西村孫次郎ノ依頼ニ應シ戸籍主任宮崎久造ニ命シ戸籍吏タル被告名義ヲ以テつかやノ戸籍抄本ニ同人ノ生年月日ハ明治二十七年六月二十八日ナルニ明治二十五年六月二十八日ト虚僞ノ記載ヲ爲シ戸籍吏ノ職印ヲ押捺セシメ以テ虚僞ノ文書ヲ作成シ云云トノ事實ヲ認定シタリ此認定事實ニ依ルトキハ其前段ニハ「戸籍主任宮崎久造ニ命シ何何セシメ」トアリテ恰モ被告カ宮崎久造ヲ教唆シタルカ如ク又其後段ニハ「虚僞ノ文書ヲ作成シ」トアリテ恰モ被告自身之ヲ作成シタルカ如シ而シテ原判決法律適用ノ部ト之ヲ對照スルニ原判決ハ被告カ之ヲ作成シタルモノト看做シタルヤ明ナリ固ヨリ被告ハ戸籍吏ナリト雖モ戸籍主任ハ助役タル宮崎久造ニシテ同人カ其事務ヲ分掌セルコトハ原判決ノ認ムル所ナリ（同人カ助役タルコトハ原判決ノ援用スル同人豫審調書ニ依テ明ナリ）果シテ然リトセハ假令其事務カ被告ノ名ヲ以テ執行セラルルト雖モ町村制第七十條第七十二條ニヨリ其分掌事務ハ助役宮崎久造ノ職務タルヤ明ナリ（特ニ助役トシテハ町村制第五十三條同第五十九條參照）既ニ戸籍事務カ助役タル宮崎久造ノ職務タル以上ハ假令其事務被告ニ取テモ亦職務ナリトスルモ被告ハ作成ニ付キ何等手ヲ下ス所ナク單ニ作成ヲ命シタルニ過キサルニ（是原判決ノ援用證據ニ依テ明ナリ）何故被告ノ所爲ヲ教唆トセスシテ實行者トナシタルカ若シ宮崎久造カ虚僞ノ文書作成ニ付キ故意ヲ欠キタリトセハ被告ハ情ヲ知ラサル他人ヲ機械的ニ利用シテ自ラ犯罪ヲ犯シタリト云ヒ得ヘキモ宮崎カ情ヲ知リタルコトハ原判決ノ援用セル同人豫審調書ニ自分ハ助役ニシテ戸籍主任ヲ致シ村長ハ孫次郎ヨリ戸籍抄本ノ下付ヲ願出ツレハ二十七年生ヲ二十五年生ニシテ抄本ヲ下付シヤレト云ハレ後一時間程經テ孫次郎來リ下付ヲ頼ヒシ故二十五年生トシテ戸籍抄本ヲ作リ保管シ居ル戸籍吏ノ職印ヲ押捺シ村長ヘ下付シテモ宜シキヤト念ヲ押シ其前ニテ孫次郎ニ手渡シ云云又つかやノ戸籍抄本ハ明治二十五年六月二十八日生トシテ作リタリ戸籍ノ原簿ニハ明瞭ニ明治二十七年六月二十八日生ト記載アリテ讀違ヘル樣ナコトナシ云云トアルニ依テ明ニシテ同人ニ虚僞ノ文書作成ノ故意アルヤ疑ナキノミナラス又原判決モ故意ナキ宮崎ヲ被告カ機械ニ利用シタリトスルモノニアラサルナリ更ニ被告ハ宮崎ノ上位ニ在ルモノナリト雖モ被告カ宮崎ニ虚僞ノ文書作成ヲ命シ同人ノ自由意思ヲ喪失セシムヘキ强制ヲ加ヘテ之カ作成ヲ爲サシメタリト看做スヘキ形跡ナキノミナラス原判決モ亦斯ル認定ヲ爲ササルナリ殊ニ宮崎ハ村長ノ事務ヲハ補

助スヘキ獨立ノ職務アル助役ニシテ且戸籍事務ヲ分掌シ乍ラ被告ヨリ犯罪行爲ヲ命セラレ之ヲ遂行シタルモノニシテ決シテ正當業務ヲ執行シタルモノニ非サルカ故ニ假令誤リテ宮崎ニ付キ問責スル所ナシトスルモ同人ハ疑モナク其職務ニ關シ虚僞ノ文書ヲ作成シタル實行正犯者ナリ（苟モ自己ノ職務上作成シ得ヘキ文書タル以上ハ其文書カ自己ノ名タルト他人ノ名タルトヲ問ハス虚僞ノ文書ヲ作成スルトキハ刑法第百五十六條ノ適用アルヘキモノト信ス）然ルニ原判決ハ被告カ單ニ戸籍主任宮崎ニ虚僞ノ文書作成ヲ命シ（教唆）タリトノ事實ヲ認メ且此事實ニ相當スル證據ヲ援用スルニ過キスシテ而モ被告ヲ虚僞ノ文書作成ノ實行者ナリト斷定シ之ニ實行正犯トシテノ罪責ヲ科シタルハ法律誤解ノ爲メ齟齬アル認定ヲ爲シ從テ理由ニ齟齬ヲ生シ法律ノ適用ヲ誤リタルモノナリ又原判決カ果シテ被告カ虚僞ノ文書ヲ作成シタリトシ實行正犯トシテ處斷スルモノトセンカ證據ニヨラスシテ事實ヲ認定シタル違法及理由不備ノ違法アリト謂ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○原判決ハ被告カ情ヲ知ラサル宮崎久造ヲ利用シテ被告ノ職務ニ關シ虚僞ノ文書ヲ作成セシメタル間接正犯ノ事實ヲ判示シタルモノニ非ス又被告カ宮崎久造ヲ教唆シテ久造ノ職務ニ關シ虚僞ノ文書ヲ作成セシメタル事實ヲ説示シタルモノニ非ス被告ハ宮崎久造ニ其意思ヲ傳ヘ久造ハ被告ノ意思ヲ承ケ而シテ共同ノ意思ニ基キ久造ハ被告等ノ職務ニ關シ被告ノ職印ヲ使用シテ虚僞ノ文書ヲ作成シタル事實ヲ判定シタル趣旨ニ外ナラサレハ被告自ラ虚僞ノ文書ヲ作成セサルモ共犯者タル久造カ之ヲ作成シタル以上ハ共犯者ニ對スル起訴ノ有無ニ關セス被告自ラ直接正犯トシテ罪責ヲ負フヘキハ當然ナリ故ニ原判決カ右判示事實ニ付キ刑法第百五十六條第百五十五條第一項ヲ適用シ被告ヲ公文書僞造罪ノ正犯トシテ處罰シタルハ相當ニシテ論旨前段ノ如キ違法アルコトナシ又原判決ハ諸般ノ證憑ヲ綜合シテ前掲事實ヲ判定シタルモノナルコト明瞭ナレハ論旨後段ノ如キ違法アルコトナシ

第二點原判決ハ被告ニ對シ示シタルノミニテ讀聞ケヲ爲シ其内容ヲ知ラシメサル押收第三號同第四號同第五號ヲ以テ認定第一事實ノ證據トナシ各其文書記載ノ趣旨ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○押收ノ證憑物件タル書類ハ其内容ヲ證憑ニ供スル場合ト雖モ之ヲ被告ニ示シ辯解ヲ爲サシムルヲ以テ足リ讀聞ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス本論旨ハ理由ナシ

第三點原判決判示第二事實ニ付キ村長ハ町村制第六十八條第二項第三號ニヨリ村ノ歳入ヲ管理シ會計及出納ヲ監視スルコト其職務ナリト雖モ收入役ハ同第七十一條ニ依リ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ルトアリテ直接出納ヲ掌リ現金ノ占有保管ハ總テ收入役ニ於テ之ヲ爲スモノナリ殊ニ同第六十二條第三項ニハ收入役ハ村長助役ヲ兼ヌルコトヲ得サルノミナラス又同第百十五條第二項後段ニハ村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ依ラサル時ハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス同第三項ニ前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ストアル所ナリ而シテ原判決ヲ見ルニ原判決カ第一審判決ヲ取消シタル趣旨ハ村ノ收入保管占有ノ職務ハ收入役

ニ存スルモノニシテ村長ハ其職務ナシ從テ刑法第二百五十三條ヲ適用スヘキモノニ非ストスルコト其事實認定ノ部ニ被告ハ南北村長在職中原審相被告橋本久太ト共謀ノ上久太カ收入役ノ職務上占有シ居ル公金中金千二百圓ヲ云云ト認定セルニ依テ明ナル所ナリ若シ然リトセハ被告カ收入役橋本久太ニ對シ同人カ其職務上保管占有セル金圓ヲ以テ自己ノ納稅ノ立替ヲ委託シ又ハ自己ノ私費ニ借入タルカ如キ行爲ハ橋本久太カ其業務上占有セル金圓ヲ同人ヲシテ費消横領セシメタルニ過キスシテ被告カ立替ヲ爲サシメ又ハ借入タルハ即チ橋本ヲシテ横領セシメタル結果ニ過キス固ヨリ前示ノ如ク村長ハ村ノ歳入ヲ管理スル職責アリト雖モ管理ノ職責者ハ直ニ其歳入シタル收入金圓ノ占有者ナリト云フ能ハサルヤ明ニシテ金圓ノ占有者ハ收入役橋本ナリ是レ前述ノ如ク原判決ノ認ムル所ニシテ亦從來御院判例ノ認ムル所ナリ（御院四十一年二月十日判決）然ラハ原判決ハ公金ヲ占有セサル被告ニ對シ占有セサレハ犯シ得ヘカラサル横領罪ヲ犯シタリト云フカ是レ刑法第二百五十二條ノ横領罪ノ性質ヲ誤解シタルモノナリ假リニ公金ノ占有者ハ橋本久太ナリトスルモ刑法第六十五條ニヨリ之ニ加功シタル被告ハ亦横領罪ノ責任ヲ免レスト云ハンカ此誤レルコト同條ニハ身分ニヨリ構成スル犯罪云云トアリテ身分トハ男女ノ別内外人ノ別親族關係囚徒公務員タルノ資格等ノ身上關係ヲ總稱スルモノニシテ占有ノ如キ身上ノ關係ニアラサル一ツノ事實ナレハ決シテ身分ト稱スヘキモノニアラサレハナリ從テ占有ノ有無ニ關スル本件被告ニ對シ同條ノ適用ナキコト明ニシテ原判決カ同條ノ適用ニ付キ何等言及セサルニ

判旨第三點

依テ之ヲ見ルモ其意蓋シ同條ノ適用アルモノトセサルヲ推知スルニ難カラス果シテ然ラハ原判決カ占有者ニアラサル被告ヲ横領罪ノ實行正犯トシテ處斷シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノナリト云フニ在リ○按スルニ町村收入役カ受領シタル町村ノ收入ハ一切收入役ノ占有ニ屬スヘキモノニシテ（町村制第七十一條參照）町村ノ歳入ヲ管理シ其他會計出納ヲ監視スル職務權限ヲ有スル町村長ト雖モ該收入ニ對シテハ占有ナキモノトス而シテ町村長ハ唯町村ノ基本財産ヲ保管占有スルノミ（町村制第六十八條第四號參照）故ニ原判決ノ認メタル事實ニ依レハ被告ハ村長トシテ收入役タル橋本久太ト共謀シ久太ノ職務上占有スル公金ヲ横領シタリト云フニ在リテ右横領罪ノ目的物タル公金ハ被告ノ占有ニ屬スル村ノ基本財産タル性質ヲ有スルモノニ非スシテ收入役ノ占有セル村ノ收入金ナルコトヲ判示セルモノナルヤ明ナレハ該公金ニ付キ被告ノ占有ナキヤ勿論ナリ然レトモ被告ハ業務上ノ占有者タル橋本久太ト共謀シテ業務上ノ占有者タル身分ヲ以テ犯罪ノ特別構成要件ト爲セル刑法第二百五十三條ノ罪ヲ實行シタルモノナレハ被告ハ占有者タル身分ナシト雖モ前掲犯罪ノ共犯ヲ以テ論スヘキモ（刑法第六十五條第一項）本件ハ業務上ノ占有者タル身分ニ依リ特ニ刑ノ加重ヲ來ス場合ナルヲ以テ其身分ナキ被告ニハ普通ノ横領罪タル刑法第二百五十二條ノ刑ヲ科スヘキモノトス（刑法第六十五條第二項）原判決ハ刑法第六十五條ヲ適用シタルコトヲ明示セスト雖モ其事實認定ト法律適用トヲ對照スレハ自ラ叙上判示ト同一趣意ニ出テタルモノナルヤ疑ヲ容レス而シテ刑法第六十五條ニ所謂身分トハ必スシ

モ論旨ノ如ク男女ノ性、內外國人ノ別、親族ノ關係、公務員タルノ資格ノ如キ關係ノミニ限ラス汎ク一定ノ犯罪行爲ニ關スル犯人ノ人的關係タル特殊ノ地位又ハ狀態ヲ指稱スルモノトス故ニ刑法第二百五十二條及第二百五十三條ニ於テハ橫領罪ノ目的物ニ對スル犯人ノ關係カ占有又ハ業務上ノ占有ナル特殊ノ狀態ニ在ルコト即チ犯人カ物ノ占有者又ハ業務上ノ占有者タル特殊ノ地位ニ在ルコトカ各犯罪ノ條件ヲ成スモノニシテ刑法第六十五條ニ所謂身分ニ該ルモノトス原判決ハ如上ノ見解ヲ以テ被告ノ所爲ニ對シ同法條ヲ適用シテ前段說明ノ如ク擬律ヲ爲シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第四點第三點ニ於テ述ヘタルカ如ク原判決ハ村長タル佐藤周作ニハ村ノ收入金保管ノ職務ナク又其收入金ノ占有ナシ之カ保管ノ職務竝ニ占有ハ收入役久太ニアリト認定シナカラ被告周作カ收入役久太ニ對シ自己ノ納稅金ノ立替又ハ自己ノ私用金ノ貸渡ヲ委託シ久太カ此委託ニ應シテ立替ヲ爲シ及ヒ用立ヲ爲シタル行爲ヲ目シテ被告周作ト收入役久太トカ共謀ノ上公金ヲ橫領シタルモノト論斷シタルハ橫領罪ノ既遂時期ヲ誤解シタルモノナリ橫領罪ハ自己ノ占有ノ他人ノ物ヲ領得スル行爲アリタル時即チ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトヲ問ハス不正ニ處分スル行爲アリタルトキニ成立スルモノニシテ本件ニ付テハ久太カ周作ヨリ委託サレ周作ノ納稅金ノ立替ヲ爲シタルトキ及周作ノ出張先ヘ送付シタル公金ニ付テハ遲クトモ其公金發送行爲完了ノ時ニ既遂トナルモノナリ而シテ周作ニ對スル立替貸渡ノ委託行爲ハ橫領罪ノ敎唆トナリ又借入金ノ受領ハ賍物收受トナルヤハ別問題トシテ公金ニ付キ

占有ナキ周作カ前示ノ行爲ヲ爲シタリトテ（尤モ原判決ハ周作ハ久太ト共謀ノ上公金ヲ橫領シタリトノ事實ヲ認定シ且之ニ相當スル久太ノ第一審公判ニ於ケル供述ヲ援用スト雖モ久太ノ共謀シテ公金ヲ橫領セリトノ抽象的供述ハ同人カ直ニ之ヲ釋明スル如ク周作ノ委託ニヨリ其納稅金ノ立替ヲ爲シ又ハ同人カ出張先ヨリ電報ニテ送金ヲ申來リ送付シタル事實ニ外ナラス）之カ久太ト共ニ橫領罪ノ實行正犯ヲ犯シタリト云フハ橫領罪ニハ占有ヲ要件トスルコトヲ遺忘シタル第三點所論ノ外橫領罪ノ既遂時期ニ付キ誤解ヲ爲シタル違法判決ト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○橫領罪ハ自己ノ占有セル他人ノ物件ヲ不法ニ領得スル意思實行ヲ爲スニ因リテ成立スルモノナレハ共犯者ノ一人カ他ノ共犯者ノ爲メニ其占有セル他人ノ物件ヲ不法ニ領得スル意思實行ヲ爲スニ於テハ他ノ共犯者カ其物件ヲ占有セサルモ共犯者一同ニ對シテ即時ニ橫領罪ヲ構成スヘシ故ニ本件ニ於テ相被告橋本久太カ被告ト共謀シ久太ノ占有セル公金ヲ不法ニ被告ニ領得セシムヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ同時ニ被告ニ對シテモ犯罪成立スヘシ被告ニ公金ノ占有ナキカ爲メニ橫領罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス本論旨ハ理由ナシ

第五點原判決ハ第二ノ事實認定ニ付キ證據ニヨラスシテ事實ヲ認定シタル違法アリ原判決ハ被告周作カ久太ト共謀ノ上久太カ占有セル公金ヲ明治四十年十月頃ヨリ明治四十三年四月頃迄ノ間ニ意思繼續シテ橫領シタル旨事實ノ認定ヲ爲シ乍ラ其犯罪ノ時期ニ關スル始期ニ付テハ其援用證據被告周作第一回豫審調書ニ自分ハ明治四十年十月頃ヨリ南北村村長ヲ奉職シ居リタルカ云云トアルニヨリ又橋本久

太ノ第一回豫審調書ニ自分ハ明治三十九年十二月頃ヨリ南北村ノ收入役ヲ致シ居リ云云トアルニヨリテ之ヲ認定シタルコト明カナリト雖モ其終期明治四十三年四月頃迄トアル認定事實ニ付キテハ一ツモ之カ認定ノ根據タルヘキ證據ノ存在ヲ見サルナリ唯橋本久太ノ第一回豫審調書ニハ明治四十三年四月二十三日北海道ニ向ケ出發シタル旨記載アリトシテ之カ援用ヲ爲セルモ此ハ唯橋本久太カ北海道ヘ出發シタル時期ヲ知リ得ヘキニ過キスシテ果シテ被告周作カ右終期頃迄村長ヲ奉職シ及橋本久太カ收入役ヲ奉職シタリヤ否ヤ並ニ其終期迄意思繼續シテ公金ノ横領行爲アリシヤ否ヤニ付テハ一ツモ其證據ト見ルヘキモノ存在セサルナリ而シテ本件犯罪ハ舊刑法時代ニ始マリタルモノナレハ其終期ノ何時ナルヤ法律ノ適用上重大關係ヲ有スルモノナルニ之ヲ證據ニ依テ說明セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○公吏ノ任免及其任免ノ日時ノ如キハ公知ノ事項ニ屬スルヲ以テ之ヲ認定スルニ付證據ノ擧示ヲ要セサルモノトス故ニ原判決ニ於テ被告及相被告橋本久太カ何時迄村長及收入役ノ職ニ在リタルヤノ證據ヲ明示セサルモ違法ニ非ス又一箇ノ連續犯ヲ構成スル犯罪ニ付テハ其終期ヲ說示スルニ於テハ法律ノ適用上何等ノ妨碍トナルモノニ非ス而シテ終期タル日時ハ罪トナルヘキ事實ニ非サレハ之ヲ認メタル證據ヲ明示セサルモ違法ニ非ス論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十四年三月十六日大審院第二刑事部

○詐欺取財附帶私訴ノ件

明治四十四年(れ)第一九六號
明治四十四年三月十七日宣告

○判決要旨

一豫審判事カ證人ヲ訊問スルニ當リ金員授受ノ時日、回數等ヲ明確ナラシムル爲メ明細書ヲ提出セシメ其豫審調書ノ末尾ニ之ヲ添附スルハ不法ニ非ス

第一審　奈良地方裁判所　第二審　大阪控訴院

上告人　阪本幸太郎　代理人　牧野充安

被上告人　岡本德潤

右詐欺取財事件ニ附帶スル私訴事件ニ付明治四十三年十二月十三日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ民事被告人ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告費用ハ上告人ノ負擔トス

證人ノ供述ニ代ルヘキ明細書ノ提出

理由

上告代理人牧野充安上告趣意書第一點原判決ハ上告人カ原審ニ於ケル第一抗辯ニ對シ刑訴第二二五條ニ依リ排斥スル旨ヲ說示セラレタレトモ抑モ私訴ハ刑訴第二條ノ明文ノ示ス如ク犯罪ニ因テ生シタル損害ノ賠償ヲ目的トスルコトヲ要シ犯罪ニ因由セサル損害ハ私訴トシテ請求シ得ヘキモノニ非サルヤ疑ヲ容レス刑訴第二二五條ハ此總則ノ規定ニ異ル趣旨ニ非スシテ公訴ニ關シ被告人ノ免責事由カ單ニ刑法上ノ免責ニ止マルトキト刑法上及民法上ノ免責事由タルトキトヲ區分シ若シ前者ナレハ民法上ノ責任アルヘク後者ナレハ民法上ノ責任ナキコトヲ判決スヘキ趣旨ニ外ナラス故ニ本件ノ如ク公訴ニ付被告人カ他人ノ所有物ヲ冒認シテ自己ノ所有ナリト詐リ他ニ賣却シテ其代金ヲ騙取シタリトノ公訴事實ニ關シ他人ノ所有物ニ非ス被告人カ賣却シタルハ其權限內ナリトノ判決アリシ場合ニ方リテハ被告人カ契約違反ニ因由スル賠償ノ義務ヲ私訴トシテ判決シ得サルヤ論ナキ所トス故ニ原判決ノ如ク被告人ニ契約違反債權侵害ノ行爲アリトセハ开ハ犯罪ニ因リテ生シタル損害ニアラサルヲ以テ私訴トシテ不適法ナルヤ明ケシ要スルニ原判決ハ刑訴第二條ノ趣旨ニ違背セルモノナリト云フニ在レトモ○訴訟記錄ニ依レハ本件私訴ハ明治三十九年十一月十日檢事カ上告人ニ於テ被上告人先代德永カ共有セル鑛山ヲ自己一人ノ所有ナリトシテ他ヘ賣却シタルヲ冒認販賣罪ナリトシテ提起シタル公訴ニ附帶シ鑛業權取得ノ登錄及ヒ鑛業場附屬ノ主物諸器械等賣買ノ取消並損害金ノ賠償ヲ求メタルモノニシテ其提起ノ當時ニ於テ犯罪ト目セラレタル事實ニ因リ生シタル損害ノ賠償ヲ目的トシタルモノナレハ其適式ニ成立シタル訴ナルコトハ固ヨリ論ヲ俟タス而シテ私訴カ適式ニ成立シタル以上ハ公訴ニ付キ審理ノ末假令被告人カ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ私訴ニ付テハ民法上其理由ノ有無ヲ審査シ請求ノ當否ヲ判決セサル可カラサルコトハ本院判例ノ夙ニ認ムル所ニシテ刑事訴訟法第二百二十五條ノ規定ノ一部ハ全ク此趣旨ニ外ナラサルモノトス故ニ原院カ上告人ニ於テ前示鑛山ヲ他ヘ賣却シタル行爲ニ付キ其所爲罪トナラサルモノトシテ無罪ノ言渡ヲ受ケタルニ拘ラス其行爲ヨリ生シタル損害ヲ被上告人ニ賠償スルノ責アルモノトシテ上告人ノ第一抗辯ヲ排斥シタルハ違法ニアラサルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

第二點本件被上告人（民事原告人）ノ請求原因ハ原判決カ被上告人ノ請求原因トシテ指示スルカ如ク「係爭鑛業權ハ明治三十三年二月二十八日被控訴人先代德永カ控訴人阪本幸太郎及訴外正司幾太郎ト共ニ代金二千五百圓ニテ買得シ云云結局德永ハ八分幸太郎ハ二分ノ割合ニテ共有シ居タルニ控訴人幸太郎ハ該鑛業權ヲ金七千圓ニテ三木太七ニ賣渡シヲナシタルヲ以テ控訴人幸太郎ノ持分十分ノ二ニ該ル金額ヲ控除シ殘金一萬四千有餘圓ハ被控訴人ノ蒙リタル損害ナルヲ以テ控訴人幸太郎ハ其支拂義務アリ」ト云フニ在リテ要スルニ共有ナル物權ニ對スル侵害ノ賠償ヲ求ムルニ在ルヤ炳乎トシテ疑ヲ容レス猶之ヲ第一審ニ於ケル被上告人カ三木太七ニ對スル鑛業權取得登記抹消ノ請求ニ參照セハ彌〻瞭

然タリ然ルニ原判決ハ「右收益ノ分配ヲ受クル能ハサルニ至ラシメタルハ債務ノ違背ニ過キサルヲ以テ控訴人ハ其損害ニ對シテハ之カ賠償ノ責ヲ免レサルモノトス」ト說示シ上告人敗訴ノ言渡シヲナシタルハ其侵害ヲ蒙ル權利ノ物權ナルト債權ナルトノ體樣ヲ異ニスルニ拘ハラス之ヲ混淆シテ請求原因以外ノ理由ヲ以テ判斷ノ基本トシタル不法ヲ免レスト云フニ在レトモ○私訴ニ付テハ法律上原因ノ變更ヲ許シ且ツ公訴ノ取調ニ依リ私訴ノ原因ニ變更ヲ生シタルコトヲ發見シタルトキハ裁判所カ民事原告人ヨリ變更ノ申立ヲ爲ササルモ私訴ニ付相當ノ裁判ヲ爲ササル可カラサルコトハ本院判例ノ夙ニ認ムル所ナリ故ニ被上告人ノ請求ハ所論ノ如ク共有物權ニ對スル侵害ノ賠償ヲ求ムルニ在リトスルモ原院カ審理ノ末上告人ノ行爲ハ債務ノ違背ニ過キサルモノトシテ上告人ニ損害賠償ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ニアラサルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

第三點原判決ハ其理由中段ニ明治二十三年二月中被控訴人先代德永控訴人阪本幸太郎訴外正司幾太郎ハ共同シテ德永ハ五分幸太郎ハ二分幾太郎ハ三分ノ割合ニテ之カ出資ヲ爲シト說示シ共同出資即チ共同事業（組合）ナリト認メタルニ據レハ民法第六六八條ニ依リ共有ヲ認メタルカ如ク而モ前段「鑛業權ノ所有ニ付テハ互ニ其權利ヲ主張シ能ハサルハ勿論ナリ」トノ說示及後段ニ於テ「債務ノ違背ニ過キサルヲ以テ」トノ斷定ニ依レハ共有ナル物權關係ヲ否定シタルモノノ如シ即チ原判決ハ被上告人ノ有セシ權利カ物ナルカ其說示ニ齟齬アル不法ヲ免レスト云フニ在レトモ○原判決理由中段ニ論旨所揭ノ如ク說明ヲ爲シタルハ上告人及ヒ被上告人先代德永等カ安質母尼鑛業權ヲ買受クル爲メ金員ヲ支出シタル手續ヲ叙述シタルニ止リ鑛業權ノ共有即チ物權關係ノ既ニ生シタルコトヲ認メタルモノニアラサレハ原判決ハ其說示ニ齟齬スル所ナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

第四點原判決カ證據ニ採用シタル林文一ノ豫審調書ハ（記錄百二十丁）證人ノ提出シタル明細書ヲ以テ供述ニ代ヘテ作成セラレタル不適式ノモノナルヲ以テ不法ノ證據ヲ採用シタルノ不法ヲ免レスト云フニ在レトモ○證人ノ訊問ニ際シ金員授受ノ時日回數等ヲ明確ナラシムルコトハ法ノ禁スル所ニアラサルノミハ豫審判事ニ於テ書面ヲ以テ供述ニ代ヘ其事實ヲ明確ナラシムルノ必要アリト思料スルトキナラス事實ノ眞相ヲ發見スルヲ以テ目的トシタル刑事訴訟ノ精神ニ適合スルヲ以テ豫審判事カ林又一ヲ證人トシテ訊問スルニ當リ金員授受ノ時日回數等ヲ明確ナラシムル爲メ明細書ヲ提出セシメ之ヲ其豫審調書ノ末尾ニ添附シタルハ不法ニアラス而シテ右明細書ハ前示ノ如ク林又一ノ豫審調書ニ添附セラレタル文書ニ過キスシテ其一部ヲ成スモノニアラサルノミナラス原院ハ同人ノ豫審調書ヲ證據ニ採用シタルノミニテ明細書ヲ證據ニ採用シタルモノニアラサレハ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事板倉松太郎干與明治四十四年三月十七日大審院第一刑事部

○横領ノ件

明治四十四年(れ)第二三一號
明治四十四年三月二十日宣告

◎判決要旨

一質權者カ債務者ノ承諾ナクシテ質物ヲ擔保ニ供シタル所爲ハ横領罪ヲ構成ス

第一審　安濃津地方裁判所　第二審　名古屋控訴院

被告人　山崎彦太郎　辯護人　吉田新太郎

右横領被告事件ニ付明治四十三年十二月二十三日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告辯護人吉田新太郎上告趣意書第一點原審ハ第一明治四十三年三月十三日北村忠次郎ト共ニ金十五圓宛ヲ淺沼才次郎ニ貸與シ其債務ノタメ前日被告カ才次郎ヨリ借受ケタル同人所有ノ自轉車一輛ヲ擔保ニ供セシメ忠次郎ヲ其保管者ト爲スヘキ旨ノ契約ヲ爲シタルニ拘ハラス被告ハ該自轉車ヲ占有セルニ乘シ之ヲ忠次郎ニ引渡サスシテ同年四月二十日頃三重縣宇治山田市大字新町川島米太郎方ニ入質シ以テ之ヲ横領シタル旨判示セラレタリ右判示ノ趣旨ニ依レハ原判決ハ被告ノ所爲ヲ以テ淺沼才次郎ニ對スル自轉車ノ横領罪ト認メタルモノナルコト明ナリ而シテ又同時ニ原判決カ確定シタル事實ニ依レハ被告ハ才次郎ニ對シ北村忠次郎ト共ニ各金十五圓貸與シ才次郎所有ノ判示自轉車ヲ其共同擔保ニ供セシメ而シテ其質權者トナリタルコトモ亦明白ナリトス抑モ質權者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉質トナスコトヲ得ルハ民法第三百四十八條ノ明定スル所ナリ故ニ質權者タル被告ハ質權ノ目的物タル自轉車ヲ轉質ト爲スハ其權利ナリト言ハサルヘカラス而シテ刑法第二百五十二條ニ所謂自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領スルトハ自己ノ所持内ニ在ル他人ノ財物ヲ不法ニ處分スル一切ノ行爲ヲ指稱スルハ勿論ナレトモ其行爲カ不法ニアラサルトキハ同條ノ範圍ニ屬セサルヤ亦明カナリ果シテ然ラハ被告ノ爲シタル判示自轉車ノ入質行爲ハ民法上ノ權利行爲ナルカ故ニ刑法第二百五十二條ノ罪ヲ構成セサルコト敢テ論ヲ俟タス然ルニ原判決カ被告ヲ刑法第二百五十二條ニ依リ處斷シタルハ擬律錯誤ノ不法アリトスト云フニ在レトモ

**◎民法第三百五十條第二百九十八條第二項ニ依レハ質權者ハ債務者ノ承諾ナクシテ質物ヲ擔保ニ供スルコトヲ得サルモノトス而シテ原判決ニハ「被告彦太郎ハ明治四十三年三月十三日北村忠次郎ト共ニ金十五圓宛ヲ淺沼才次郎ニ貸與シ其債務ノ爲メ前日被告カ才次郎ヨリ借受ケタル同人所有ノ自轉車一輛ヲ擔保ニ供セシメ忠次郎ヲ其保管者ト爲スヘキ旨ノ契約ヲ爲シタルニ拘ハラス被告ハ該自轉車ヲ占有セルニ乘シ之ヲ忠次郎ニ引渡サスシテ同年四月二十日頃擅ニ三重縣宇治山田市曾根町大字新町川島米太郎方ニ入質シ以テ之ヲ横領シ」トアリテ債務者ノ

承諾ヲ得テ入質シタルコトハ原院ノ認メサル所ナリ然レハ前示入質ノ所爲カ民法上ノ權利行爲ニ屬セスシテ横領罪ヲ構成スルコト論ヲ俟タス故ニ原院ニ於テ被告ノ所爲ニ對シ刑法第二百五十二條ヲ適用シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

第二點假ニ原判決ノ趣旨ハ被告ノ所爲ヲ以テ共同質權者タル北村忠次郎ノ擔保權（即チ質權ノ一部）ヲ侵害シタルモノトシ同人ニ對シテ横領罪ヲ構成スト云フニ在リトセンカ刑法第二百五十二條ニ他人ノ物ト稱スル中ニハ無形ノ權利ヲ包含セサルヲ以テ其所謂被告ノ所爲モ亦同條ノ範圍外ニシテ原判決ハ擬律錯誤ノ不法アリト謂ハサルヘカラス之レ原判決ノ趣旨果シテ茲ニ在リトセハ其事實ノ説明ニ於テ其旨ヲ判示セサルヘカラサルニ毫モ之ヲ説示スルコトナキヲ以テ理由不備ノ判決タルヲ免レスト云フニ在レトモ○本論旨ノ理由ナキコトハ第一論旨ニ對スル辯明ニ依テ推知スヘシ

第三點質權者ハ質物ヲ轉質ト爲スヲ得ヘキコトハ既ニ第一點所論ノ如シ而シテ原裁判ハ其判決事實ニ於テ被告ハ北村忠次郎ト共ニ各金十五圓ヲ淺沼才次郎ニ貸與シ同人所有ノ自轉車一輛ヲ其擔保ニ供セシメタル旨ヲ認メタルニ拘ハラス被告カ該自轉車ヲ入質シタルハ斯斯ノ理由ニ依リ不法ナリトノ旨ヲ判示セス漫然刑法第二百五十二條ニ依リ處斷シタルハ理由不備ノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ○本論旨ノ理由ナキコトモ亦論旨第一點ニ對スル説明ニ依リ推知スヘシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事中川一介干與明治四十四年三月二十日大審院第二刑事部

○殺人ノ件

明治四十四年(れ)第二五一號
明治四十四年三月二十日宣告

○判決要旨

一豫審判事カ鑑定人ヲ訊問スルニ當リ同人ト民事原告人トノ關係ヲ問査スヘキ場合ハ其當時被告事件ニ牽聯セル民事訴訟ノ提起アリタル時ニ限ルモノトス從テ該訴訟ノ繫屬セサルコト明確ナル場合ニハ如上ノ問査ヲ爲スノ要ナシ（判旨第二點）

一豫審判事カ被告人ニ對シテ位記、勳章、從軍記章又ハ年金、恩給等ノ有無ヲ問査スルコトハ法定ノ要件ニ非サレハ縱令其訊問ヲ缺クモ之カ爲メ被告人ニ對スル訊問ノ全體ヲ違法トシ其調書ヲ無效ナラシムヘキモノニ非ス（判旨第三點）

第一審　宇都宮地方裁判所　第二審　東京控訴院

鑑定人ニ對スル身分關係ノ問査○位記勳章等ノ有無ヲ問査セサル調書ノ效力

被告人　鈴木秀吉　辯護人　磯部四郎

右殺人被告事件ニ付明治四十四年一月十六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告上告趣意書ハ被告ノ眞實ナリトスル事情ヲ縷述シ原判決ノ認定セル事實及其採用セル證憑ニ付キ非難ヲ試ミ延テ法律ノ適用ヲ攻擊スル趣旨ニ外ナラサレハ適法ノ上告理由ナシ

被告辯護人法學博士磯部四郎上告趣意書第一點刑法第百二十一條同第百二十三條同第百三十六條ニ依レハ鑑定人ヲ訊問スルニ當リテハ第一民事原告人ナリヤ第二民事原告人及被告人ノ親屬（但シ姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ）ナリヤ第三民事原告人及被告人ノ後見人又ハ此等ノ後見ヲ受クルモノナリヤ第四民事原告人及被告人ノ雇人又ハ同居人ナリヤ否ヤヲ問ヒ定メサル可ラス然ルニ本件鑑定人神野勇三郎ノ訊問調書ヲ見ルニ（記錄十二丁）鈴木秀吉ト親族後見人雇人同居等ノ關係アリヤ否ヤヲ訊問セラレタルノミニシテ民事原告人トノ關係ニ至リテハ何等訊問セラレタル事蹟ナシ是レ刑事訴訟法前記法條ニ違背シタル無效ノ手續ナルニ原判決カ如斯違法ノ手續ニ依リテ成リタル神野勇三郎ノ鑑定書ヲ採テ斷罪ノ用ニ供セラレタルハ不法ニシテ破毀ノ原因タリト信スト云フニ在レトモ

○豫審判事カ鑑定人ヲ訊問スルニ當リ刑事訴訟法第百三十六條第百二十一條ニ依リ鑑定人ト民事原告人トノ關係ヲ問査スヘキハ其當時被告事件ニ牽聯セル民事訴訟ノ提起アリタル場合ニ限ルモノニシテ右民事訴訟ノ繫屬セサルコト明確ナル場合ニ在テハ民事原告人ノ存在スヘキ理由ナケレハ其者トノ關係ヲ問査スルノ要ナキヤ勿論ナリ本件ニ於テ現行犯ニ付キ豫審處分ヲ爲セル檢事カ鑑定人神野勇三郎ヲ訊問スル際民事原告人トノ關係ニ付キ問査スル所ナカリシハ當時被告人ニ對シテ當該刑事事件ニ牽聯シテ民事訴訟ノ提起ナカリシニ因ルモノニシテ何等ノ違法アルモノニ非ス故ニ該鑑定人ノ作成シタル鑑定書カ形式上適法ナルニ於テハ之ヲ採用シテ罪證ニ供シタル原判決ハ違法ニ非ス

第二點島倉檢事ノ被告ニ對スル訊問調書（記錄三十六丁以下）ハ刑事訴訟法第百四十四條ニ則リタル豫審處分ナルヲ以テ先ツ被告ノ位記勳章從軍記章又ハ年金恩給等ノ有無ヲ究明セサル可ラサルモノナルニ其事ナキハ不法無效ナリ然ルニ原判決カ該調書ヲ檢事ノ聽取書トシテ援引斷罪セラレタルハ不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ○按スルニ豫審判事カ被告人ニ對シ被告事件以外ニ於テ如何ナル事項ヲ訊問スルコトヲ要スルヤハ刑事訴訟法上規定スル所ナキヲ以テ被告人ノ何人ナルヤ又其人違ナキヤ否ヤヲ確カムル爲メ其氏名、年齡、身分、職業、住所、出生ノ地ヲ問フ（刑事訴訟法第二百十八條參照）コトハ必然ノ手續ナルヘク又一定ノ目的ヲ以テ所論ノ如キ事項ヲ問査スルハ相當ナルヘシト雖モ是等ノ事項ハ法定ノ要件ニ非サルヲ以テ其訊問ヲ缺キタリトスルモ之カ爲メニ被告人ニ對スル訊問ノ全體

ヲ違法ナラシメ從テ訊問調書ヲ無效ナラシムベキニ非ス而シテ檢事カ現行犯ニ付キ豫審處分ヲ爲シ被告人ヲ訊問スル場合ニ於テモ亦同一結論ニ歸着スヘシ故ニ所論檢事ノ被告人訊問調書ハ違法ニ非サレハ之ヲ採用シタル原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事中川一介干與明治四十四年三月二十日大審院第二刑事部

○文書僞造行使詐欺取財等ノ件

明治四十四年(れ)第二三二號
明治四十四年三月二十一日宣告

◎判決要旨

一刑法第百五十五條ニ所謂公務員ノ印章トハ公文書ヲ作成スルニ當リ之ニ公務員ノ印トシテ使用スル一切ノ印章ヲ汎稱シ其本來ノ性質カ私印ナルト否トハ之レヲ區別セサルノ法意ナリトス(判旨第二點)

(參照)行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(刑法第百五十五條第一項)

一封建時代ニ於ケル名主後見ハ村ノ代表者ニ非スシテ一ノ行政官ナリトス(判旨第十七點)

第一審　山形地方裁判所　第二審　宮城控訴院

被告人　井上安次郎外五名　辯護人　(音羽耕逸　若松桑吉　鶴澤總明　星野春吉　兼子獄治郎)

右文書僞造行使詐欺取財等被告事件ニ付被告安次郎、銀藏、幸善、傳兵衛、巨寛ニ付テハ明治四十三

公務員ノ印章ノ濫用○封建時代ニ於ケル名主後見ノ資格

年十月二十九日被告義左衛門ニ付テハ同年十二月三日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告傳兵衛上告趣意書第一點被告カ犯罪ニ罹リタリト云フ本件ノ原因タル證第二百十六號證ハ明治三十三年五月五日相被告庄司銀藏ニ於テ國有林民有引戻シ申請ノ際農商務省ヘ提出シ同三十七年六月十四日迄ノ間ニ行使シタルモノナリ此點ハ舊刑法ニヨリ處分ヲ受クヘキモノナルモ時效ニヨリ公訴權ハ消滅シ刑罰ヲ免レタルモノニシテ右僞造ハ此レニ依リテ確定シタルモノナリトス然ルニ其僞造ナル即チ證第二百十六號證ヲ同第四十一年十一月中（行政訴訟中ナリ）庄司銀藏代理人辯護士太田資時ヘ郵送行使シタル所爲ハ其行使罪ハ刑法第百六十一條ニ依リ處分ヲ受クヘキモノニシテ僞造罪ノ處斷ヲ受クヘキモノニ非ス若シ之レヲ僞造罪ニ問フモノトセハ一箇ノ僞造ニ付再ヒ刑罰ヲ科スルコトトナルナリ故ニ宮城控訴院カ僞造ノ條項ヲ適用シタルハ失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原審ニ於テ被告カ所揭ノ文書即證第二百十六號證ヲ僞造シタル事ヲ認メス從テ之レカ擬律ヲ爲シタル事ナケレハ本論旨ハ原審判旨ニ副ハサル不當ノ攻擊ナリトス

第二點假リニ僞造罪ナリトシテ論セシニ山形地方裁判所ハ被告等カ僞造セシト云フ證第二百六號證第二百七號證第二號證ニ付公文書僞造ニ對スル刑ノ適用ハ刑法第百五十五條第一項僞造ニ對スル刑ノ適用ハ同法第百六十七條ヲ以テセシハ相當ナルニ宮城控訴院ハ右第百六十七條ヲ適用スヘキモノニ非ストシ右私印僞造ノ所爲ハ公文書僞造ノ所爲即チ同法第百五十五條第一項ニ包括セラレ別罪ヲ組成スルモノニ非スト判決セラレタルハ失當ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○刑法第百五十五條ニ所謂公務員ノ印章トハ公文書ヲ作成スルニ該リ之ニ公務員ノ印トシテ使用スル一切ノ印章ヲ汎稱シ其本來ノ性質カ私印ナルト公印ナルトハ擧ケテ之ヲ區別セサルノ法意ト解釋スルヲ相當トス左レハ所揭判示ノ場合ニ於テハ右私印僞造行使ノ點ハ特ニ一罪ヲ構成スヘキモノニ非サレハ此レト同趣旨ニ出テタル原判決ハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第三點本件國有林引戻申請ノ目的タル山形縣最上郡安樂城村大字大澤字小又山一番及二番同所字小國西小又山一番同所字上小又山一番及二番國有林全部反別一千七百二十六町歩ナルヲ農商務省ニ申請中同省ノ官吏カ實地踏査ノ際字番號ノ符合セサルヲ以テ相被告庄司銀藏ニ於テ右反別ヲ減縮シテ六百三十四町餘歩ト訂正シタリ然ルニ本件行政訴訟ヲ爲スニ當リ右銀藏代理人辯護士松本隆治ニ於テ誤リテ全部ノ反別即チ一千七百二十六町歩トシ右訴訟ヲ提起セシニ被告農商務大臣ノ代理人辯護士岸清一ヨリ該係爭山地ノ反別ハ先キニ農商務省ニ申請中原告銀藏ニ於テ右山地全部ノ內六百三十四町餘歩ノミヲ申請シ有リナカラ今ヤ行政訴訟ヲ爲スニ當リ全部ノ反別即一千七百二十六町歩ヲ請求セルハ不當ニ

シテ農商務省ニ於テ未タ處分ヲ與ヘサル部分迄ヲモ謂レナク請求セルモノニシテ六百三十四町餘歩ノ外ハ決シテ請求スルノ權利ナシト答辯書（證第三號行政訴訟記錄中ノ被告代理人岸清一カ答辯書ナリ）ヲ呈セシ爲メ銀藏ニ於テハ辯護人松本隆治ヲ解任シ更ニ太田資時ヲ代理人トシ右松本辯護人カ全部ノ反別ヲ請求セシハ誤謬ナリト申立即チ六百三十四町餘歩ノミヲ係爭地トセシ次第ナリ然ルヲ本件ヲ告發スルニ當リ山林事務官中井勵作ノ明治四十二年七月三十一日ノ告發狀ニ不法ニモ該國有林ノ山地反別ノ全部一千七百二十六町歩ト記載セルヲ山形地方裁判所豫審判事モ右岸清一カ行政訴訟ノ答辯書ヲ一見シアリナカラ之レニ氣付カス又同裁判所ノ公判判事ニ於テモ氣付カスシテ全部ノ反別一千七百二十六町歩價額三萬四千五百二十圓並ニ立木杉檜椹松雜木等五十萬六千五百四十一本價額二十二萬六千三百九圓五十九錢八厘ニ相當スル山林立木ノ騙取ヲ遂ケサリシモノナリト理由ヲ付セラレ判決セラレタルニ宮城控訴院モ（明治四十三年四月十五日附）ヲ以テ相被告仁藤巨寛ヨリ右反別減縮ノ事ヲ宮城控訴院ヘ上申書ヲ呈シ置キタルニ同院ハ之レヲ輕輕看過シテ其儘判決セラレタリ）亦タ該一審ノ理由齟齬アル判決ヲ取消サス反別ニ付テハ其儘判決セラレタルハ失當ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ

○原審ニ於テ被告カ騙取セントシテ遂ケサリシ山林ノ反別ニ關シテハ更ニ所論ノ如キ明示ヲ爲シタルコトナキモ假リニ第一審ノ認メタル所論山林反別全部ヲ騙取ノ目的物ト爲シタルモノト認メタリトスルモ右ハ原審カ職權上適法ニ認定シタル事實ナルヲ以テ捉ヘテ上告論旨ト爲スコトヲ得サルモノトス

第四點相被告庄司銀藏等カ僞造セル證第二百十六號證ハ寛保三年亥十一月附ニテ山奉行早坂源太左衛門金田猪之助ヘ宛タルモノニシテ同年十二月二十日附ニテ杉檜植立相叶尤モ末末ニ至リ相拂候節ハ御定法ノ通リ十分ノ一運上取立急度上納可有之旨ノ早坂源太左衛門金田猪之助名義ノ御判紙ナリ然ルニ右早坂源太左衛門ハ安永六年酉ノ四月中ノ山奉行ニシテ遙カニ三十五年以前ナル寛保三年亥ノ十二月ノ山奉行ニアラス又金田猪之助ハ天明三年卯ノ正月ノ山奉行ニシテ遙ニ四十一年以前ノ寛保三年亥ノ十二月ノ山奉行ニアラサル事ハ（證第二百十七號新庄藩舊藩政古格書拔）ノ山奉行年代人名ノ部ニ明カニシテ一見之レヲ視ルニ足ル然ラハ該二百十六號證ハ年代ニ在ラサル早坂源太左衛門金田猪之助ヲ山奉行ナリト僞造セルモ其年度其人アラサレハ之ヲ以テ僞造罪ナリト斷定セル宮城控訴院ノ判決ハ失當ノ裁判ナリトスト云ヒ」被告幸善辯護人音羽耕逸被告巨寛辯護人星野春吉、若松桑吉上告趣意書第一點本件ニ於テ被告巨寛ノ干與シタル犯罪事實ハ一、嘉永六年五月十日附北角廳ノ辭令書二、天明三年八月二十日附庄司清六ヨリ提出シタル願書ニ同年十月七日金田猪之助三助ノ判紙三、寶曆六年三月十日附水原官左衛門、中野門七判紙四、十助外七名ノ受取書ノ僞造行使ナルニ（原判決認定事實第三）原判決理由中前顯氏名ノ人人ノ當時生存セルヤ否ヤ及其職權ノ存否認定ニ關シテハ被告安次郎ノ供述ニ係ル「寶曆年間ハ官左衛門、門七兩名山奉行ナセシ故云云」同森充右衛門ノ供述ニ係ル北角廳ハ北

條角麿ノコトナルヘク新庄藩士族ニ代代其名前アリ郡奉行ヲ致シ居リシコトアル旨」同第二一七號證新庄藩舊藩政古格書抜ニ山奉行寳暦六子二月水原官左衛門同六子十一月中野門七安永六丙四月早坂源太左衛門天明三卯四月金田猪之助ノ記載ヲ引用シアルニ止マリ天明三年ヲ去ル四十年前ノ寛保三年ニハ早坂源太左衛門金田猪之助カ生存山奉行タリシコトノ證據說明ナク嘉永六年ニ北角麿ナルモノカ生存山奉行タリシコトノ證據說明ナク寛保二年十月中十助外七名ノ生存シアリシ際證據說明ナシ即原判決ハ理由不備ノ不法アルト同時ニ虛無ノ證據ニ依リ事實ヲ認定シタルノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原審ニ於テハ判文所揭ノ各證憑ヲ綜合シ右判示事實ヲ認定シタルモノナルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

被告傳兵衛上告趣意書第五點山形地方裁判所ハ本件ヲ舊刑法ノ重罪ナリトシ判決ヲ與ヘタルニ被告共ヘ對シ其刑期ハ三年六个月ヲ重シトシ二个年ヲ輕シトセリ即チ三年六个月ヨリ二个年迄ノ刑ノ言渡ヲ受ケタリ一審檢事官モ亦之ヲ相當トシ控訴モ起ササリシ又二審ノ檢事官モ該刑期ヲ相當トセリ然ラハ本件ハ舊刑法ノ懲役六年以上ノモノニ非サレハ即チ重罪ニアラス然ルヲ二審即チ宮城控訴院ハ之ヲ重罪ナリトシ豫備訊問ヲ開始セラレ重罪裁判所ヲ構成セラレタルハ失當ノ裁判ナリトスト云ヒ」被告安次郎第三事實ニ對スル上告趣意書第三點本件被告共ヘ對シ山形地方裁判所ハ舊刑法ノ六年以上ノ懲役ノ刑ヲ科セスシテ三年六个月ヨリ二年迄ノ判決ヲ與ヘタルニ原院ハ之レヲ重罪犯ナリトシ豫備訊問ヲ開始セラレ重罪裁判所ヲ構成シ判決セラレタルハ違法ノ裁判ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ○本案被告等ノ所爲ハ刑法第百五十五條ニ該當シ一年以上十年以下ノ懲役刑ヲ以テ處分スヘキモノナレハ原審ニ於テハ刑法施行法第二十九條ノ規定ニ從ヒ重罪審理ノ手續ヲ履踐シタルモノナレハ本論旨ハ理由ナシ

被告傳兵衛上告趣意書第六點被告等カ僞造セシト云フ證第二百十六號第二百七號第二號第一號ノ各人名ノ下ニ捺セシ印影ハ悉皆元印アルモノヲ基トシ似造セシモノニ非ラスシテ相被告井上安次郎ニ於テ勝手次第ノ印ヲ彫刻シテ各名下ニ押捺シ或ハ三文判ヲ捺セシモノニシテ現ニ證第六號ノ北角麿ノ名下ニ勝手次第ノ印ヲ捺シ該印ヲ尙又證第二號ノ中野門七ノ名下ニ押用セシ等ノ事實ニシテ證第一號ノ十太郎名下ノ印モ亦元印アリテ似造セシモノニ非スシテ勝手次第ノ三文判ヲ捺セシモノナレハ精密ニ研鑽シ來レハ一モ人ヲ害スル程度ニ至リシ證據トナラサルノミナラス反故紙ト同一ノモノニシテ所謂小兒ノ戲レヲナシタル如キモノナレハ決シテ僞造罪ハ成立セサルモノナリ然ルヲ宮城控訴院ハ之レ（證第二百十六號第二百六號第二百七號第二號ヲ云フ）ヲシテ私書僞造罪ナリト判決セラレタルハ失當ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○印章僞造ノ場合ニ於テハ所論ノ如ク元印ナルモノノ存在ヲ必要トセス其僞造セラレタル印章カ苟モ他人ヲシテ僞造セラレタル者ノ印章ト信セシムルニ足ルモノナル以上直ニ本罪ヲ構成ス可キコトハ當院ノ判例トシ

テ認ムル所ナルヲ以テ既ニ判示ノ如ク被告等ニ於テ右僞造印ヲ使用シ所掲各號ノ文書ヲ僞造行使シタル以上判示ノ如ク處分スヘキハ當然ナリトス

被告安次郎辯護人兼子歡治郎上告趣意書第一點原判決ハ事實第三ニ於テ被告安次郎ノ犯罪事實トシテ被告安次郎ハ相被告庄司銀藏外五名ト共謀シ一、嘉永六年丑年五月十日附舊新庄藩郡奉行タリシ北角應名義ノ所謂辭令書（四十二年(ト)第四十五號事件證第二〇六號）一、天明三卯年八月二十日庄司清六ヨリ當時舊新庄藩山奉行タル金田猪之助宛ノ願書及ヒ該願書ニ對スル卯七月七日附猪之助名義ヲ以テ奥書ヲ爲セル所謂御判紙（同上事件ノ證第二〇七號）一、寶暦六子年三月十日附庄司清六ヨリ當時ノ新庄藩山奉行タル水原官右衛門中野門七宛ノ願書及該願書ニ對スル水原官右衛門中野門七連署ヲ以テ爲シタル所謂御判紙（同上事件ノ證第二號）一、寛保二戌十月附十助外七名代十太郎ヨリ清六宛ノ苗木植立人夫賃ノ受領證（同上事件ノ證第一號）ヲ僞造シタルコトヲ認定シタリ抑文書僞造罪ハ文書ノ作成カ名義者タル資格ヲ詐ル所爲ニシテ其使用セラレタル作成名義者ハ實在ノ者タルコトヲ要スルハ御院判例（明治四十三年(れ)第二〇一四號同年十一月十八日宣告）ノ明示スル所ニシテ毫モ疑ヲ容レス從ヒテ本件ニ於テ前掲被告ノ所爲ヲ文書僞造罪トシテ處斷センニハ該文書ニ各作成名義者トシテ使用セラレタルモノハ該文書記載ノ日附當時該文書ニ記載セル資格權限アルモノトシテ實在セルモノナルコトヲ各證據ニヨリ明確ニ說明セサルヘカラサルヤ勿論ナリ然ルニ原判決ハ其證據說明ニ於テ此重要ナル點ニ關シ何等說示スル所ナク只漫然被告ノ所爲ヲ文書僞造罪トシテ認定セルハ理由不備ノ不法アル判決ナリト云フニ在レトモ○原審ニ於テハ判文列記ノ各證憑ヲ綜合シ所論ノ事實ヲ認メタルモノナルコト明瞭ナルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第二點相被告及ヒ其辯護人ヨリ提出シタル又ハ提出セラルヘキ上告趣意書全部ヲ被告ノ利益ニ援用スト云フニ在レトモ○其援用ニ係ル相被告並ニ其辯護人ノ上告趣旨ノ理由ナキコト各其論旨ニ對シ說明スル如クナルヲ以テ從テ本論旨亦理由ナシ

被告銀藏上告趣意書第一點原判決ノ認定シタル事實ニヨレハ「第二被告銀藏龜吉ハ云云多門ノ祖先正巖院カ往時山形縣最上郡安樂城村大字差首鍋ノ山屋觀音堂ノ別當タリシヲ幸トシ正巖院カ當時ノ藩廳ヨリ該境内ニ杉檜植立方許可セラレタル旨ノ御判紙ヲ僞造行使シ云云杉檜等ヲ騙取セント企畫シ云云享保三年戊年三月十五日附山屋觀音堂別當正巖院ヨリ當時ノ舊新庄藩山奉行タリシ松永孫平治宛差首鍋村山屋ニ杉五百本檜二百本ノ苗木ヲ植立テタルニ付御判紙頂戴仕度奉願旨ノ願書ニ戌五月十日附松永孫平治名義ヲ以テ表書ノ通御札附ニテ相致叶候杉檜植立末末ニ至リ伐取候節ハ御定法ノ運上急度上納可有之旨ノ奥書ヲ爲シタル所謂御判紙ヲ筆記セシメ云云前顯山奉行カ職務上其年代ニ作成シタルモノノ如ク僞造ヲ完成シ云云ト說明シ刑法第百五十五條第一項ニ問擬セラレタリ然レトモ前示御判紙ナルモノカ果シテ刑法第百五十五條ノ所謂公務所又ハ公務員カ其職務ノ權限内ニ於テ作成セラレタルモ

ノナルヤ否ヤ及ヒ松永孫平治カ當時果シテ認定事實ノ如ク公務員タリシヤ否ヤノ說明ヲ缺如スルノミナラス之ヲ認定シタルノ證據ハ絕テ之レアルコトナシ故ニ原判決ハ證據ニ據ラスシテ事實ヲ認定シタル不法ノ裁判ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信ス尙前示ノ事實ニ依リ刑法第百五十五條ヲ適用スルニハ須ラク其所謂御判紙ナルモノカ如何ナル理由ニヨリ官文書——公務員又ハ公務所ノ作成スヘキ文書ナルカ明瞭ナラス凡ソ官文書ナルモノハ法令ノ規定若ハ官廳ノ內達慣例等ニ於テ作成セラレタルモノナラサルヘカラス然ルニ原院ニ於テハ毫モ是等ノ事實問題ヲ解決セスシテ漫然刑ヲ言渡シタルハ理由不備ナル不法ノ裁判ナリ（御院判例三十五年六卷一〇六頁三十九年一二三頁三十九年一一八頁參照）ト云フニ在レトモ○所揭御判紙ナルモノハ當時ノ官吏タリシ山奉行ノ職權上作成スヘキ文書ナルコトハ該文書自體ニ徵シ明瞭ナルヲ以テ特ニ證據ニ依リ其性質ヲ說明スルノ要ナク其他ハ原審ニ於テ判文列記ノ各證憑ヲ綜合シ所論ノ事實ヲ認定シタルコト明瞭ナルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ノ認メタル第三判示事實ニ依レハ「被告幸善、銀藏等ハ云云御判紙ヲ僞造行使シ森林下戾名義ヲ以テ土地立木ヲ騙取センコトヲ渡邊榮三郎ト共謀シ云云明治三十二年十一月中農商務大臣ニ提出行使シタルモ同三十七年六月十四日不許可ノ指令受クルニ至レリ云云」ト說示シ尙行政訴訟提起ニ要スル證據物トシテ他ニモ二三ノ僞造文書（所謂御判紙ト稱スルモノ）ヲ作成行使シタルモノトシ法律適用ノ點ニ至リ刑法第五十五條ヲ適用セラレタリ然レトモ前記判示事實ヲ以テ連續犯ナリトセンニハ第一ノ文書僞造行使ノ際ニ於テ全部（即チ其後ニ於ケル僞造文書ノ行使ヲ云フ）ニ對スル犯罪決意ヲ有シ其決意ニ基キ行爲ヲ反覆シタルモノトナササルヘカラス然ルニ原判決ハ第一ノ文書僞造行使ノ際其決意中ニ包含セラレス爾後ニ於テ別案ニ形成セラレタル犯意ニ基キナシタル第二以下ノ僞造文書行使ハ偶〻同一ノ法意ニ對スル侵害行爲ナリトノ謬見ヨリ漫然連續犯ト認定シタルハ理由不備ニアラサレハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ結局破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○右ハ原審ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ上告適法ノ理由トナラス

第三點共同被告ノ上告理由ハ總テ之ヲ自己ノ利益ニ援用スト云フニ在レトモ○共同被告人共ヨリ提出シタル上告論旨ノ理由ナキ事ハ各其論旨ニ對シ說明シタル如クナルヲ以テ之ヲ援用スル本論旨亦理由ナシ

被告安次郎第一事實ニ對スル趣意書第一點第一事件ト第三事件ト併合シテ一回ノ公判開廷ス然ルニ續行延期トナリ公判半ニシテ第一事件ノ伊藤義左衛門ノ取調ヲ分離シタリ然ルニ第一事件ニ付テハ一回ノ辯論モセスシテ直ニ第三事件ヘ併合ノ裁判ヲ與ヘタリ即チ本人ナル義左衛門ハ未タ公判ノ審理モ遂ケス辯論モ終ラス本人義左衛門ノ判決如何ノ分ラサル二十餘日以前ニ分離シタル第一事件ヲ一回ノ辯論ヲモセスシテ直ニ第三事件ニ併合ノ判決ヲ爲シタルハ失當ニシテ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○記錄ヲ查スルニ本件ハ順次三回ニ起訴セラレタル事實ナルモ第一審ニ於テ右三事實ヲ併合審理シ唯

一ノ判決ヲ以テ各被告等ヲ有罪ニ處分シ原審ニ於テハ右判決ニ對スル被告等ノ控訴ヲ受理シ明治四十三年七月七日被告共一同ニ對シ事實全部ノ審理ヲ爲シタル末證據調ノ都合ニ依リ續行スル事ト爲リ同十月六日第二回審理ノ際便宜上職權ヲ以テ相被告義左衛門一人ノミヲ本件ヨリ分離シテ同月二十九日殘ル被告等一同ニ對シ本案全部ノ判決ヲ爲シタルモノナレハ原審ノ審理手續ニハ何等ノ不法アルコトナシ

第二點僞造物ト認定セラレシ山口村差出明細帳ハ明治四十年六月十五日原審相被告佐藤友之助ナル者突然自分宅ヘ來リ此帳簿認メ呉ルル人ナキヤト云フ故當町ノ人林源太方ヘ友之助ヲ同道シテ右執筆ヲ紹介シタルノミニテ右帳簿ハ如何ナル文言ヲ書キタルヤ知ラス其後七月二十日義左衛門ヨリ私印ノ彫刻依頼ヲ受ケ八箇ノ印章ヲ彫刻シタリ右私印ハ捺印アル押影ヲ僞造彫刻シタル者ニ無之自分適宜ニ彫刻シタルモノニテ營業上取締違背ナキ樣ノ彫刻ヲ爲シタル次第ナリ右八箇ノ印彫刻出來上リ八月五日義左衛門方ヘ持參シ同人ヘ渡シ直ニ歸宅セリ故ニ右印章ハ如何ナル書類ニ使用シタルヤ更ニ知ラス然ルニ右帳簿ノ村差出明細帳ハ明治四十年六月二十五日ヲ以テ行政裁判所ヘ立證トシテ提出シタルニ自分カ彫刻シ出來上リ持參シ渡シタルハ八月五日ナリ又自分カ彫刻シタル印章ハ八箇ナリ然ルニ右帳簿ニハ十五六箇ノ押捺印アリ左レハ自分カ彫刻シタル印ヲ右帳簿ニ捺印シタリトスレハ七八箇ノ印章不足ナリ右ニ對シ印箇數ハ符合セス又帳簿ハ四十年六月二十五日ヲ以テ行政裁判所ヘ提出シタルナレハ印ノ彫刻出來上リタルハ八月五日ナレハ提出後四十日ニ帳簿ハ出來上リタルモノトスレハ帳簿作成シタル日數符合セス自分ニ於テ右帳簿僞造シタルモノニ非ラサルハ明白ナリ然ルニ裁判所カ是レニ對シ右帳簿ハ明治四十年五六月中作成シタルモノナリト印ノ依頼ヲ受ケタル日及ヒ彫刻出來上リタル日ヲ明瞭ニ陳述シタルニモ拘ハラス空想ノ理ヲ付シ不足ナル七八箇ノ印章ハ如何ナルヤ又帳簿ヲ提出シタル月日ト作成出來上リタル月日ノ相違ハ如何ナルヤ確實ナル理由ヲ付セス直ニ齟齬ノ理由ヲ以テ判決ヲ爲シタルハ違法ノ裁判ニシテ破毀ノ第二點ナリト云ヒ」第三點自分カ印章彫刻師ナルヲ以テ營業上依頼ヲ受ケタル者ニテ該事件ノ事情等ハ更ニ知ラス又行政訴訟中ナル事モ知ラス勿論共謀シタル覺ナシ右事件ニハ一切關係ナク只營業ノ上カラ印章ヲ彫刻シタルノミニテ印章ノ捺印アル印影ト同一ニ彫刻シタルモノニアラス自分カ適宜ニ字體ヲ認メ營業取締上違背ナキ樣彫刻シタルモノナリ依テ情實ヲ知リ共謀シタルニ非ラサルハ明瞭ナリ現ニ山形地方裁判所公判廷ニ於テ裁判長ハ相被告伊藤義左衛門ニ對シ本件ハ自分竝ニ友之助ヘ事實ヲ明カシテ共謀シタルニ非スヤトノ問ニ對シ義左衛門ハ此事實ハ私一己ノ巧ミニシテ決シテ自分竝ニ友之助ト共謀シタルモノニ非ラスト確タル答辯ヲ爲シタリ（山形地方裁判所ノ公判記錄ヲ詳細御閲覽ヲ願フ）然ルニ其レニ對シ原院ハ如何ナル理由アリテ自分ヲ義左衛門ト共謀シ僞造行使詐欺取財ナリト判定セラレタルハ違法ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○右ハ何レモ原審ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ上告適法ノ理由トナラス

被告安次郎第三事實ニ對スル趣意書第一點自分カ本件ノ書類ニ關シテハ更ニ其情實ヲ知ラス何トナレハ營業上ヨリ依頼ニ應シタルモノニテ書類ノ如キ印章ノ如キハ別ニ古代ノ書類又ハ印章モ其當時ノ人ノ捺印アル雛形ヲ其儘同一ニ書寫シタルモノニ非ラス印章モ捺影シタルモノニテ決シテ僞造シタルモノニ無之勿論右ノ如ク古代ノ書類印章ヲ同一ニ拵ヘタルモノナレハ自分ノ印判取締上違背ナレハ彫刻ノ依頼ニハ應スル能ハス自分ノ適宜彫刻ニ付單ニ囑ニ應シタリ此レニ對シ裁判所ハ其情ヲ知リテ僞造シタルナリト認定セラレタリ右古書類ノ如キハ一ノ骨董品ノ如シ書ニアレ畫ニアレ數百年ヲ經タル古代ノ書畫ヲ拵ヘタリトシテ例セハ豐臣秀吉公ノ書翰ナリトシ書畫書類ナリトシ拵ヘタリトテ是レヲ罰スルカ此レ即チ一ノ骨董品ニ過キス右ニ對シ僞造行使ナリト判定セラレタルハ違法ノ裁判ナリトス又右書類ハ情ヲ知リ行使スルモノナリトスレハ右書付中北角麿名義ノ（二百六號證）ト中野門七名義ノ（二號證）トヲ角麿タル下ニ捺印シタルヲ門七名下ニモ捺印ハセサルナリ何トナレハ其情モ知ラス行使スル事モ知ラサル爲メ何レノ書付モ同役所ヘ提出スルモノニ同印ヲ別別ノ名下ニ捺印シタリ此レ即チ其情ヲ知ラス行使スル事モ知ラス只タ參考物トシテ見ルモノナリトテ營業上依頼ニ應シ作成シタルナリ是レニ對シ自分ニ於テモ行使シタルモノト判示認定シタルハ不法ノ裁判ニシテ破毀ノ原因ナリトスト云ヒ」第二點本件ニハ自分カ關係共謀者ニハ無之如何トナレハ本件ノ關係者ハ各〻公正證ヲ經テ目的物ノ價格ヲ四分シ銀藏ヨリ關係者ニ對シ巨寛ニ何分幸善ニ何分菊右衛門ニ何分山人ニ何分傳兵衛ニ何分ト各〻分配ノ契約ヲ爲シタリ（山形公證役場高田休烈ノ事務所公正臺帳）ニ明記セリ尚押收物件中ニ契約證アリヤ右本件ニハ自分カ關係共謀者ニ非ラサル事ハ明明白白タリ然ルニ是レニ對シ僞造行使詐欺取財未遂ナリト判定シタルハ違法ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○右ハ何レモ原審ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ上告適法ノ理由トナラス

被告義左衛門辯護人法學博士鵜澤總明上告趣意書第一點原判決ハ被告ノ所爲中行政裁判所ノ判決ヲ受ケ明治四十一年一月中該判決ニ基キ當該官廳ヨリ山林ノ引渡ヲ受ケタル點ヲ刑法ニ問擬スルニ當リ刑法第二百四十六條第一項ヲ以テシタリ然レトモ同規定ハ專ラ一私人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スル所爲ヲ罰ス可キ場合ニシテ原判決認定ノ如キ官廳ヨリ財物ノ引渡ヲ受ケタル所爲ハ寧前揭第二百四十六條第二項ノ適用ヲ受ク可キモノト思料ス此點ニ於テ原判決ハ擬律錯誤ノ不法アリト云フニ在レトモ○右被告ノ所爲ハ行政裁判所ヲ欺罔シ國庫ヨリ判示ノ如ク有形ノ山林ヲ騙取シタルモノナルヲ以テ原審カ刑法第二百四十六條第一項ヲ適用シ被告ヲ處分シタリシハ相當ナリ何トナレハ斯ル場合ニ於テハ其被害者カ一私人タルト國庫タルトハ之ヲ區別スルノ理由存セサレハナリ左レハ本論旨ハ理由ナシ

第二點原判決認定ノ前記事實ヲ按スルニ刑法第二百四十六條第二項ノ適用ヲ受ク可キ場合ノ如ク見ユルヲ以テ此關係ヲ明白ナラシムル爲メ財產上不法ノ利益ヲ得タル趣旨ヲ詳細ニ說明セサル可カラス然ルニ原判決ハ之ヲ缺キタル點ニ於テ理由不備ナリト思料スト云フニ在レトモ○右第一論旨ノ理由ナキ

判旨第十七點

事前段説明スル所ノ如クナル以上所論ノ點ニ關シ原審ニ於テ何等説明ヲ爲サザリシハ當然ナリ

第三點名主及ヒ名主後見カ官吏ナリヤ否ヤニ就テハ大ニ疑義アル所ナリ從來ノ慣例ニ依リ村民ノ選擧ヲ基本トシテ官ノ認可ヲ要件トシタル就職ノ形式ニヨリ論スレハ寧ロ公吏タルモノノ如シ殊ニ藩制ノ下ニ於テハ　天皇大權ノ行動ニ基ク官吏任命ノ方式ト甚タ異レルモノアリ任職ノ制度上一概ニ論ス可ラザルモノアリ故ニ原判決ニ於テ公吏ノ見解ヲ採レル第一審判決ヲ訂正スル以上ハ審ニ其理由ヲ示サザル可ラス然ルニ原判決茲ニ出テスシテ官吏ノ認定ヲ下シタルハ失當ナリト云フニ在レトモ○市町村制ノ實施前ニ在リテハ法制上法人格ヲ有スル町村ヲ認メザリシヲ以テ判示當時ニ於ケル名主後見ハ村ノ代表者ニ非スシテ藩制ノ下ニ於ケル一ノ行政官タリシコト勿論ナレハ此レト同一見解ニ出テタル原判決ハ相當ナリトス而シテ斯ル法制上公著ノ事實ニ對シテハ特ニ説明スルノ必要ナシ

被告幸善辯護人音羽耕逸被告巨寛辯護人星野春吉、若松粂吉上告趣意書第二點本件ノ豫審請求書（記錄二冊ノ中甲號ノ分第一一五丁及第一六三丁參看）ハ明治四十二年八月十日附並ニ同十二日附ノ分共ニ起訴檢事ノ所屬官署ノ印ヲ押捺シアルコトナク又右ハ官署ノ印ヲ用ユルコト能ハサリシ場合ニ作成セラレタル書類ナリトスルモ其之ヲ用ユルコト能ハサリシ事由ヲ記載シアラサルヲ以テ即チ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ背キタル無效ノ書類ニ屬シ結局適法ナル公訴ノ提起ナカリシニ歸スルヲ以テ之レカ起訴アリタルモノトシテ原院カ言渡シタル原判決モ亦違法ヲ免レサルモノナリト云フニ在レトモ○

右豫審請求書ニハ最上郡（山形縣）眞室村大字新町正源寺ニ於テ云云ト記載アリテ該文書ハ當該檢事カ出張先ニ於テ作成シタルモノナル事明瞭ナルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ押捺シアラサルモ所揭條文ノ趣旨ニ照シ該請求書ハ無效ニ非ス左レハ本論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ第三犯罪事實ノ認定ノ資料トシテ庄司銀藏第一回及第三回豫審調書ヲ採用シ該調書中「私方ハ大澤村ニ於ケル舊家ニシテ祖先代代大山守ヲ致シ四代前ノ清六モ亦然リシ所」トノ同人供述ヲ以テ斷罪ノ資ニ供セラレタリ然ルニ今親シク該調書中同人ノ供述ヲ精査スルニ銀藏ノ祖先カ代代大山守ヲ爲シ居タル趣旨ノ記載ハ存スルモ何レノ部分ニ於テモ被告ノ四代前ノ清六カ大山守ヲ爲シ居タリシトノ事實ニ就テハ更ニ其ノ供述シアルナシ即チ原判決ハ虛無ノ證據ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アリト云フニ在レトモ○右銀藏ニ對スル豫審調書記載ノ趣旨ハ原判決ニ援用シタル所ト同一趣旨ニ解釋シ得ヘキヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第四點原判決ハ第三犯罪事實認定ノ證據トシ「被告幸善第四回豫審調書ニ同人ノ供述トシテ證第二一六號役人金田猪之助名下ノ眞章トアル印ハ私カ彫刻セシメタル印章ノ影跡ニ相違ナキ旨ノ記載」ト説示セラレタリ然ルニ今具サニ右調書中同人ノ供述ヲ精査スルニ「只今二百十六號證ヲ示サレ役人金田猪之助名下ニ押シアル眞章トアル印影ハ正ニ私カ○○○（此三字不明）ニ與レタ印章ニ相違ナク依テ其書類ハ銀藏儀八郎○○○（此三字不明）等申合ハセ僞造シタルモノテナイカト思ハル」トノ供述ハ

存スルモ何レノ部分ニ於テモ被告幸善カ自ラ其印ヲ彫刻セシメタリトノ自白ヲ爲シタル形跡ナシ果シテ然ラハ原判決ハ被告ノ自白ナキニ不拘自白アリタルモノト爲シ架空ノ證憑ニ依リ被告ノ行爲ヲ認メタルノ不法アリト云フニ在レトモ◎原判決中被告幸善第四回豫審調書トアルハ第五回豫審調書ノ誤記ナル事記錄上明確ナルヲ以テ所論旨ハ理由ナシ

第五點原判決カ其第三事實ヲ認定スル爲メニ被告佐藤傳兵衛第二回豫審調書ヲ採用シタルコトハ其證據説明ノ部ニ依テ明ナリ依テ被告傳兵衛ノ第二回豫審調書ヲ閲スルニ被告傳兵衛ノ署名ノミアリテ捺印ナク又捺印セシメサル理由ノ附記モナシ之レ即チ刑事訴訟法第九十五條第二項ニ違背セル不法アルモノニシテ該調書ハ無效ノモノナリ此無效ノ調書ヲ證據トシテ採用シタル原判決ハ虚無ノ證據ニ依テ事實ヲ認定シタル不法アルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ◎刑事訴訟法第二十一條第二號ニハ官吏公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲スヘシトアリテ所揭右同法第九十五條第二項ノ規定ハ前顯條文ノ趣旨ニ變更セラレタルモノト解スヘキコトハ本院判例トスル所ナルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第六點相被告銀藏傳兵衛及安次郎竝ニ其各辯護人ノ上告趣意ノ各論旨ヲ被告巨寛及幸善ノ爲メニ援用スト云フニ在レトモ◎其援用スル各被告人及辯護人ノ論旨ノ理由ナキコト各其論旨ニ對シ説明スル如クナルヲ以テ從テ本論旨亦理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與明治四十四年三月二十一日大審院第一刑事部

○瀆職誣告及僞證等ノ件

明治四十四年(れ)第二三八號
明治四十四年三月二十一日宣告

◎判決要旨

一裁判所カ被告ノ犯シタル證憑湮滅ノ罪ニ付キ懲役刑ヲ選擇シ之ト僞證罪トノ併合罪ニ對スル併合刑ヲ定ムルニ當リ重キ僞證ノ罪ニ付キ規定セラレタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘ三月以上十五年以下ノ懲役刑ノ範圍内ニ於テ科刑ヲ量定シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノトス(判旨第一點)

一刑法第百四條ニ證憑ヲ湮滅シトアルハ證憑タルヘキ物件ヲ湮滅スルコトノ外證人又ハ參考人トシテ刑事被告事件ノ證憑ト爲ルヘキ者ヲ隱匿スル場合ヲモ包含ス(判旨第二點)

刑法第四十七條但書ニ違反セル判決○證憑湮滅ノ意義

（參照）他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ僞造、變造シ若クハ僞造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス（刑法第百四條）

第一審　廣島地方裁判所　　第二審　廣島控訴院

被告人　倉本久三郎外三名　　辯護人（吉野千代吉 森保助三郎）

右久三郎ニ對スル瀆職誣告及僞證義一ニ對スル瀆職及僞證常市ニ對スル僞證義敬ニ對スル僞證及證憑湮滅被告事件ニ付明治四十三年十二月二十日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

原判決中被告義一義敬ニ關スル部分ヲ破毀シ

被告義一ヲ懲役三月ニ被告義敬ヲ懲役五月ニ處ス

公訴裁判費用ハ被告義一義敬ニ於テ原審共同被告久三郎常市ト平等負擔スヘシ

被告久三郎常市ノ上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告義敬辯護人吉野千代吉上告趣意書第一點原判決ハ第一審判決ヲ是認シ控訴棄却ノ判決ヲ與ヘタルモノナリ而シテ第一審判決ノ理由ヲ見ルニ其末段ニ於テ「尙被告久三郎義一及義敬ニ對シテハ本案ハ有期懲役ニ處スヘキ罪ノ併發シタルモノナルニ付孰レモ同法第四十五條第四十七條第十條ニ依リ其最

モ重シト認ムル各僞證ノ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタル範圍ニ於テ處斷スヘク」云云トアリ即チ刑法第百六十九條ニ定メタル十年ノ長期ニ其半數ヲ加ヘ其範圍ニ於テ處斷セラレタルモノナリ而シテ原審ニ於テモ亦之ヲ是認セラレタルモノナルカ故ニ結局同一ナル法律上ノ基礎ノ下ニ處罰セラレタルモノナリ然リト雖モ刑法第四十七條但書ニ依レハ各罪ニ就キ定メタル刑ノ長期ヲ超ユルコトヲ得サルカ故ニ本件ニ於ケル僞證罪ニ對スル刑法第百六十九條及證據湮滅罪ニ對スル刑法第百四條ノ各長期ヲ合算スルトキハ十二年ト相成リ第一審及原審ハ右十二年ノ範圍ニ於テ處斷セラルヘキモノナルニ拘ハラス前記ノ如ク十五年ノ範圍ニ於テ處斷セラレタルハ法律ニ違背シ被告人ヲ相當ノ刑ヨリ重ク罰セラレタルモノニシテ擬律錯誤ノ不法アルモノト思料スト云フニ在リ○仍テ第一審判決及原判決ヲ查スルニ第一審判決法律適用ノ部ニ論旨所揭ノ如キ記載アリテ同判文ニ依レハ第一審裁判所ハ被告義敬カ犯シタル判示證憑湮滅ノ罪ニ付テハ懲役刑ヲ選擇シ此ト判示僞證罪トノ併合罪ニ對スル併合刑ヲ定ムルニ當リ重キ僞證ノ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノ即チ三月以上十五年以下ノ懲役刑ノ範圍內ニ於テ科刑ヲ量定シタルモノニシテ其長期カ右各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノ即チ懲役十二年ヲ超ヘタルハ刑法第四十七條但書ノ規定ニ違犯シタルモノニシテ同判決ハ同條但書ヲ適用セサル擬律錯誤ノ違法アルモノトス然ルニ原判決ニ於テ此違法アル第一審判決ヲ是認シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ是亦擬律錯誤ノ違法アルヲ以テ同判決ハ破毀ヲ免レス

第二點原判決ハ被告人カ證人「森ミサヲ」ヲ廣島市ニ立チ去ラシメタルノ事實ヲ認メ之ニ對シテ證憑湮滅罪ヲ以テ處斷セラレタリ（判決理由參照）然リト雖モ刑法第百四條ニ所謂證憑湮滅トハ證憑トナルヘキ人若クハ物件ヲ滅失セシムルコトヲ意味スヘキハ其湮滅ナル文字ヲ用ヒタルコトニ依テ明カナリ即チ例ヘハ證人トナルヘキ者ヲ暗殺シ又ハ證據トナルヘキ物件ヲ燒棄スル等物質的ニ滅失セシメ犯罪ノ搜査上遂ニ證據蒐集ヲ不能ナラシムル場合ヲ指稱スルモノニシテ決シテ犯罪ノ搜査上單純ナル障害ヲ加フルカ如キ行爲ハ同條ニ所謂湮滅ニアラス假リニ同罪ニ對シ未遂ヲ罰スルノ規定アラハ被告人ノ行爲ハ其未遂罪ヲ以テ罰スヘキ所爲ニ該當スヘキモ同罪ニハ未遂ヲ罰スヘキ規定存セサルカ故ニ原判決カ認メタル如キ被告人ノ行爲ニ對シテハ處罰セラルヘキモノニ非スト信ス然ルニ原判決カ證據湮滅罪ヲ以テ處斷シタルハ不法ノ裁判ナリト思料スト云フニ在レトモ○刑法第百四條ニ所謂證憑ヲ湮滅シトハ證憑タルヘキ物件ヲ湮滅スルコトノ外ニ證人又ハ參考人トシテ刑事被告事件ノ證憑トナルヘキ者ヲ隱匿スル場合ヲモ包含スルモノト解スルハ同條ノ規定ニヨリ刑事被告事件ノ證憑ヲ保全セントスル立法ノ趣旨ニ適合スルモノト謂フヘキナリ從テ原判決認定ノ如ク被告カ判示刑事被告事件ノ證人トナルヘキ森ミサヲニ對スル當該官廳ノ取調ヲ不能ナラシムル爲メ同人ヲシテ判示地方ニ逃走セシメ之ヲ隱匿シタル所爲ハ證憑湮滅ノ罪トシテ前記法條ニ依リ處罰スヘキモノトス從テ本論旨ハ理由ナシ

第三點原審ニ於テ被告人ノ辯護人ハ證人「篠塚マス」ノ喚問ヲ求メタルニ之ヲ棄却セラレタルハ法律ニ違背シ被告利益ノ唯一ノ證據ヲ遺脫シタルノ不法アルモノト思料ス何トナレハ「篠塚マス」ハ本件ニ於テ最モ重要ナル證人ナルニ拘ラス豫審及公判ニ於テ一回ノ喚問ヲ爲サレタルコトナク唯參考記錄ニ添附シアル調書ノミヲ以テ判斷ノ資料トセラレタルハ審理不充分ニシテ重要ナル事實ヲ遺脫セラレタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ○本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル證據調ノ申請ニ對スル許否及ヒ審理程度ノ判斷ヲ非難スルニ外ナラサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

第四點第一審ニ於ケル判決ノ言渡ニ際シ辯護人森保助三郎ニ對スル期日ノ呼出狀ハ不破熊男ニ送達セラレタリ從テ森保辯護人ハ之カ爲メニ公判期日ニ出廷セス然ルニ不破熊男ハ森保助三郎ノ使用人ニアラス又筆生ニモアラサルヲ以テ同人ニ爲シタル送達ハ法律上何等ノ效力ヲ生セス結局刑事訴訟法第十九條及民事訴訟法第百四十六條ノ規定ニ違背シタルモノニシテ之カ爲メニ辯護人ヲシテ公判期日ニ出廷スルヲ得サラシムルニ至レルハ不法ニシテ之ニ基ク原判決ハ破毀セラルヘキモノト思料スト云フニ在レトモ○判決言渡ノ期日ハ辯護人ニ對シ假令適式ノ通達ナシトスルモ之カ爲メ其判決ヲ取消シ又ハ破毀スヘキ理由トナラサルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第五點公判辯論ノ際干與セシ裁判所書記ト判決言渡ニ干與セシ裁判所書記ト相異ナルトキハ判決原本ニハ何レノ書記モ署名スヘキ趣旨ナルコトハ御院判例ノ趣旨ニ徵シテ明カナリ（明治四十一年(れ)第五九七號同年七月七日宣告）然ルニ第一審ニ於ケル公判辯論ニ干與シタル裁判所書記ハ今西憲造ニシ

テ判決言渡ニ干與シタル裁判所書記ハ中村舜二ナリトス然ルニ判決原本ニハ今西憲造ノミノ署名アリテ中村舜二ノ署名ナキハ御院ノ判例ニ反スル不法ノ裁判ナリト思料ス而シテ原判決ハ同判決ヲ基礎トシタルモノナルカ故ニ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ◎判決原本ニ署名スヘキ書記ハ必スシモ判決ノ言渡ニ立會ヒタルコトヲ要セス事件ノ審理ニノミ干與シタル書記カ署名スルモ亦判決ノ言渡ニノミ立會ヒタル書記カ署名スルモ適法ニシテ兩者ノ署名ヲ必要トスルモノニアラス論旨援用ノ當院判例亦此趣旨ニ外ナラス從テ本論旨ハ理由ナシ

第六點原審ニ於テ公判ニ干與シタル判事ハ藤岡常之丞原田一吉原謙亮安藝義富守安富太郎ノ五名ニシテ判決言渡ニ立會ヒタルハ藤岡常之丞石井清美原田一吉原謙亮守安富太郎ノ五名ナリ即チ判事石井清美ハ公判ニ干與スルコトナク判決言渡ニ立會ヒタルモノニシテ刑事訴訟法ニ所謂判決ハ公判ニ立會ヒタル判事ニ限リ之ヲ爲ストアル法則ニ違背シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ◎判決ノ言渡ニハ必スシモ事件ニ干與シタル判事ノミカ立會フコトヲ要セサルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

被告久三郎、義一、常市辯護人森保助三郎上告趣意書第一點原判決ハ被告人倉本久三郎神田義一ハ藤井六七八津田恒三郎カ名譽毀損被告事件ノ證人トシテ各同月十六日廣島地方裁判所ニ出頭シ執レモ宣誓ノ上豫審判事ノ訊問ヲ受クルニ際リ篠塚マスヲ毆打シタル事實ヲ否認シタル點ヲ以テ僞證罪ニ擬シタルハ不法ナリ抑モ本件ハ久三郎義一カ共ニ篠塚マスヲ毆打シタリトノ事案ナルヲ以テ假令久三郎カ義一ノ行爲ヲ義一カ久三郎ノ行爲ヲ否認シタル場合ト雖モ之皆自己ノ犯罪行爲ヲ否認シタルモノニシテ辯護權ヲ行使スルモノニシテ僞證罪ニ非サルナリ假令原判決ノ如ク被告久三郎カ被告義一ノ犯行ヲ否認シ被告義一カ被告久三郎ノ犯行ヲ否認シタルハ僞證ナリトノ論ヲ採用スルモ本件ノ第一審判決ハ被告久三郎義一カ藤井六七八外一名名譽毀損被告事件ノ證人トシテ廣島地方裁判所ニ出頭シ豫審判事ニ對シ宣誓ノ上各自分カ篠塚マスヲ毆打シタル事實ヲ否認シタル一點ヲ以テ僞證罪ニ擬シタリ此第一審ノ判決カ不法ナルコトハ明カナリ原判決ハ第一審判決ヲ是認シテ之ヲ破毀セス控訴棄却ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ◎苟モ法律ニ依リ證人トシテ宣誓ノ上虚僞ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ僞證罪ヲ構成スヘク其陳述ニ係ル事項カ陳述者ノ犯罪行爲ニ關スルト否トハ同罪ノ成立ニ影響ナキヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第二點其他本件ニ於テ他ノ辯護人ヨリ差出シタル上告理由ハ總テ之ヲ被告利益ニ援用スト云フニ在リテ◎本論旨ニ援用セル叙上辯護人吉野千代吉提出ノ上告趣意書中第一點ヲ除キ其他各論旨ノ理由ナキコトハ同趣意書ニ對スル説明ニ依テ了解スヘシ而シテ右援用ニ係ル第一點ニ付按スルニ第一審判決ノ認定ニ依レハ被告義一ハ刑法第百九十五條第一項規定ノ瀆職罪及同法第百六十九條規定ノ僞證罪ヲ犯シタルモノニシテ原判決ノ如ク右瀆職罪ニ付懲役刑ヲ選擇スル以上ハ此併合罪ニ對スル併合刑ノ長期ハ刑法第四十七條但書ニヨリ右各罪ニ付定メタル懲役刑ノ長期ヲ合算シタルモノ即チ懲役十三年ヲ超

ユルコトヲ得サルニ拘ハラス同判決ニ於テ其最モ重キ僞證罪ニ付定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノ即チ懲役十五年ヲ以テ長期ト定メタルハ同法第四十七條但書ノ適用ヲ誤リタル擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ同被告ノ控訴ハ理由アルニ拘ハラス之ヲ理由ナシトシテ同控訴ヲ棄却シタル原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリテ被告義一ノタメニスル本論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀スヘキモノトス次ニ第一審判決ハ被告久三郎ニ對シテハ刑法第二百四條ノ懲役刑ニ該ル罪同法第百七十二條第百六十九條ニ該ル三罪ノ併合罪ニ對スル併合刑ヲ定ムルニ當リ其最モ重キ僞證罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノ即チ懲役十五年ヲ以テ長期ト定メタルモノニシテ右ノ長期ハ右各罪ニ付定メタル刑ノ長期ヲ合算シタル懲役三十年ヲ超ヘサルヲ以テ同判決ハ同被告ヲ處罰スルニ付刑法第四十七條但書ノ適用ヲ誤リタルコトナク次ニ同判決ハ被告常市ニ對シテハ單ニ僞證罪ノミヲ認メタルニ止マルヲ以テ同被告ニ對シ同判決カ刑法第四十七條但書ヲ適用セサリシハ正當ナリトス然レハ被告久三郎常市ノ犯罪ニ對シ第一審判決ハ所論ノ點ニ關シ擬律錯誤ノ違法ナク從テ同被告等ノ爲メニスル本論旨ハ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ被告久三郎常市ノ上告ニ對シテハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決シ被告義一義敬ノ上告ニ對シテハ同法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ原審ノ認メタル事實ニ依リ當院ニ於テ直ニ判決スヘキモノトス仍テ法律ニ照スニ被告義一カ第一ノ所爲ハ刑法第百九十五條第一項ノ懲役刑ニ義一義敬カ僞證ノ所爲ハ各同法第百六十九條ニ被告義敬カ第五ノ所爲ハ同法第百四條ノ懲役刑ニ該當スル處被告義一義敬ハ併合罪ニ付各同法第四十五條第四十七條第十條ニ依リ各重キ僞證ノ罪ニ付定メタル刑ニ加重シ被告義一ヲ懲役三月ニ被告義敬ヲ懲役五月ニ處シ公訴ニ關スル訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百一條第一項ニ則リ被告兩名ニ於テ原審共同被告久三郎常市ト平等負擔スヘキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與明治四十四年三月二十一日大審院第一刑事部

○公務執行妨害及竊盜ノ件

明治四十四年(れ)第二六三號
明治四十四年三月二十三日宣告

◎判決要旨

一自己ノ財物ニシテ差押ヲ受ケ封印又ハ差押ノ標示ヲ施サレタルモノヲ竊取スル行爲(刑法第二百四十二條)ニハ其手段トシテ封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ若クハ其他ノ方法ニ因リ之ヲ無效ナラシムル所爲ヲ伴フハ必然ナルカ故ニ此等ノ所爲ハ刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲ナリトス

（參照）自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス（刑法第二百四十二條）

一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス（刑法第五十四條第一項）

第一審　大分地方裁判所中津支部　第二審　長崎控訴院

被告人　元松直一郎　、辯護人（松本隆治　水野豐　田島熊太）

右公務執行妨害及竊盜被告事件ニ付明治四十四年一月二十一日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人松本隆治同水野豐上告趣意書第一點原判決ハ被告カ差押物ノ封印及標示ヲ損壞シ且ツ竊盜ヲ爲シタル行爲ヲ以テ二箇ノ犯罪成立スルモノト爲シツツ刑法第五十四條ヲ適用シタルハ違法ナリ何トナレハ差押物ニ對スル竊盜ハ當然封印又ハ標示ノ損壞ヲ手段トナスヘキモノニ非サレハナリ差押物ノ竊盜罪ハ封印又ハ標示ヲ損壞セサルモ行ハルヘキモノニシテ此場合ニ在リテハ或ハ刑法第九十六條後段ノ所謂封印又ハ標示ヲ無效ナラシムル手段ヲ當然包含スヘシト爲スヘキモ本件ノ如ク封印又ハ標示ヲ損壞シテ竊盜ヲ爲シタル場合ノ公務執行妨害罪ハ刑法第九十六條前段ノ犯罪ヲ成立セシムルモノニシテ此所爲ハ竊盜當然ノ手段ト爲スヲ得サルヲ以テ同條ヲ適用スヘキモノニ非ス從テ原判決ハ擬律ノ錯誤アルモノト信スト云フニ在レトモ◎刑法第二百四十二條ニ規定セル自己ノ財物ニシテ差押ヲ受ケ封印又ハ差押ノ標示ヲ施サレタルモノヲ竊取スル行爲ニハ其手段トシテ封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞スル行爲若クハ其他ノ方法ニ因ル封印又ハ標示ヲ無效ナラシムル行爲ヲ伴フハ必然ナレハ叙上ノ行爲ハ前示竊盜罪ニ對シテ刑法第五十四條ニ所謂手段タル行爲タルモノトス故ニ原判決カ所論ノ如ク擬律シ封印及ヒ標示ノ損壞行爲ト竊盜行爲トヲ以テ一箇ノ牽聯犯ヲ構成スルモノト判定シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ノ認定シタル犯罪事實ヲ見ルニ「被告人ハ云云右簞笥ニ施シアリタル封印ヲ損壞シテ標示ヲ取除キ又該糊ニ施シアリタル假差押ノ標示ヲ取除キ以テ公務ノ執行ヲ妨害シ云云」トアリテ右簞笥ニハ恰モ封印及ヒ標示ノ二箇ノ手段ヲ施シアリタルモノヲ被告人カ損壞シタルカ如ク認定シタルモ其證據トシテ引用セラレタル執達吏小溝房吉ノ證言ノ判示スル所ニヨレハ前署「土藏内ニ在リタル衣類在中簞笥ヲ差押ヘ封印又前示ノ糊ヲモ差押ヘ之レニ標示ヲ施シ其妻ノトニ保管ヲ命シ」トアリテ簞笥ニハ單ニ封印ヲ施シタルノミニテ標示ヲモ併セテ施シタル旨ヲ供述セサルヲ以テ原院カ前示ノ如ク犯罪事實ヲ認定シタルハ證據ニ基カサルモノニシテ之カ證據ノ說明ナキハ理由不備ノ判決ナリト信ス

ト云フニ在レトモ○所論判示事實ハ證人小溝房吉豫審調書ノ供述記載ノミナラス被告ノ原院ニ於ケル供述ヲモ參酌シテ之ヲ認定シタルモノト認ムヘキカ故ニ所論ノ如ク證據理由ニ不備アルモノニ非ス

第三點原院ハ被告ノ控訴ヲ棄却ス理由トシテ「故ニ原判決ニ於テ以上ノ理由ニ從ヒ前提ノ如ク處斷セシハ相當ナルヲ以テ被告ノ控訴ハ理由ナシ」トアルモ凡ソ被告ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却スルニハ犯罪事實ノ認定及其認定ノ理由並ニ法律適用刑期ノ量定共ニ原判決ノ判斷ト全然同一ナラサルヘカラス從テ單ニ理由並ニ刑期ノ量定ノミ同一ナルノミニテハ未タ控訴棄却ノ理由トナラサルモノトス加之「以上ノ理由ニ從ヒ前提ノ如ク處斷セシハ」トアリテ原院ハ恰モ有罪ノ判決ヲ豫斷シ之ヲ前提トシテ處斷シタルカ如キ説明ヲ爲シタルノミナラス其所謂前提トハ如何ナル前提ナルヤヲ知ルヲ得ス故ニ犯罪事實ノ認定及其認定ノ理由並ニ法律ノ適用刑期ノ量定共ニ同一ニ出テタル旨ノ判示ナクシテ控訴ヲ棄却シタルハ理由不備ニシテ且第一審判決カ原院ノ所謂前提ノ如クトハ如何ナル前提ト同一ニ處斷セラレタルモノナルヤヲ知ル能ハサル點ニ於テモ亦理由不備ノ判決ナリト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ「以上ノ理由ニ從ヒ前提ノ如ク處斷セシハ相當ナルヲ以テ云云」ト説示シアルハ第一審判決主文ノ基本タル事實及ヒ法律ノ理由並ニ主文ニ於ケル刑罰其他ノ處分カ總テ原判決ト同一ニ出テタルモノト判定シタル趣旨ナルヤ明白ナレハ原判決カ第一審判決ヲ相當トシテ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ當然ナリ又所論前提ノ如ク文詞ハ「判決冒頭所掲ノ如ク」ノ意義ナリト解スヘク論旨ノ如キ奇矯ノ解釋ヲ容サス故ニ原判決ニハ理由不備ノ違法アルコトナシ

辯護人田島熊太上告趣意書原審ニ於テ被告ノ妻「ノト」ノ保管ニ任セタル差押物件ノ封印ヲ損壞シ標示ヲ取除キ籾ヲ取出シ食料ニ費用シタル事實ヲ以テ刑法第二百四十二條同法第二百三十五條ノ規定ヲ適用シテ竊盜罪ナリト認定シタルハ必スシモ失當ニアラサルナリ然レトモ本件被告ノ費消シタル物件ハ本來自己ノ所有物ナリ偶〻公務署ノ命ニ基クトハ雖モ其保管者タル他人ハ被告ノ妻ナリ假リニ其物件カ被告ノ所有ニアラスシテ妻ノ所有ニ係ル場合ナリトスルモ親族相盜ハ其刑ノ免除ヲ受クヘキモノナルコトハ刑法第二百四十四條ノ規定スル所ナリ然ラハ單ニ占有權ノ侵害ニ止マル本件事案ノ場合ニ於テ同法條ノ適用ヲ除セラルヘキ理由ナシ之レヲ要スルニ原判決ハ刑法第二百四十四條ノ規定ヲ適用セサル違法アルコトヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ○原判決ノ認メタル事實ハ被告カ差押ヲ受ケ封印及標示ヲ施サレタル自己ノ財物ニシテ被告ノ妻カ保管ヲ命セラレタルモノヲ竊取シタリト云フニ在リテ被告ノ妻カ所持セル其所有物ヲ竊取シタル事實ニ非サルノミナラス被告ノ妻ハ執達吏ノ命ニ依リ保管スルモノナレハ被告ノ竊盜行爲ニ依リテ侵害セラルルモノハ被告ノ妻ノ占有ニ非スシテ被告ノ妻カ執達吏ノ爲メニスル代理占有ニ外ナラス故ニ被告ノ竊盜行爲ニ對シテ刑法第二百四十四條ヲ適用セサリシ原判決ニハ所論ノ如キ擬律上ノ違法アルコトナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十四年三月二十三日大審院第二刑事部

○私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治四十四年(れ)第二六〇號
明治四十四年三月二十四日宣告

◎判決要旨

一銀行支店ノ預金通帳ニ虚偽ノ預金ヲ記載シ偽造ノ入金傳票ヲ添ヘテ之ヲ支配人ニ提出シ通帳ニ於ケル各金額記入ノ下ニ同支店印ヲ押捺セシメタル所爲ハ該銀行支店ノ署名及ヒ印章ヲ使用シテ預金通帳ヲ偽造シタルモノニ外ナラス(判旨第二點)

一偽造ノ銀行預金通帳ヲ眞正ノモノトシテ預ケ人ニ交付シタル以上ハ眞正ノ文書ニ對スル公ノ信用ヲ害スル危險ヲ生シタルコト勿論ナレハ其所爲ハ偽造文書行使ノ既遂犯ヲ構成スルモノトス(判旨第四點)

第一審　松山地方裁判所宇和島支部　第二審　廣島控訴院

被告人　末光覺次郎　辯護人(花井卓藏　横山勝太郎)

右私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治四十四年一月二十三日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人法學博士花井卓藏上告趣意書第一點原判決ハ第一事實トシテ被告ハ末光寅市福島七郎治兩名名義ノ各預金通帳入金傳票當座預金元帳ヲ偽造シテ行使シタルモノト認定セリ然ルニ豫審請求書ノ起訴事項ニハ當座預金通帳及預金元帳ヲ偽造行使シタル事實ヲ掲載セルノミ入金傳票ノ偽造行使ニ付テハ起訴事蹟ノ見ルヘキモノナシ然ルニ該所爲ヲ認定シテ刑法第百五十九條第三項ニ問擬シタル原判決ハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ◎檢事カ一ノ犯罪事實ヲ指摘シテ公訴ヲ提起シタルトキハ其手段若クハ結果タル犯罪事實ハ刑法第五十四條ニ依リ包括シテ一罪トシテ處斷スヘキモノナレハ假令之ヲ起訴狀ニ指摘セサルモ總テ其公訴ニ包含セラルルモノトス所論ノ入金傳票ノ偽造行使ハ豫審請求書ニ記載ナキモ當座預金通帳及預金元帳ノ偽造行使ト共ニ起訴ニ係ル詐欺取財ニ牽聯シテ互ニ手段結果ノ關係ヲ爲シ刑法第五十四條ニ依リ一罪トシテ處斷スヘキ犯罪事實ナレハ公訴ニ包含セラルルコト勿論ナリ從テ論旨ハ理由ナシ

判旨第二點

第二點原判決第一事實ノ認定ニ依レハ被告カ偽造シタル末光寅市及福島七郎治兩名名義ノ各預金通帳ハ同人等カ從來株式會社第二十九銀行宇和島支店ト取引キシタルモノナルコト明カナレハ該預金通帳ハ其成立ハ眞正ニシテ唯其内容タル預金ノ數額虚偽タルノミナレハ他人ノ署名又ハ印章ヲ用ヒテ文書ヲ偽造シタルモノニアラサルコト寔ニ明白ナリトス然ルニ刑法第百五十九條第一項ニ問擬シタル原判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云ヒ」第三點第百五十九條第一項規定ノ犯罪ヲ構成スルカ爲メニハ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ自ラ文書ヲ偽造スルノ行爲アルコトヲ必要トス單ニ偽造ノ文書ヲ提示シテ他人ノ確信ヲ誤ラシメ之ニ依テ其人ノ捺印ヲ得ルカ如キハ偽造文書行使罪アリト云フハ格別之カ爲ニ文書ヲ偽造セルモノナリト云フヲ得ス然ルニ原院ハ「各通帳ハ偽造ノ各傳票ヲ添ヘテ之ヲ支配人ニ提出シ誤信セシメタル上支配人ヲシテ通帳ニ於ケル各金額記入ノ下ニ同銀行支店印ヲ押捺セシメテ其偽造ヲ完成シ云云」ト判示シ以テ之ニ對シテ刑法第五十九條第一項ノ規定ニ問擬シタリ是レ寔ニ法則ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ原判決ハ爰點ニ於テ破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レトモ○所論ノ未光寅市及ヒ福島七郎治宛ノ各預金通帳ハ其成立ノ眞正ニシテ從テ其株式會社第二十九銀行宇和島支店ノ作成名義ナルコトハ判文上自ラ明ナレハ被告カ之ニ虚偽ノ預金ヲ記入シタルハ即チ該銀行支店ノ署名ヲ使用シテ偽造行爲ヲナシタルモノニ外ナラス而シテ論旨所揭ノ判示事實ハ被告カ支配人ヲ機械ト爲シテ該銀行支店印ヲ押捺スルコトニ因リテ其偽造行爲ヲ完成シタル事實ヲ判示シタルモノナレハ被告ノ所爲ハ該銀行支店ノ署名及印章ヲ使用シテ預金通帳ヲ偽造シタルモノナルヲ以テ原判決ノ擬律ハ正當ナリ論旨ハ理由ナシ

辯護人横山勝太郎上告趣意書第一點原院ハ參考人末光覺次郎證人牧野清一郎等ノ調書ヲ有罪ノ資ニ供シタレトモ右調書ニ依レハ其末尾ニ「右讀聞ケタル處相違ナキ旨供述セリ」トアルノミニシテ右參考人證人等ハ自署シタルヤ否ヤヲ明記セサルカ故ニ本人ノ自署ナルヤ否ヤ判然セス結局違法ノ調書ナルヲ以テ原判決ハ不法ナリト信スト云フニ在レトモ○何レモ本人ノ自署ナルコト疑ナキノミナラス其自署ナルコトハ之ヲ調書ニ明記スルヲ要セサルヲ以テ從テ論旨ハ理由ナシ

第二點原院ハ第一犯罪事實中通帳ヲ寅市及ヒ七郎治ニ送付シタル事實ヲ認定シ之ニ刑法第百六十一條ヲ適用シタレトモ原院認定ノ如ク第二十九銀行ニ對シ寅市及ヒ七郎治ノ名義ヲ利用スルコトハ被告ニ於テ豫メ右兩人ノ同意ヲ得タルモノナルヲ以テ其通帳ヲ右兩人ニ交付シタル事實ハ決シテ文書偽造行使罪ノ既遂トナルモノニ非ス何トナレハ大凡文書ノ偽造行使ハ其文書ノ趣旨ニ於テ使用セラレントシタル場合ニ始メテ會社ニ對シ危險ヲ感セシムルモノニシテ之ヲ單ニ其名義人ニ交付シタルノミニテハ會社ハ何等ノ危險ヲ感スルモノニ非ス其名義人タル寅市及ヒ七郎治等ニ於テ之ヲ利用セントシタル場合ニ於テ始メテ害ヲ生シ若クハ生セントスルモノナレハ此時ヲ以テ行使トナサル可ラス被告ヨリ寅市或ハ七郎治ノ手ニ交付セラレタル事實ハ單ニ偽造文書ノ保存ノ方法上其場合ヲ變シタルニ過キサレ

判旨第四點

ハナリ要スルニ原院カ偽造ノ通帳ヲ其名義人ニ送付シタル事實ヲ目シテ行使罪ノ既遂ナリトシタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○偽造文書ノ行使罪ハ偽造ノ文書ヲ眞正ノ文書トシテ使用スルコトニ因リテ成立スルモノニシテ必スシモ其文書ノ趣旨ニ從ヒ使用スルヲ要セサルナリ原判決ニ依レハ被告カ寅市及ヒ七郎治ノ各預金通帳ヲ偽造スルコトニ付テハ固ヨリ同人等ノ同意ヲ得タルモノニアラサルヲ以テ被告カ該偽造ノ通帳ヲ眞正ノモノトシテ同人等ニ交付シタルコト判示事實ノ如クナル以上ハ眞正ナル文書ニ對スル公ノ信用ヲ害スル危險ヲ生シタルコト勿論ナレハ其行使罪ノ既遂ヲ成スコト亦自ラ明ナリ從テ論旨ハ理由ナシ

第三點原院ハ被告カ寅市及七郎治ヨリ小切手ヲ騙取シタル事實ニ對シ刑法第二百四十六條第一項ヲ適用シタレトモ所謂小切手ナルモノハ同法條ノ目的物タルニ適セス蓋シ小切手ハ單ニ第三者ニ對シ手形金額ノ支拂ノ依託ヲ爲シタルモノニシテ振出人ハ支拂ノ約束ヲ爲シタルモノニ非ス其支拂ノ依託ヲ受ケタルモノカ之ヲ承諾スルニ因テ始メテ其效果ヲ發揮スルモノニシテ其授受ノ當時ハ受取人ニ於テ只タ振出人ニ對シテ其支拂ヲ得サル場合ニ償還請求權ヲ有スルニ過キサルヲ以テ其受取人即チ本件被告カ刑法第二百四十六條第二項ニ所謂財產上不法ノ利益ヲ得タリト云フハ格別之ヲ同條第一項單純詐欺取財罪ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○小切手ハ財物ニ外ナラサルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第四點原判文第二ノ犯罪事實ニ依レハ「右假裝預金ヲ引出シタルカ爲メ總勘定元帳記載ノ計數符合セサルニ到リタルヲ以テ云云」ト冒頭シ所謂第二ノ犯罪ハ第一ノ騙取罪ノ結果タルコトヲ認定シタルニ拘ラス第一犯罪事實第二犯罪事實ノ關係ニ付キ刑法第五十四條ヲ適用セサリシハ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在レトモ○論旨所揭ノ判示事實ハ犯罪ノ動機ニ過キスシテ第二ノ犯罪ヲ以テ第一ノ犯罪ノ結果ト認メタルニ非ス從テ論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事板倉松太郎干與明治四十四年三月二十四日大審院第一刑事部

○横領詐欺ノ件

明治四十四年(れ)第二八六號
明治四十四年三月二十四日宣告

○判決要旨

一被告カ既ニ占有シタル物ト雖モ犯罪ニ因テ横領シタルモノハ刑法第二百五十六條ニ所謂贓物ナリトス

(參照)贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス」贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ贓物ノ意義○横領罪ノ贓物

爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス（刑法第二百五十六條）

一甲者カ或團體ノ爲メニ會員ヨリ金圓ヲ集取シタル後擅ニ別途ノ使用金トシテ乙者ニ交付シ乙者其情ヲ知テ之ヲ收受シタルトキハ該金員ハ交付ニ因テ横領罪ノ贓物ト爲リ其交付ヲ受ケタル所爲ハ贓物ノ收受ト爲ルモノトス

第一審　鹿兒島地方裁判所　　第二審　長崎控訴院

被告人　有馬不二外二名

右横領詐欺被告事件ニ付明治四十三年十二月二十日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告不二上告趣意書長崎控訴院ノ判決ニ於テハ被告人カ鹿兒島市實業家親睦會ト稱スル團體ノ集金人松永彦左衛門幸田吉之助ノ兩名カ其業務トシテ會員ヨリ取リ集メタル金員ヲ收受シタル事實ヲ認メ刑法第二百五十六條第一項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤アルモノトス刑法第二百五十六條第一項ハ贓物收受ノ罪ヲ規定シタルモノナリ而シテ贓物トハ犯罪ニ因リテ不正ニ獲得シタル物件ヲ謂フコトハ殆ント論ヲ俟タス隨テ横領罪ノ目的物等犯罪ニ因リテ獲得シタルニ非スシテ犯罪ニ因リテ他人ニ交付シ又ハ消盡スルモノ即チ之ヲ獲得スルコトカ罪トナルニ非スシテ交付又ハ消盡スルコトカ罪トナルヘキ目的物ハ贓物ニ非サルナリ今長崎控訴院カ判決ノ基本トシテ認メタル事實トシテハ被告人カ松永彦左衛門幸田吉之助ノ兩名ヨリ收受シタル金員ハ同人等カ鹿兒島實業親睦會團體ノ集金人トシテ會員ヨリ正當ニ取リ集メタルモノニシテ其金員ハ犯罪ニ因リテ不正ニ獲得シタル物件ニ非ス從テ其金員ハ之ヲ稱シテ贓物ト云フコト能ハサルナリ是ヲ以テ被告人カ假令其情ヲ知レリトスルモソハ贓物ノ收受ニ非サルカ故ニ之ヲ律スルニ贓物收受罪ヲ以テスルハ明カニ擬律ニ錯誤アリト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○刑法第二百五十六條ニ所謂贓物トハ犯罪ニ因テ其占有ヲ得タル物ノミナラス既ニ占有シタル物ト雖モ犯罪ニ因テ横領シタル物ハ之ヲ包含スト解スヘク原判決ノ事實認定ニ依レハ被告彦左衛門吉之輔ハ共謀シテ彦左衛門カ判示團體ノ爲メニ集金シタル金員ノ内判示金員ヲ同團體ノ理事ニ交付セス擅ニ判示別途ノ使用金トシテ被告不二ニ交付シテ之ヲ横領シ被告不二ハ其情ヲ知テ之ヲ收受シタルモノニシテ右金員ハ交付ニ因テ横領罪ノ贓物トナリ之カ交付ヲ受ケタル所爲ハ贓物ノ收受トナルヘク右收受行爲ハ刑法第二百五十六條第一項ニ該當スルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

被告吉之輔彦左衛門ハ刑事訴訟法第二百七十八條規定ノ法定期間内趣意書ヲ提出セス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事板倉松太郎干與明治四十四年三月二十四日大審院第一刑事部

○恐喝取財ノ件

明治四十四年(れ)第三二九號
明治四十四年三月二十七日宣告

◎判決要旨

一公訴ノ時效ニ關スル刑事訴訟法ノ規定ハ公訴權實行ノ條件ニ關スル手續法規ニ外ナラサレハ改正ニ係ル同法第八條ノ規定ハ其改正以前ノ犯罪ニシテ同條施行前ニ公訴ノ時效成就セサリシモノニ付テモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

(參照) 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス「一、死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年」二、無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年」三、長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年」四、長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年」五、刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年」六、拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月(刑事訴訟法第八條)

第一審　神戸地方裁判所姫路支部
被告人　山木勇太郎外三名　辯護人(齋藤林平・崎濱直義・清瀬一郎)

第二審　大阪控訴院

右恐喝取財被告事件ニ付明治四十三年十二月二十四日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告勇太郎辯護人齋藤林平・崎濱直義上告趣意書第一點檢事ノ豫審請求書ヲ見ルニ被告勇太郎ニ對スル本件犯罪事實ハ是レヲ司法警察官意見書所載ノ事實ニ讓レリ仍テ今該意見書ニ付キ其起訴ニ係ル犯罪事實ヲ查閲スルニ(記錄第六十八丁六十九丁)被告勇太郎ハ其相被告太田治市郎外二名ト共謀シ山南繁藏ヲ恐喝シテ金八十圓ヲ騙取セリトノ事實ト次ニ小西德太郎ヨリ金三十圓小林治郎右衛門ヨリ九圓二十八錢ヲ騙取セリトノ三箇ノ犯罪事實ナルニモ拘ハラス豫審以後ニ於テハ獨リ右山南繁藏ニ對スル恐喝事件ノミヲ審理シ其他ノ小西德太郎小林治郎右衛門ニ對スル犯罪事實ニ付テハ全然之レカ審理判斷ヲ遺脫セルモノナリ然ラハ則チ之レ寔ニ訴ヲ受ケタル犯罪事實ニ付キ何等ノ審判ヲ爲ササル違法アルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十九條第二項第七號ノ規定ニ依リ原判決ハ當然破毀ヲ免レサルモノナリト信ス論者或ハ曰ハン警察官ノ意見書ニハ「前畧次ニ小西德太郎ヨリ三十圓小林治郎右衛門ヨリ九圓

二十八錢ヲ受取リ居ルモ本件ハ恐喝ノ事實薄シト思フ云云」ト記載アルヲ以テ檢事ハ此事實ニ付キ起訴シタルモノト云フコトヲ得スト然レトモ右檢事ノ起訴狀ニ司法警察官意見通リナル旨概括的ニ犯罪事實ヲ指示セル以上ハ該意見書ニ記載セル犯罪事實ハ總テ起訴セラレタルモノト謂ハサルヘカラス而シテ其「本件ハ恐喝ノ事實薄シト思フ」ナル文意ハ唯タ證據ニ關スル警察官ノ意見書タルニ過キス之ヲ要スルニ檢事カ豫審ヲ求ムルニ當リテハ刑事訴訟法第六十六條ニヨリ證憑及事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ送致シ云云ノ規定アリト雖モ證憑充分ナラサルトキハ之ヲ送致スルヲ要セサルノミナラス全ク證據ヲ示ササルモ其起訴タルノ效力ニハ毫モ影響ナキヲ以テ從テ單ニ「事實薄シト思フ」トノ附記アリト雖モ苟モ犯罪事實ノ擧示アル以上ハ起訴トシテ欠缺スル所ナシ果シテ然ラハ起訴ヲ受ケタル事件ニ付審判ヲ爲ササル原判決ノ違法ナルコトハ敢テ論スルヲ俟タスシテ明ナリト云フニ在レトモ○豫審請求書ニ援用スル司法警察官ノ意見書ニハ原判決ニ於テ判示シタル事實ノミニ付キ有罪ノ意見ヲ付シアリテ所論二箇ノ行爲ニ付テハ具體的ニ恐喝ノ事實ヲ擧示セサルノミナラス「本件ハ恐喝ノ事實薄シ」ト掲記シアルニ徵スレハ檢事カ援用セルモノハ有罪ノ意見ヲ付シアル部分ニ限ルト認ムルヲ相當トスルノミナラス縱令所論二箇ノ行爲カ起訴セラレタルモノトスルモ豫審終結決定書ニハ右二箇ノ行爲ニ付キ公判ニ移スノ決定ヲ爲シタル形蹟ナキカ故ニ原判決ニハ論旨ノ如ク訴ヲ受ケタル事件ニ付キ裁判ヲ爲ササル違法アルコトナシ

第二點原判決ハ其法律理由ノ部ニ於テ「被告ノ所爲ハ明治四十年三月ニ行ハレタル恐喝取財ニシテ舊刑法時代ニ遂行セラレタルモノニ係ルヲ以テ舊刑法第三百九十條ヲ適用スルハ至當ナルモ時效ノ點ニ付テハ現行刑法ハ第二百四十九條ニ於テ之ヲ十年以下ノ懲役ニ處スルヲ以テ刑事訴訟法第八條第三號ニ據ルヘキモノナルニ第一審ニ於テ其第四號ニヨリ三年ノ時日ヲ經過シタルニヨリ時效ニカカリタルモノトシテ免訴ノ言渡ヲ爲サレタルハ失當ナリ」ト判示シ以テ第一審判決ヲ取消サレタリ然レトモ吾人ノ見解ヲ以テスレハ是レ明ニ不當ノ判決ナリト云ハサルヘカラス何トナレハ理論上被告ハ其所爲ノ當時ニ於ケル法律即チ舊刑法ノ規定ニヨリテ處斷セラルヘク夫レ以外ノ法條ニヨリ處罰セラルヘキモノニアラスト云フコトヲ得果シテ然ラハ時效ニ於テモ其期間ハ同シク舊刑法ノ科刑ニヨルヘク獨リ此點ニ付新法ヲ適用スル理由アルナシ論者或ハ刑事訴訟法ノ時效期間ハ其訴訟當時ノ法律ニ據ルヘキモノナリ然ルニ本件被告ノ所爲ニ對スル公訴審理ハ現行刑法時代ニ行ハレタルヲ以テ其時效期間モ亦現行刑法ノ科刑ニ從ヒテ定メサルヘカラスト云フニアラン然レトモ之レ皮想ノ見ノミ抑モ舊刑法ハ現行刑法施行ト同時ニ廢止セラレタルハ事實ナレトモ刑法第六條ニヨリ被告ノ所爲ニ刑法ヲ適用スルコトアル以上ハ此場合ニ舊刑法モ尙存スルカ故ニ之ヲ訴訟當時ノ法律ナリト云ハサルヘカラスサレハ原判決カ刑事訴訟法第八條第三號ヲ適用セルハ違法ニシテ破毀ニ値スルモノナリト信スト云ヒ」第三點原判決ノ認定セル事實ニ依レハ「被告四名ハ共謀シ明治四十年三月十四日兵庫縣摂保郡小宅村ノ内片山

村山南繁藏ノ實母死亡ノ際其葬式ニ關スル云云」トアルヲ以テ見レハ山南繁藏ノ母ノ死亡ハ明治四十年三月ナルヘキ筋合ナルニ其證據說明ヲ見ルニ殊更ニ其括弧中ニ四十三年ナル旨ヲ記入シ同人母ノ死亡ヲ明治四十三年ナリト說示セラレタリ然ラハ則チ原判決ハ虛無ノ證據ヲ採リテ斷罪ノ資料ト爲セルカ又四十三年ヲ四十年ト誤認シタルカノ違法アルヲ以テ破毀セラルヘキモノナリト信スト云フニ在リ

○然レトモ右論旨ノ理由ナキコトハ孰レモ辯護人清瀨一郎上告趣意書第一點及第二點ニ對スル說明ニ依リテ之ヲ了解スヘシ

各被告辯護人清瀨一郎上告趣意書第一點原判決ハ本件犯罪ニ對シ舊刑法第三百九十條第一項ヲ適用シナカラ公訴ノ時效ニ關シテハ却テ刑法施行法第三十八條ニ依リテ變更セラレタル刑事訴訟法第八條ヲ適用セリ是レ公訴ノ時效ニ關スル法則ノ適用ヲ誤リタルモノナリ此點ニ關シテハ既ニ貴院ニ於テ判示セラレタルモノアルカ如クナレトモ再ヒ本件ニ關シ本判斷ヲ乞ハント欲スルナリ(一)蓋シ刑事訴訟法第二十二條第一項ニハ「此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス」トアルカ故ニ之ヲ一讀スレハ苟モ刑事訴訟法典ニ規定セラレタル事件ハ其性質ノ如何ニ拘ハラス總テ遡及的ニ適用セラルルカ如クナレトモ更ニ同條ノ發生シタル理由ヲ考フレハ大ニ其然ラサルコトヲ知ルナリ蓋シ法律不遡及ノ法則ハ法治國家ニ於ケル法律ノ大原則ナリ而シテ此法則ノ生シタル所以ノモノハ人民ノ既得ノ權利ニ侵害ナカランコトヲ慮リタルカタメナリ然ルニ訴訟手續ニ關スル法則ノ如キ人民ノ權利ニ關係ナク事件取扱ヒノ便宜ニ關スルモノニ關シテハ此不遡及ノ原則ヲ墨守スルノ要ナシトシテ本件ヲ作リタルナリ同條第一項ニハ汎ク「此法律ハ云云」トアレトモ是レ此法律中實體的規定ハ本ヨリ之ヲ論外トシタルモノナリ尙ホ之ヲ同條第二項ニハ「頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其效アリトス」トアリテ之ヲ第一項ト參照スルトキハ第一項ニ在ル「此法律」ナルモノハ訴訟手續ニ關スル規定ナルコトヲ推知スルニ難カラス要之刑事訴訟法第二十二條ハ其用語ノ如何ニ拘ハラス手續規定ノ遡及效ヲ認メタルモノニ止マリ縱令刑事訴訟法典中ノ規定ノ事項ナルモ若シ此規定ニシテ實體的ニ權利ニ關スル規定ナルトキハ同條ノ範圍外ニ屬シ刑事法ノ原則ニ從ヒ新舊比照ノ結果其輕キモノヲ適用セサルヘカラス然リ而シテ公訴ノ時效ニ關スル規定ノ性質ハ如何ト云フニ是レ正ニ國家ノ當該被告人ニ對スル科刑權（公訴權）ノ消滅原因ニ關スル規定ニ外ナラス刑事訴訟法第六條ニ時效ニ依リ公訴ヲ爲スノ權カ消滅ストアルハ即チ時效ニ因リ國家ノ科刑權カ消滅スルノ意味ニシテ恰モ民事法ニ於テ權利ノ消滅時效ヲ出訴ノ期限ト云ヒタルカ如シ既ニ公訴時效カ科刑權ノ消滅原因ナル以上ハ其規定カ實體的規定ニシテ從テ刑罰自體ト密接ノ關係アルモノナルコト明カナリ即チ例ヘハ刑法典ニ於テ或ル犯罪ヲ犯シタルモノハ四年以下ノ重禁錮ノ刑ニ處ストアリ且當時ノ法律ニ於テ四年以下ノ重禁錮ノ公訴時效ハ三年ニシテ完成ストスレハ該犯罪ヲ犯シタルモノハ三年ノ時效ニ依リテ消滅スヘキ四年以下ノ重禁錮ニ相當スル國家刑罰權ヲ發生セシメタルモノトシテ其責ニ任セサルヘカラサレトモソレ以上ノ

責ニ任スヘキモノニアラス如斯觀察スルトキハ公訴時效ノ規定ハ實體的規定ニシテ右第二十二條ノ範圍外ニ在リ從テ刑罰法規ノ原則ニ從ヒ新舊法間ニハ輕キモノヲ適用スヘキモノナリト考ヘラル司法省民刑局ノ編纂ニ成ル刑法施行法參考書ナルモノヲ見ルニ亦同樣ノ說明アリ曰ク「本條（刑法施行法第三十八條）ニ付キ特ニ經過規定ヲ設ケサリシ所以ハ刑法施行前ニ犯シタル犯罪ニ付キ公訴ノ時效ノ問題ヲ生シタルトキハ新舊二法中時效ヲ完成ニ至ラシムヘキモノヲ適用スヘキコト當然ニシテ經過規定ヲ以テ之ヲ解決スルノ必要ナキニ因ル公訴ノ時效ヲ以テ刑罰權消滅ノ原因ト爲ストキハ其理由洵ニ明白ニシテ別ニ說明ヲ與フルノ要ナシ」トアリ若シ以上ノ論ニ反シ原判決ノ如ク公訴時效ニ關シ絕對ニ新法ヲ適用セントスレハ刑法及刑法施行法第三十八條ノ頒布以前ニ於テ舊刑法及舊訴訟法ニヨリ絕對ニ時效期間ヲ經過シ既ニ全然科刑權ノ消滅シタル犯罪（例ヘハ明治三十年十一月頃ノ恐喝又ハ詐欺罪）ト雖モ明治四十年十月ヨリ施行セラレタル新刑法ニ從ヒ處罰セラルルノ不穩當ナル結果ヲ生スヘシ

（二）尙ホ又原判決カ舊刑法ニヨリ刑ヲ科シナカラ刑事訴訟法第八條ノ各號ヲ選擇スルノ標準ヲ新刑法ニ採リタルハ蓋此八條ハ新刑法ト同時ニ發布セラレ是ト調和スル規定ナレハ其……ニ該ル罪ト云フハ新刑法ニ於テ……ニ該ル罪ト云フ意味ナリト解シタルモノナラン此見解ノ根底ハ時效ヲ以テ刑期ト牽聯スルモノ（短キ刑ニハ短キ時效ヲ定メ長キ刑ニハ長キ時效ヲ定メサルヘカラストノコト）ニシテ時效ノ性質ニ適セルニ近ケレトモ何ソ尙ホ一歩ヲ進メテ新法ヲ適用スル場合ニハ新時效法ヲ適用シ舊法ヲ適用スル場合ニハ舊時效法ヲ適用スト爲ササリシヤ如斯スルトキハ初メテ刑ノ長短ト時效ノ長短ト相比例スルコトヲ得時效法則ノ精神ニ適セン然レトモ原判決ノ如ク舊刑法ヲ適用シタル場合ニモ尙ホ新時效法ヲ適用ストスレハ短期刑ニ却テ長キ時效ヲ生シ長期刑ニ短キ時效ヲ生スルニ至ルコトアラン又刑事訴訟法第八條ニ「該ル」ト云フ文字ノ解釋ヨリスルモ實際ノ適用法ニ於テ該當スルコトヲ意味スト解スルコト穩當ナラン要之原判決ハ本訴ニ對シ舊刑法第三百九十條第一項ヲ適用シタル以上ハ同條刑罰ニ對スル時效法タル刑事訴訟法舊第八條ヲ適用スヘカリシ事茲ニ出テサリシハ不法ニシテ破毀ヲ免レスト信スト云フニ在リ○然レトモ公訴ノ時效ニ關スル刑事訴訟法ノ規定ハ公訴權ヲ實行スル條件ニ關スル手續法規ニシテ刑罰權ノ消滅原因ヲ定ムル實體法規ニアラス故ニ改正セラレタル刑事訴訟法第八條ノ規定ハ同法第二十二條ニヨリテ同條改正以前ノ犯罪ニシテ同條施行前ニ公訴ノ時效成就セサリシモノニ付テモ適用セラルヘキヲ以テ該犯罪ニ對シテ新舊法ノ規定ヲ比照シ被告ニ最モ利益ナル規定ヲ適用スヘキモノニアラス（明治四十三年（れ）第一四八〇號及同年（れ）第一八五三號事件ノ判決參照）今原判決ヲ按スルニ本件ハ改正刑事訴訟法第八條施行前ノ犯罪ニシテ同條施行前ニ於テ舊刑事訴訟法第八條ニ依リ公訴ノ時效成就セサリシモノナレハ公訴ノ時效ニ關シテハ改正刑事訴訟法ノ規定ニ從フヘク而シテ刑法施行前ノ犯罪ニ係リ刑法第六條ニ依リ新舊刑法ヲ比照シ輕キニ從ヒ處斷スヘキモノナレハ其公訴時效ノ成否ヲ判斷スルニハ舊刑法ノ刑ノミニ依ルヘキニ非ス又新舊刑法ノ比照上輕キ

刑ノミニ依ルヘキニ非ス公訴時效ノ成就ハ必スヤ新舊刑法ノ孰レニ依ルモ同シク時效ノ完成シタル場合ナラサルヘカラス苟モ一方ノ刑ニ依リテ未タ公訴時效成就セサル以上ハ他ノ一方ノ刑ノミニ依リテ公訴時效完成スヘキ所以ナシ本件恐喝ノ罪ハ舊刑法ニ依レハ同法第三百九十條ニ定ムル二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該リ其公訴時效期間ハ刑事訴訟法第八條第四號ノ三年ナレハ起訴ノ當時ニ在テ時效ノ成就スヘキモノナリト雖モ刑法ニ依レハ同法第二百四十九條ニ定ムル十年以下ノ懲役ニ該リ其公訴時效ノ期間ハ刑事訴訟法第八條第三號ノ七年ナレハ起訴ノ當時ニ在テハ未タ時效完成セサルモノトス故ニ本件ニ付テハ公訴時效成就セサルモノト謂フヘク原判決カ之ヲ受理審判シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ虛無ノ證據ヲ採用シタル不法ノ判決ナリ蓋原判決證據說明ノ部ニハ被告位飼鶴吉豫審一回調書中ニ今年（四十三年）七月頃繁藏ヨリ八十圓取リマシタト記載アル旨同原田新之助豫審第一回調書中（四十三年）七月中繁藏ヨリ八十圓取ツタニ相違アリマセヌトノ記載アル旨證人山本繁八豫審調書中雙方ヨリ扱テ賴マレ確カ七月（四十三年）十日頃ト思フ八十圓取次キシコトアリトノ記載アル旨說明アレトモ以上各豫審調書ヲ閱覽スルニ何レモ今年即チ同調書作成ノ年ナル明治四十三年七月ニ本件犯罪アリシコトヲ認ムヘキ記載ナシ此點ニ於テモ原判決亦破毀ヲ免レスト云フニ在リ○然レトモ被告鶴吉同新之助及證人山本孫八（趣意書ニ山本繁八トアルハ山本孫八ノ誤記ト認ム）ノ各豫審調書ヲ閱スルニ「同年七月頃」又ハ「同年七月中」若ハ「七月十日頃」ノ文詞アリ右ハ孰レモ「四十年三月十四日云云」又ハ「四十年七月頃云云」ノ問ニ對シテ答ヘタルモノニ係ルヲ以テ原判決ニ於テ前示被告及證人ノ豫審調書中ノ供述記載トシテ「今年」又ハ「四十三年」ト揭記シアルモノハ「同年」又ハ「四十年」ノ誤記ナルコト明瞭ナレハ論旨ノ如ク虛無ノ證據ヲ援用シタル違法アルモノニ非ス

第三點原判決ハ理由不備ノ不法アル判決ナリ即チ原判決ニ於テハ明治四十年七月十七八日頃本件犯罪アリタル旨判示スレトモ右年月日ニ本件犯罪ノ行ハレシコトヲ認ムヘキ證據ヲ擧示スルコトナシ却テ前段引用ノ各證據說明ニヨレハ本件犯罪ハ明治四十三年七月ニ行ハレタルモノノ如シ其然ラサルコトヲ認定スルニハ之ニ適フ證據ヲ以テ理由ヲ說明セサルヘカラサルニ事茲ニ出テサリシハ不法ニシテ此點ニ於テ亦破毀ヲ免レスト信スト云フニ在リ○然レトモ前項說明ノ如ク原判決ノ各證憑中「今年」トアルハ「同年」「四十三年」トアルハ「四十年」ノ誤記ナルヲ以テ所論犯罪ノ年月ナル四十年七月ハ右證憑ニ依リテ之ヲ認メタルコト明ナリ又犯罪ノ日ナル「十七八日」ハ原判決ニ列擧セル證憑中ニ存スル金員交付ノ日時ヲ參酌シテ之ヲ判定シタルモノト認ムヘキカ故ニ原判決ニハ論旨ノ如キ違法アルコトナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事中川一介干與明治四十四年三月二十七日大審院第二刑事部

○竊盜詐欺及銃砲火藥類取締法施行細則違反ノ件

明治四十四年(れ)第三〇五號
明治四十四年三月三十日宣告

◎判決要旨

一、被告カ第一審判決ノ一部ニ對シテ控訴ヲ申立テタル以上ハ縱シヤ控訴期間經過後第二審公廷ニ於テ控訴ノ旨趣ヲ釋明シ第一審ノ有罪判決全部ニ對シテ爲シタルモノナル旨ノ供述ヲ爲スモ之ニ由リテ其控訴ノ範圍ヲ擴張シ移審ノ效力ヲ生セシムルコトヲ許サス

第一審　大分地方裁判所　第二審　長崎控訴院

被告人　後藤五一　辯護人　高木益太郎

右竊盜詐欺及銃砲火藥類取締法施行細則違反被告事件ニ付明治四十三年十二月二十七日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

原判決中銃砲火藥類取締法施行細則違犯被告事件ニ付控訴ヲ棄却シタル部分ヲ破毀シ其他ノ部分ニ對スル上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告趣意書ニ縷述スル所ヲ撮要スルニ(一)原審ノ職權ニ屬スル判示第一竊盜及第二詐欺ノ事實認定ヲ批難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス(二)第三銃砲火藥類取締法施行細則違反事實ニ對シ刑事訴訟法第八條第六項ニ依リ公訴時效完成セルニ拘ラス原院カ之ヲ犯罪トシテ處罰シタルハ不法ニシテ且第三事實ニ對シテハ法律ニ違背シテ公訴ヲ受理シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○次項ニ於テ辯護人高木益太郎上告趣意書第一點ニ對シ說明スルカ如ク原判決ニ破毀ノ原因存スル部分ニ付キ原判決ヲ破毀スヘキヲ以テ進テ本論旨ニ對シ判斷ヲ下スノ要ナシ

辯護人高木益太郎上告趣意書第一點第一審裁判所ニ於テ被告ニ對シ竊盜、恐喝、銃砲火藥類取締法施行細則違反及狩獵法違反ノ四箇ノ犯罪事實ニ付キ刑ヲ科シタルニヨリ被告ハ之ヲ不服トシテ控訴ヲ爲シタリ而シテ控訴ノ趣旨ハ竊盜及詐欺被告事件ニ付明治四十三年九月八日大分地方裁判所ニ於テ懲役一年六月ヲ言渡サレタルニ不服ニ付控訴ヲ爲スト云フニ在リ若シ被告ノ控訴ニシテ一部控訴ナリト解センカ原審ニ於テ銃砲火藥類取締法施行細則違反事件ニ付訴ヲ受ケサルモノナレハ之ニ付キ審理判決ヲ爲シ得ヘカラサルニ拘ハラス之ヲ爲シタルハ不當ナリ若シ被告ノ控訴ニシテ全部控訴ナリト解セシカ原審ニ於テ狩獵法違反事件ニ付審理判決ヲ爲ササルヘカラサルニ之ヲ敢テセサルハ不當ナリ孰レヨリ見ルモ原判決ハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リ○記錄ヲ查スルニ第一審大分地方

裁判所ニ於テハ明治四十三年九月八日被告ヲ竊盜及詐欺被告事件ニ付懲役一年六月ニ處シ銃砲火藥類取締法施行細則違反事件ニ付キ科料金一圓ニ處シ科料ヲ完納スル能ハサルトキハ一日間勞役場ニ留置スルコトヲ言渡シタルモノナルニ被告ノ控訴申立書ニ竊盜及詐欺被告事件ニ付キ明治四十三年九月八日大分地方裁判所ニ於テ懲役一年六月ヲ申渡サレ候モ不服ニ付キ控訴申立候也ト明記シアリテ銃砲火藥類取締法施行細則違反事件ニ付科料金一圓ニ處シ科料ヲ完納スル能ハサルトキハ一日間勞役場ニ留置スルコトヲ言渡シタル第一審判決ニ對シ控訴ヲ申立タルニアラサルコト極メテ明瞭ニシテ反對ノ解釋ヲ容ルヘキ餘地ナシ（記錄第一八九丁參照）故ニ原審公判始末書ノ記載ニ依レハ控訴期間經過後原審公廷ニ於テ被告カ控訴ノ趣旨ヲ釋明シテ第一審裁判所ノ有罪ノ判決全部ニ對シテ爲シタルモノナル旨ノ供述ヲ爲シタルコトハ明ナルモ之ニ由リテ前揭控訴申立書ノ明記ヲ無視シテ控訴ノ範圍ヲ擴張シ移審ノ效力ヲ生セシムルヲ許サス故ニ原審カ銃砲火藥類取締法施行細則違反事件ニ付控訴ノ申立ナキニ拘ハラス之レアルモノトシテ判決シタルハ違法ニシテ上告ノ理由アリ此判決ヲ爲シタル部分ニ付キ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス而シテ上叙ノ如ク本論旨ノ前段ヲ理由アリトスルヲ以テ其後段ノ理由ナキコトハ辯ヲ俟タスシテ明ナリ

第二點原判決ハ被告五一ハ（一）羽田野角馬ノ飼犬ヲ竊取シ（二）同人ヲ恐喝シテ金員ヲ騙取シ（三）火藥商ニアラスシテ火藥ヲ他人ニ讓渡シ十日以內ニ所轄警察署ニ届出テサリシモノトシテ右三所爲ニ對シテ刑ヲ言渡サレタリ然リト雖モ今檢事ノ公訴請求書ヲ見ルニ五一ニ對シテハ竊盜及詐欺ニ付起訴セラレタルモノナルコト明ナリ果シテ然ラハ原判決ハ明ニ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルノ違法アルモノト云ハサルヲ得スト云ヒ」第三點原判決ハ被告五一ハ火藥商ニアラスシテ火藥ヲ讓渡シ十日以內ニ所轄警察署ニ届出テサリシモノナリトシテ之レヲ處罰シタリ然リト雖モ被告カ火藥商ニアラサルヤ否ヤハ證據中何等其說明アルコトナシ或ハ曰ハン證據說明中之ヲ缺クト雖モ判文上被告ノ住所身分職業ノ記載アルニヨリテ之ヲ知ルヲ得ルヲ以テ足レリトスヘシト然リト雖モ之レ非ナリ被告カ火藥商ニアラサルコトハ之レ犯罪ノ特別構成要件ナルカ故ニ證據中此說明ヲ缺クヲ得サルノミナラス主タル職業ヲ農ナリトスルモ僻遠ナル田舍ニ於テハ他ノ業ヲモ兼ヌルコトアルハ往往見ル所ニシテ殊ニ被告ハ狩獵ヲモ爲シ居ルモノナレハ農業ノ傍火藥商ヲ爲シ居ルモノナルヤモ知ルヘカラス要スルニ原判決ハ罪トナルヘキ事實ニ關スル證據說明ヲ缺ケルノ違法アルモノトスト云フニ在レトモ○被告上告趣意書摘要（二）ニ對スルト同一理由ニ依リ進テ本論旨ニ對シ判斷ヲ下スノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ原判決中前揭破毀ノ原因存スル部分ニ付キ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ヲ適用シ其他ノ部分ニ付テハ同法第二百八十五條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

檢事中川一介干與明治四十四年三月三十日大審院第二刑事部

○盗賍收受及收賄ノ件

明治四十四年(れ)第三四九號
明治四十四年三月三十日宣告

◎判決要旨

一被告カ盗賊品タル情ヲ知リ乍ラ之ヲ賄賂トシテ收受シタルトキハ即チ一箇ノ行爲ニシテ收賄及ヒ盗賊收受ノ二罪名ニ觸レタルモノトス

第一審　名古屋地方裁判所　第二審　名古屋控訴院

被告人　松下義章

右盗賍收受及收賄被告事件ニ付明治四十四年一月二十六日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告上告趣意書第一原審判決ニ依レハ被告人カ西口熊次郎ヨリ職務上ノ請託ヲ受ケ盗賍タルノ情ヲ知リナカラ物品ヲ賄賂トシテ收受シタル旨ノ事實ヲ認定セラレタリ而シテ右事實認定ハ眞實ニアラサルモ既ニ第二審ノ判決ヲ受ケタル上ハ法律上之レヲ云云スル能ハス然レトモ各原審ノ事實認定通リナリトスルモ被告人ノ意思カ收賄ニ存シタルヤ賍物ニ存シタルヤヲ明カニセス其結果被告人ノ所爲ハ收賄ト賍物收受トノ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ刑法第五十四條第一項ヲ適用處斷セラレタルモ元來被告人ノ所爲ハ收賄ノ所爲ナリトセハ假令其目的物カ賍物ナリトスルモ之レカタメ兩樣ノ罪名ヲ受クヘキ筈ナカルヘシト信ス即チ原審ハ此點ニ於テ事實ヲ確定セサル違法ノ判決ナリト信スト云フニ在レトモ◎原判決ニ認メタル事實ニ依レハ被告ハ盗賍品タル情ヲ知リナカラ之レヲ賄賂トシテ收受シタルモノナレハ一箇ノ行爲ニシテ收賄及ヒ盗賍收受ノ二箇ノ罪名ニ觸レタルモノトス故ニ原院カ刑法第五十四條第一項ヲ適用シ牽聯ノ一罪ト認メタルハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ

第二原審判決ハ法律ヲ適用スル場合ニ於テ被告人ノ所爲ハ「刑法第九十七條第一項前段ノ賄賂收受ノ罪ニ該リ」ト説明セラレタルモ刑法第九十七條ハ逃走ノ罪ヲ規定シタルモノナレハ擬律ノ錯誤アルモノナリト信スト云フニ在レトモ◎原判決ニハ賄賂收受ノ罪ニ該當スル刑法第百九十七條第一項前段ヲ適用シアレハ本論旨ハ謂ハレナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十四年三月三十日大審院第二刑事部

○詐欺取財私印盗用私書偽造行使ノ件

明治四十三年(れ)第二九一二號
明治四十四年三月三十一日宣告

●判決要旨

一偽造手形ノ行使ハ手形本來ノ效用ニ從ヒ之ヲ流通ニ措ク場合ノミニ限ラス汎ク偽造ノ手形ヲ眞正ノ手形トシテ使用スルコトヲ指稱セルモノトス(判旨第一點)

一甲者カ乙者ヲシテ流通セシムル爲メニ非サルモ其親族ニ呈示セシムル爲メ手形ヲ偽造シ眞正ノ手形トシテ之ヲ交付シタル所爲ハ即チ偽造手形ノ行使ニ外ナラス(判旨第三點)

第一審　東京地方裁判所　第二審　東京控訴院

公訴私訴上告人　和田三夫

私訴被上告人　深谷ぬみ

辯護人　手代木伯壽　三宅源重郎

右詐欺取財私印盗用私書偽造行使被告事件ニ付明治四十三年十一月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決並ニ之ニ附帶スル私訴事件ニ付同年同月三十日同院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告三夫ハ公訴ニ付被告訴訟代理人手代木佑壽ハ私訴ニ付各上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件公私訴ノ上告ハ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ上告人ノ負擔トス

理由

被告辯護人手代木佑壽上告趣意書第一點原判決ハ「被告深谷ぬみカ其管理スル深谷家ノ財産ヲ浪費シタル爲メ內一千圓ハ悉ク之ヲ被告人ニ貸與シタルモノノ如ク裝ヒ以テ浪費ノ痕ヲ蔽ハント企テ明治四十二年一月頃加藤松次郎ナルモノヲ介シ被告人ニ告クルニ前記ノ企テヲ以テシタル上親族ニ示シテ金員支出ノ辯解ニ供スル爲メ金千圓ノ假裝ノ手形ヲ振出サレタキ旨懇請シタル處被告人ハ之ヲ承諾シ行使ノ目的ヲ以テ明治四十二年一月三十一日云云深谷ぬみ宛テ額面一千圓ノ約束手形ヲ偽造シ云云」ト判示セラレタリ右前段認定事實ニ依レハ被告カ本件手形ヲ振出シタルハ深谷ぬみノ懇請ヲ容レ同人ノ親族ニ示ス爲メナルコトハ明カナリ然ルニ後段ニ於テ「行使ノ目的ヲ以テ約束手形ヲ偽造シ」ト認定セラレタルハ理由齟齬アル裁判ナリト思料ス抑モ約束手形ノ行使トハ手形本來ノ性質ニ從ヒ經濟上流通セシムル爲メニ使用スル即チ流通ニ措クヲ云フモノナレハ此目的ノ下ニ振出サルルニ非サレハ之ヲ以テ行使ノ目的ニ出テタルモノト云フコトヲ得サルコトハ法律上明白ナリトス或ハ約束手形本來ノ效用以外ニ之レヲ證明ノ用ニ供スルモ猶ホ行使ナリトノ見解ヨリ親族ニ示スモ行使ナリト云ハンモ約束手形本來ノ效用以外ニ證明ノ用ニ供スル場合ハ證明事實ハ權利義務ニ關スル事實ナラサルヘカラス單ニ本件ノ如ク親族ニ對スル體裁上示ス場合ノ如キハ之レヲ以テ證明ノ用ニ供スルモノト云フコトヲ得

サルヲ以テ刑法上ノ行使ニ非サルコト明白ナリトス然ルニ原判決ハ前段ニ於テ本件約束手形ハ單ニ深谷ぬみカ其親族ノ者ニ示ス目的ノ爲メ作成セラレタルコト即チ流通ニ措クニ非サルコトヲ是認シナカラ後段ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ振出サレタルモノト判定シタルハ理由齟齬アル不法ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○偽造手形ノ行使ハ手形本來ノ效用ニ從ヒ之ヲ流通ニ措ク場合ノミニ限ラス偽造ノ手形ヲ眞正ノ手形トシテ使用スルコトヲ汎稱スルモノナレハ被告カ本件ノ手形ハ之ヲ流通セシムルカ爲メニ非サルモ苟モ判示ノ如クぬみヲシテ之ヲ眞正ノ手形トシテ親族ニ呈示セシムルカ爲メナル以上ハ行使ノ目的ヲ以テ手形ヲ偽造シタルモノニ外ナラサルヲ以テ原判決ハ理由齟齬ノ不法アルコトナク論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ被告カ「東亞同文會編纂局ノ印章ヲ不正ニ使用シ同局ヲ代表スル主幹者ノ資格ヲ詐ハリ自カラ同局代表者トシテ署名シ約束手形ヲ偽造シ云云」ト判決セラレタリ然レトモ東亞同文會ハ一ノ事實上ノ團體ニシテ法律上ノ人格者（同會幹事根本一ノ證言）即チ法人ニ非ス故ニ法律上同會代表者ナルモノ存スル筈ナケレハ約束手形ニ同會編纂局代表者和田三夫ト記載スルモ決シテ其資格ヲ詐ハルコトナル筋合ニアラス何トナレハ資格ヲ詐ハルトハ眞實資格者ノ存スルノ場合ニ無資格者カ其資格ヲ冒用スルヲ云フモノナレハナリ然ルニ前陳ノ如ク東亞同文會ハ人格者ニ非サレハ法律上之レカ代表者ナルモノ存スル謂ハレナキヲ以テナリ加之之レヲ手形法上ノ理論ヨリ見ルモ東亞同文會編纂局代表者和田三夫ト記載シタル手形ハ被告三夫ニ於テ手形上責任アルモノニシテ決シテ人格ナキ東亞同文會カ其支拂ノ責ニ任スヘキモノニ非ス約束手形ノ偽造ハ其署名ヲ詐ハル場合竝ニ其資格ヲ詐ハル場合ニ於テ生スルモノニシテ資格ヲ詐ハルトハ手形上ノ責任ヲ署名者以外ノ人格者ニ歸セシムル形式上ヲ云フモノニシテ詐ハラレタル資格者ハ必ス人格者ナラサルヘカラサルモノトス本件ノ如ク署名者タル被告ニ於テ其責ニ任スヘキモノハ之ヲ約束手形ノ偽造ト云フコトヲ得サルモノトス故ニ以上何レノ點ヨリ觀察スルモ本件ハ死亡者ノ署名ヲ（生存中ノ日附ハ此限リニアラス）詐ハルモ罪トナラサルト一般法律上罪ヲ構成スル筋合ノモノニ非サルニ之ヲ有價證券偽造ニ問擬シタル原判決ハ不法ノ判決ナリトスト云ヒ」第三點原判決ハ「同局ヲ代表スル主幹者ノ資格ヲ詐ハリ自ラ同局代表者トシテ署名シ約束手形ヲ偽造シタリ」ト判示セラレタルモ「編纂局ヲ代表スル主幹者ノ資格」トハ如何ナル資格ナルヤヲ說明セス即チ主幹者トハ法律上如何ナル資格ナリヤ換言スレハ主幹者ト東亞同文會編纂局トノ關係ヲ以テ人格者ノ關係ト解シタルヤ或ハ無人格者間ノ關係ト解シタルヤ不明ナリ東亞同文會ノ無人格ナルコトハ前述ノ如クナレハ其編纂局ノ人格者タル筈ナキハ寔ニ明ナリ然ラハ編纂局ヲ代表スル主幹者ノ資格ナルモノハ法律上是認シ能ハサルノ觀念ニ非スヤ然ルニ原院ハ之ヲ以テ資格ヲ詐ハリタリト判定セラレタルニ拘ハラス其理由ヲ說明セサルハ理由不備ノ不法アル裁判ナリトスト云フニ在リ○按スルニ東亞同文會ハ法人ニ非ス從テ其編纂局ナルモノノ人格ヲ有セサルコト勿論ナレトモ原判決ニ被

告カ東亞同文會編纂局ヲ代表スル主幹者ノ資格ヲ詐ハリ同局代表者トシテ手形ニ署名シタル旨判示シタルハ要スルニ被告カ東亞同文會ナル團體ニ屬スル編纂局員ノ總代名義ヲ詐ハリ署名シタル事實ヲ判示シタルモノニシテ他人ノ作成名義ヲ詐ハリタルモノニ外ナラサレハ論旨ハ何レモ理由ナシ

第四點原判決ハ「右ぬみ方ニ於テ之ヲ同人ニ交付シ以テ之ヲ行使シタリ」ト判示シ被告ヨリぬみニ交付シタル事實ヲ以テ行使ナリト判定セラレタルモ深谷ぬみハ本件手形ハ假裝ノ手形ニシテ流通スヘカラサル事實ハ之ヲ熟知ス（原判決亦之レヲ是認ス）ル所ナリ然ラハ之ヲぬみニ交付スルモ之ヲ流通ニ措キタリト云フコトヲ得サルト同時ニ又證明ノ用ニ供セラレタルモノトモ云フコト能ハサルハ自明ノ理ナリ然ラハ即チぬみニ交付シタル事實ヲ以テ行使ナリト判定シタルハ結局理由齟齬ノ裁判ナリトス

判旨第三點

一

ト云フニ在リ○仍テ原判決ヲ閲スルニ當初ぬみニ於テ假裝ノ手形ヲ求メタルニモセヨぬみカ本件ノ手形ノ僞造ナルコトヲ知ラサリシコトハ原判決ニ「之ヲ右ぬみ方ニ於テ其僞造ノ情ヲ知ラサル同人ニ交付シ」ト判示スルニ依リ明ナレハ被告ハぬみヲシテ之ヲ流通セシムル爲メニ非サルモ其親族ニ呈示セシムル爲メ眞正ノ手形トシテ之ヲぬみニ交付シタルモノナル以上ハ僞造ノ手形ヲ眞正ノ手形トシテ使用シタルモノニシテ即チ僞造手形ノ行使ニ外ナラサルヲ以テ原判決ハ理由齟齬ノ不法アルコトナク論旨ハ理由ナシ

同辯護人私訴上告趣意書原院ハ「控訴人ハ明治四十二年十二月下旬被控訴人ト建坪二十坪ノ二階建家屋一棟ノ建築請負契約ヲ締結シ其請負代金ノ内金トシテ金三百圓ヲ被控訴人ヨリ受取リタリ云云」前記請負契約ハ明治四十二年六七月頃當事者間ノ暗默ノ合意ニ依テ解除セラレタルコトト認ムルニ相當スヘキカ故ニ控訴人ハ被控訴人ニ對シ前顯三百圓ヲ返還スヘキ義務アルヤ勿論ナリ又「控訴人カ明治四十一年一月中八百勘ニ對スル料理代金四十圓八十九錢云云立替金借用金合計二百十圓九錢ヲ支拂フヘキ債務ヲモ負擔シ居ルモノト認定ス」云云被控訴人ノ請求中上示請負代金内金立替金並ニ貸金合計五百十圓九錢云云ノ支拂ヲ求ムルハ理由アリト判定シ上告人ニ其支拂方ヲ言渡サレタルモ本判決ハ法則ニ違反シタル不法ノ裁判ナリトス一、刑事訴訟法第二條ニハ「私訴ハ犯罪ニ因テ生シタル損害ノ賠償、贓物ノ返還ヲ目的トス」トアリテ私訴ノ目的ハ第一犯罪ヲ原因トスルコト第二損害ノ賠償又ハ贓物ノ返還タルコトヲ要スルモノトス然ルニ本件ハ公訴記錄ニ依リ明白ナル如ク被上告人カ請求ノ原因トシタル詐欺取財ハ無罪ノ判決ヲ受ケタルヲ以テ本件請求ハ其第一要件タル（犯罪ヲ原因トスルコト）ヲ失フ次第ナレハ却下セラルヘキ筋合ナルニ原院カ上告人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不法ナリトス二、私訴ハ前述ノ如ク損害ノ賠償若クハ贓物ノ返還ナラサルヘカラサルニ不拘原院ハ請負代金、立替金、貸金ノ支拂ヲ爲スヘシト判定セラレタルハ法則ヲ不法ニ適用シタル不法ノ判決ナリトスト云フニ在レトモ○公訴ニ附帶シ犯罪行爲ヲ原因トシテ刑事裁判所ニ私訴ノ提起アリタル場合ニ裁判所ハ公訴ニ付無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキト雖モ之カ爲メ直ニ私訴ノ請求ヲ却下スルコトヲ得ス假令原因ヲ變更スルモ

依然私訴トシテ民法上其理由ノ有無ヲ審査シ請求ノ當否ヲ判決セサルヘカラス故ニ論旨ハ理由ナシ

被告辯護人三宅源重郎上告趣意書第一點私印盗用私書偽造ノ罪ハ他人ノ印章ヲ盗用偽造スルノ罪ナルカ故ニ本罪ノ構成ニハ實在セル人格者アルコトヲ必要トス詳言スレハ他人ノ印章文書ナルモノハ之ニ依リテ表示セラルヘキ人格者アルコトヲ前提トスルカ故ニ私印盗用私書偽造ノ罪ハ自然人若クハ法人ノ印章文書ヲ盗用偽造スルコトニ依リテ成立スヘキモノトス原判決ハ「被告三夫ハ(中略)東亞同文會編纂局事務室ニ於テ同會編纂局ノ印章ヲ不正ニ使用シ同局ヲ代表スル主幹者ノ資格ヲ詐ハリ自ラ同局代表者トシテ署名シ以テ同日附深谷ぬみ宛額面金一千圓ノ約束手形ヲ偽造シ云云」ト判示スレトモ所謂東亞同文會ナルモノハ自然人ニアラス亦法人ニモ非サルモノ(證人東亞同文會幹事長根津一豫審調書參照)ナルカ故ニ之カ印章署名ヲ盗用偽造スルト雖モ之カ爲メニ文書偽造罪ヲ構成スヘキモノニアラス然ルニ原院カ之ニ對シテ刑法第六十二條第一項ニ問擬シ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ編纂局ノ印章トアルハ同局主幹者ノ使用スル印章ヲ云フ而シテ論旨ノ理由ナキコトハ被告辯護人手代木佑壽上告趣意書第二點及ヒ第三點ノ下ニ説明スル所ノ如クナルヲ以テ重ネテ茲ニ説明セス

第二點東亞同文會編纂局ハ法律上ノ人格者ニ非サルカ故ニ從テ亦同局ヲ代表スヘキ資格ヲ有スル人アルコトナシ御院判例ハ「文書偽造罪ハ他人ノ名義ヲ詐ハリ文書ヲ作成スルニ因テ成立ス換言スレハ文書ヲ有スル權限ナキモノカ其權限ヲ有スル者ノ資格ヲ詐ハリ文書ヲ作成スルニ於テハ文書偽造罪ヲ構成スルモノナリ」ト判示セラレタレモ本件ノ如ク既ニ法律上代表スヘキ資格者アリ得ヘカラサル場合ニ於テハ自ラ之カ代表者ナリト稱スルコトアルモ固ヨリ一定ノ權限アル他人ノ資格ヲ詐ハリタルモノニアラサルカ故ニ之カ爲メニ文書偽造罪ヲ構成シタルモノト云フヲ得ス然ルニ原判決カ被告ハ東亞同文會編纂局ヲ代表スル主幹者ノ資格ヲ詐ハリ以テ約束手形ヲ偽造シタルモノト爲シ之ニ對シ刑法第百六十二條第一項ヲ以テ問擬シタルハ是レ實ニ法則ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ原判決ハ此點ニ於テモ破毀ヲ免カレサルモノト信スト云フニ在レトモ○是亦其理由ナキコトハ被告辯護人手代木佑壽上告趣意書第二點及第三點ニ對スル説明ニ就キ了解スヘシ

第三點原判決ハ「被告人三夫ハ(中略)東京市赤坂區溜池町二番地東亞同文會編纂局事務室ニ於テ(中略)約束手形ヲ偽造シ云云」ト判示スレトモ東亞同文會編纂局事務室カ果シテ東京市赤坂區溜池町二番地ニ存在スルヤ否ヤノ證據ヲ説明セス即チ原判決ハ犯罪ノ場所ニ關スル重要ナル點ニ於テ理由不備ノ不法アルモノト信スト云ヒ」第四點原判決ハ「被告人三夫ハ(中略)明治四十二年一月三十一日(中略)約束手形ヲ偽造シ(中略)同日之ヲ右ぬみ方ニ於テ(中略)同人ニ交付シ以テ行使シタリ」ト判示スヲ其證據理由ヲ闕スルニ明治四十二年一月二十一日被告カ右約束手形ヲ偽造シタル旨ハ之ヲ説明シ居レトモ該手形ヲふみニ交付シタルハ果シテ同日ナリシヤ否ヤニ至リテハ毫モ之カ説明ヲ爲サス即チ

原判決ハ犯罪ノ時ニ關スル重要ナル點ニ於テ理由不備ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ◎所論ノ犯罪ノ場所及日時ハ本件ノ罪トナルヘキ事實ニ非サルカ故ニ原判決ニ之ヲ認メタル證據説明ヲ缺クモ理由不備ト云フヲ得ス從テ論旨ハ何レモ理由ナシ

第五點以上公訴ニ關スル上告趣意書ハ之ヲ私訴ニモ援用スト云フニ在レトモ◎公訴上告論旨ノ理由ナキコトハ既ニ説明スル所ノ如クナルヲ以テ從テ本論旨モ亦理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事板倉松太郎干與明治四十四年三月三十一日大審院第一刑事部

○横領並附帶私訴ノ件　明治四十四年(れ)第二九六號　明治四十四年三月三十一日宣告

◎判決要旨

一町村ノ費用トシテ工事請負人ニ支拂フヘキ現金ニ付テハ町村長ハ唯其支拂ヲ命令スルノ職務アルニ止マリ之ヲ保管スル職務ヲ有セス（判旨第一點）

一町村長カ町村ノ費用トシテ他人ニ支拂フヘキ現金ヲ横領シタル事實ヲ認定シ其職務上保管スル公金ヲ横領セルモノトシテ刑法第二百五十三條ヲ適用スルニ當リテハ町村長カ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル事實ヲ判示セサルヘカラス（同　上）

（參照）業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（刑法第二百五十三條）

第一審　金澤地方裁判所　第二審　名古屋控訴院

公訴私訴上告人　高藤忱　辯護人　鵜澤總明

私訴被上告人　飯地村

右代表者　中谷次郎

右横領並ニ之ニ附帶スル私訴事件ニ付明治四十三年十二月十九日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル各判決ニ對シ被告ハ公私訴ニ付上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

原公私訴ノ各判決ヲ破毀シ事件ヲ大阪控訴院ニ移送ス

理由

辯護人法學博士鵜澤總明上告趣意書第三點原判決ハ第一事實ニ付キ被告ハ村長在職中ナルコトヲ認メ

タレトモ元來村長ノ職務トシテ公金ヲ保管スヘキ理由ナキモノナルヲ以テ若シ村長カ職務上公金ヲ保管シタルモノトスレハ其保管ニ關スル事實ヲモ併セテ摘示セサルヘカラス證據説明ニ依リテ之ヲ按スレハ寧ロ收入役トシテ保管シタルモノニ非サルカヲ疑ハシムル點ナキニ非ス然ルニ村長ノ職務上ノ保管ナルコトヲ認定シナカラ其事實ト證據トヲ示ササルハ理由不備ニシテ且擬律錯誤ノ不法アリト思料スト云フニ在リ○仍テ按スルニ町村制ノ規定ニ依レハ町村長ハ町村有ノ基本財産ヲ管理スル職務ヲ有スルモ（町村制第六十八條第四號）町村ノ費用トシテ工事請負人ニ支拂フヘキ現金ノ如キハ町村收入役ニ於テ之ヲ保管スル職務ヲ有シ（同制第七十一條）町村長ハ單ニ其支拂ヲ命令スルノ職務アルニ止マリ右現金ヲ保管スル職務ナキモノトス但收入支出寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得（同制第六十二條第六項）從テ此場合ニ於テハ町村長ハ兼掌事務トシテ右現金ヲ保管スル職務アリト雖モ右ハ町村長ノ當然ノ職務範圍ニ屬セス特別ノ場合ニ於テ收入役ノ事務ヲ兼掌シタルトキニ限ルモノナレハ此場合ニ於テ町村長カ町村ノ費用トシテ支拂フヘキ現金ヲ横領シタル事實ヲ認定シ其職務上保管スル公金ヲ横領シタルモノトシテ刑法第二百五十三條ヲ適用スルニ當テハ町村長カ前掲收入役ノ事務ヲ兼掌シタル事實ヲ判示セサルヘカラス然ルニ原公訴判決ニ於テ斯ル事實ヲ判示スルコトナク漫然「被告ハ判示村長在職中其職務上保管スル同村公金中判示道路工事請負人ヘ支拂フヘキ金員ヲ横領シ」ト判示シ被告カ村長タル職務上占有スル公金

判旨第一點

ヲ横領シタルモノトシテ刑法第二百五十三條ヲ適用シタルハ理由不備ノ違法アリテ本論旨ハ理由アリ同判決ハ破毀ヲ免カレス既ニ此點ニ於テ原公訴判決ヲ破毀スル以上ハ爾餘ノ公訴上告論旨ニ對シテ逐一説明ヲ與フルノ要ナシ

同辯護人私訴上告趣意書原判決ハ「前畧被告カ原告村村長在職中職務上保管スル同村公金ノ内仁岸道路工事請負人金森久太郎ニ支拂フヘキ金百二十圓ヲ横領シタルコトハ公訴判決ニ判示スル所ノ如クナルヲ以テ被告ハ右金額ヲ原告村ニ賠償スヘキ義務アリ云云」ト判示セリ然レトモ原判決ハ果シテ村長ノ職務上保管スヘキ公金ナリヤ否ヤニ付事實竝ニ説明ニ付不法アルヲ以テ果シテ原判決説示ノ如ク被上告人ニ損害ヲ蒙ラシメタリヤ否ヤモ亦不明ナリト云ハサル可カラス此點ニ於テ原判決ハ不法ナリト思料スト云フニ在リテ○既ニ公訴上告論旨ニ付テ説明シタル理由ニ依リ原公訴判決ヲ破毀スル以上ハ同判決ヲ基礎トシタル原私訴判決亦違法ニシテ本論旨ハ理由アリ原私訴判決ハ破毀ヲ免カレサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與明治四十四年三月三十一日大審院第一刑事部

○私書僞造行使詐欺取財未遂及誣告ノ件

明治四十四年(れ)第三三八號
明治四十四年三月三十一日宣告

◎判決要旨

一一箇ノ行爲ニ依リ同時ニ二人ヲ誣告シタル場合ニ於テ檢事カ該犯罪事實ノ一部ニ付キ適式ニ起訴シタル以上ハ爾餘ノ部分モ亦其起訴中ニ包含スルモノトス

第一審　山口地方裁判所　第二審　廣島控訴院
被告人　大中虎之助　辯護人　末廣彌次郎

右私書僞造行使詐欺取財未遂及誣告被告事件ニ付明治四十四年一月二十七日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人末廣彌次郎上告趣意書第一點原判決事實ノ部ヲ查閱スルニ「第二被告ハ右佐熊文藏中村淺之助ヲシテ刑事上ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ佐熊文藏ハ「云云」不法ニ債務ヲ免レントシタルノミナラス中村淺之助ヲシテ山口區裁判所ニ於テ僞證ヲ爲サシメタルモノナル旨及中村淺之助ハ云云佐熊文藏ノ囑託ヲ受ケ云云僞證ヲナシタル旨全然虛僞ノ事實ヲ記載シタル告訴狀ヲ山口地方裁判所ニ提出シ右兩名ヲ誣告シタルモノナリ」ト判示セラレタリ則チ此事實ニヨレハ被告ノ誣告ノ內容事實ハ佐熊文藏ニ對シテハ詐欺免債及僞證敎唆中村淺之助ニ對シテハ僞證トシテノ誣告ヲナシタリト云フニアリ然レトモ本件記錄ニ添附セラレアル被告提出ノ告訴狀ヲ閱スルニ文藏ニ對シテハ只詐欺免債ノ事實ノミヲ告訴シタルニ止マリ原院判示ノ如ク文藏ハ中村淺之助ヲシテ山口區裁判所ニ於テ僞證ヲ爲サシメタル旨ノ告訴ヲナシタルコトナシ翻テ檢事ノ豫審請求書（記錄六十六枚目）ヲ查閱スルニ「第二被告カ佐熊文藏ニ對シ詐欺取財中村淺之助ニ對シ僞證ト誣告ヲ爲シタル事實」トアリテ僞證敎唆ノ誣告ヲナシタル事實ハ曾テ起訴セラレタルコトナシ（素ヨリ告訴狀ニ斯ル記載ナキヲ以テ）然ルニ原院カ被告僞證敎唆ノ誣告ヲナシタルモノトシテ之レヲ處罰シタルハ證據ヲ誤解シテ誣告セサル事實ヲ誣告セリトシ且不告不理ノ原則ニ反シテ起訴ナキ事實ヲ處斷シタル不法ノ判決ニシテ破毀ノ原因アルモノト確信スト云フニ在リ◎仍テ記錄ヲ查スルニ被告ノ告訴狀ニハ佐熊文藏カ中村淺之助ニ對シ僞證ヲ敎唆シタリトノ事實ノ明示ナク又檢事ノ豫審請求書中ニモ亦等シク被告カ所論ノ如キ僞證敎唆ニ關シ誣告シタリトノ事實ノ明示ナキコト洵ニ論旨ノ如クナルモ右ハ原審ニ於テ一箇ノ行爲ニ依リ同時ニ兩人ヲ誣告シタル事實ナリトシ刑法第五十四條ニ依リ一罪トシテ處分シタル事案ニ係リ所揭ノ事實ハ單ニ一罪中ノ一部ノ事實ニ關スルモノニ過キサレハ既ニ檢事ニ於テ其他ノ部分ニ付キ適式ニ起訴シアル以上前揭ノ事實亦右起訴中ニ包含スルモノト解スヘキモノナルノミナラス被告カ原審公廷ニ於ケル陳述中判

示ト同一趣旨ノ告訴狀ヲ提出シタル旨ノ自認ヲ爲シタル事原判決證據說明ニ示シアル如クナルヲ以テ看レハ本案僞證教唆ニ關スル誣告ノ事實亦該告訴狀中ニ包含シ居ルモノト認ムルヲ相當トス左レハ本論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ニ其證據說明ニ於テ被告ハ當法廷ニ於テ「判示第二ノ事實ノ如キ趣旨ノ記載ヲ爲シタル告訴狀一通ヲ判示ノ目的ヲ以テ判示ノ年月日山口地方裁判所檢事局ニ提出シタルコトハ相違ナキ旨供述セリ」トアルモ原院公判始末書ニハ被告ノ供述トシテ毫モ斯ル記載ナク則チ原院ハ虛無ノ證據ヲ採用シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原審公判始末書中被告陳述ノ部ニ揭ケアル記事ハ右判示ト同一趣旨ト解釋シ得ヘキヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

第三點抑モ本件被告ノ所爲カ詐欺取財ナルヤ否ヤハ金六十五圓ノ債權カ眞正ニ成立シアルヤ否ヤニアリ本件ノ根原ハ被告ハ明治二十九年二月二十七日金百三十圓ヲ佐熊文藏ニ貸與シ同三十六年正月三日迄ニ元利八十幾圓ノ入金アリテ殘金六十五圓ヲ證書トシテ請取リタル旨ヲ主張シ本件被害者タル佐熊文藏ニ於テモ右百三十圓ノ借用ノ事實ハ之レヲ認メ只三十一年七月中完濟シタルモノナリト主張スルニアルハ本件記錄ニヨリ明確疑ナキ所ニ屬ス從テ本件被告ノ所爲カ詐欺取財ナルヤ否ハ一ニ被告主張ノ如ク未タ六十五圓ノ殘額債權アルヤ若クハ佐熊文藏主張ノ如ク三十一年中完濟セラレタルヤヲ判斷セサルヘカラス蓋シ若シ被告主張ノ如ク未タ六十五圓ノ債權成立スルモノトセハ之レカ請求カ詐欺取財罪ヲ構成スルノ理アルヘカラサレハナリ然ルニ原院ハ此點ニ付何等ノ判斷ヲナスコトナク只單ニ六十五圓ノ證書カ僞造ナルコトヲ判示シ其當然ノ論結トシテ詐欺取財トセラレタルハ不法ナリ蓋シ僞造ト詐欺トハ別箇ノ問題ナリ例ヘハ僞造シテ請求スレハ文書僞造タルヘキモ爲之詐欺取財タルコトナキハ何人モ異論ナカルヘク從テ本件ノ如キ事實關係ニアリテハ證書ノ僞造ナルヤ否ヤノ以外ニ債權カ實際成立スルヤ否ハ詐欺取財ニ間擬スヘキ前提トシテ當然審究セサルヘカラサル主要判斷事項ナリ原院カ之レヲ看過シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本論ノ趣旨ハ要スルニ原審ノ職權ニ屬スル事實認定ヲ非難スルモノニ歸スルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事板倉松太郎干與明治四十四年三月三十一日大審院第一刑事部

○誘拐ノ件

明治四十四年(れ)第三五二號
明治四十四年三月三十一日宣告

○判決要旨

一實際上意思能力アル未成年者ト雖モ苟モ之ヲ欺罔シテ他所ニ誘致

誘拐罪ノ成立

シ自己ノ支配内ニ置クトキハ誘拐罪ヲ構成スルモノトス

第一審　松山地方裁判所　第二審　廣島控訴院

被告人　渡邊ヒデ　辯護人　横山勝太郎

右誘拐被告事件ニ付明治四十四年一月十四日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人横山勝太郎上告趣意書第一點所謂誘拐罪ハ意思能力ナキモノヲ自己ノ支配内ニ致シタル場合ニ成立スルモノナルニ本件西村タケヨハ犯行當時十九歳ニシテ民法上無能力ナリト云フニ止マリ實際上意思能力ヲ有スルモノナルヲ以テ刑法第二百二十五條ノ犯罪ヲ成立スルニ由ナキモノトス此點ニ於テ原判決ハ不法ナリト云ヒ」第二點本件ハ未成年者ヲ誘拐シタルモノナルヲ以テ專ロ刑法第二百二十四條ヲ適用スヘキモノト信ス尚ホ情狀輕微ニシテ刑ノ執行猶豫ノ理由アルモノト思料スト云フニ在レトモ○原判決ノ事實認定ニ依レハ被告ヒデハ愛媛縣西宇和郡八幡濱町字沖新田飲食店松下トミ方ニ下女奉公ヲ爲シ居タル同町西村省三ノ養女タケヨ（當時十九歳）ヲ他地方ニ誘出シ同人ヲ利用シテ不正ノ利益ヲ得ンコトヲ企テ判示方法ニ依リ同人ヲ欺罔シテ大分縣速見郡別府町ニ連行キ娼妓稼ヲ爲サシメ

ントシテ遂ケス其後同縣同郡御越町字龜川判示飲食店ヘ奉公ヲ爲サシメ前借金三十圓ヲ受領シタルモノニシテ實際上意思能力アル未成年者ニ對シテモ苟クモ之ヲ欺罔シテ他所ニ誘致シ自己ノ支配内ニ置ク以上ハ誘拐罪ヲ構成スヘク而シテ本件ノ如ク營利ノ目的ヲ以テ誘拐シタルトキハ被誘拐者カ未成年者タルト否トヲ問ハス刑法第二百二十五條ノ罪ヲ以テ論スヘキナリ然レハ右判示事實ニ對シ同法條ヲ適用處罰シタル原判決ハ正當ナリトス從テ第一及第二論旨ノ前段ハ理由ナク第二論旨ノ後段ハ原院ノ職權ニ屬スル刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀ノ有無ニ關スル判斷ヲ非難スルモノナレハ上告適法ノ理由トナラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事板倉松太郎干與明治四十四年三月三十一日大審院第一刑事部

○森林竊盜及贓物故買ノ件

明治四十四年(れ)第三二八號
明治四十四年四月四日宣告

◎判決要旨

一被告人ニ展示シテ其意見ヲ聽カサル檢證調書附錄見取圖ヲ證據ニ援用シタル判決ハ違法ナリ

第一審　熊本地方裁判所　第二審　長崎控訴院

被告人　藤木伴七　辯護人　高木益太郎

右森林竊盜及贓物故買被告事件ニ付明治四十四年一月十九日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

原判決ヲ破毀シ事件ヲ廣島控訴院ニ移送ス

理由

辯護人高木益太郎上告趣意書第五點原判決ハ罪證ニ供セシ檢證調書附屬繪圖ヲ審判ノ際被告ニ示シテ辯解ヲ聽カサリシハ違法ナリト云フニ在リ◎仍テ原判決ヲ査閲スルニ其證據說明ノ部ニ前川嘉太郎ノ豫審調書ニ判示山林ノ杉「檢證調書附錄第一見取圖中甲ノ一、二乙ノ一、二ノ」四本ヲ盜伐サレ搜査中云云ノ旨供述ノ記載アリト判示シアリ而シテ右檢證調書ハ本件豫審終結決定後第一審公判審理中ニ作成セラレタルモノニ係ルコトハ同檢證調書ノ記載（記錄第九五丁乃至第一〇〇丁）ニ徵シ明瞭ナリ

被告人ニ展示セサル圖面ノ採用

トス然ラハ右前川嘉太郎ノ豫審供述ニ關スル判示中檢證調書附錄第一見取圖中甲ノ一、二乙ノ一、二ト記載シアルハ同人ノ豫審供述トシテ判示セル判示山林ノ杉四本ハ右見取圖中甲ノ一、二乙ノ一、二ト記載シアル地位ニ在リタルモノニ該當スルコトヲ說明シタルモノニシテ原判決ハ右見取圖ヲモ證據ニ援用シタルモノト認メサルヘカラス然ルニ同見取圖ハ展示ノ方法ニ依ラサレハ其內容ヲ認識セシメ得サルニ拘ハラス原審公判始末書ニハ之ヲ被告ニ示シ其意見ヲ聽キタル旨ノ記載ナク從テ原審ハ適法ニ證據調ヲ經サル檢證調書附錄第一見取圖ヲ證據ニ援用シタルハ違法ニシテ本論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス既ニ此點ニ於テ原判決ヲ破毀スル以上ハ爾餘ノ論旨ニ付テハ逐一說明ヲ與フルノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與明治四十四年四月四日大審院第一刑事部

○強姦致傷ノ件

明治四十四年(れ)第三六六號
明治四十四年四月四日宣告

○判決要旨

一公判ニ於ケル鑑定ハ鑑定人ヲシテ口頭ノ供述ニ依リ之ヲ爲サシメ其供述ヲ公判始末書ニ記載スレハ足リ必スシモ常ニ鑑定書ヲ作成スルコトヲ要セス(判旨第二點)

一刑法施行法第六十三條ニ所謂出頭トハ裁判所ノミニ限ラス臨檢其他何レノ場所ニテモ裁判所ノ取調ヲ受クルノ義ナリトス(判旨第三點)

(參照)「證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍內ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム」、「證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス」、「鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五圓(刑法施行法第六十三條)

第一審　甲府地方裁判所　第二審　東京控訴院

被告人　黑木實常　辯護人　渡邊澄也

右强姦致傷被告事件ニ付明治四十四年一月二十三日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ依テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告上告趣意書及ヒ辯明書ハ縷縷數萬言ニ渡ルモ通シテ之ヲ要約スレハ原院カ罪證ニ供シタル醫科大學教授磐瀨某ノ鑑定ハ鑑定書ヲ作成セシメス鑑定事項ヲ訊問シテ其口頭ノ供述ニ依リ鑑定ヲ爲サシメタル不適法ノモノナレハ原判決ハ採證上ノ不法アリト云フノ外本件ノ事實ハ和姦ナリト主張シテ其事實ノ經過ヲ反覆縷述シ不實矛盾若クハ揑造ニシテ信スルニ足ラサル高橋貞碩ノ鑑定書同人及被害者ノ供述ニ據リ强姦傷害ニ問擬シタル原判決ハ不當ナリ假リニ被害者等ノ供述ニ措信シ被告ノ所爲ヲ以テ强姦ナリトスルモ被害者ノ傷害ハ自發的ニシテ被告ノ暴行ニ基因スルモノニ非ス左スレハ單純ナル强姦ニシテ親告罪ナレハ告訴ナキ本件ニ對シテハ宜シク公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキニ原院ノ判決茲ニ出テサリシハ失當ナリト云ヒ被告ノ主張ヲ證スル爲メ現場ノ臨檢ヲ請求スト云フニ在レトモ○鑑定ノ點ニ付キテハ論旨ノ理由ナキコトハ辯護人渡邊澄也上告趣意書第一點ニ對スル說明ニ就キ了解スヘシ其他ニ付キテハ原院ハ强姦成傷ノ事實ヲ認メタルモノナレハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲ササリシハ當然ナリ論旨ハ要スルニ原院ノ認定ト異ナル事實ヲ主張シテ原院ノ職權ニ屬スル事實認定及證據判斷ノ非難ヲ爲スニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由トナラサルノミナラス本院ハ事實裁判所ニ非サルヲ以テ臨檢ヲ請求スルモ採用スルニ由ナシ

辯護人渡邊澄也上告趣意書第一點豫審ニ於ケル鑑定ハ書面ヲ以テ之ヲ爲サシムルヲ要スルコト御院判例（明治四十三年(れ)第二一七八號明治四十三年十一月二十二日宣告）ノ示ス所ナリ而シテ公判ニ於ケル鑑定ノ手續ハ豫審ニ於ケル鑑定ノ手續ト異ナラサルコト刑事訴訟法第百九十條ノ規定ニ照シテ寔ニ明白ナリトス然ルニ原院ニ於ケル鑑定人磐瀨雄一ヲシテ鑑定書ヲ作成セシムルコトナク同人ヲ訊問シテ其口頭ノ供述ニヨリ鑑定ヲ爲サシメタルハ背法ノ措置タルヲ免レス從テ同人ノ口頭ノ鑑定ヲ錄取シタル原院公判始末書ノ記載ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ一方ニ於テ決定ヲ爲シタル鑑定ヲ履行セサルノ不法アリ他方ニ於テハ違法ノ手續ニ依ル鑑定ヲ罪證ニ供シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第百九十條ハ同第百四十條ノ如ク鑑定書ノ作成ヲ要求スル法意ニ非サルヲ以テ公判ニ於ケル鑑定ハ鑑定人ヲシテ口頭ノ供述ニ依リ之ヲ爲サシメ其供述ヲ公判始末書ニ記載スレハ足ル必シモ常ニ豫審ニ於ケル如ク鑑定書ノ作成ヲ要セサルナリ（明治四十三年(れ)第二一七八號事件ノ判決ハ豫審ニ於ケル鑑定ノ場合ノ判例ニシテ公判ニ於ケル鑑定ノ判例ニ非ス）從テ論旨ハ理由ナシ

判旨第二點

第二點鑑定人ニ日當ヲ給與スルハ鑑定人カ裁判所其他ノ場所ニ出頭シタル場合ニ限ルヘキコト刑法施行法第六十三條第二號ノ明定スル所ナリ本件豫審ニ於ケル鑑定人高橋貞碩ノ請求書（記錄一四九丁）ニハ「金三十圓鑑定人日當及手當內譯金五圓也鑑定日當一度分金二十五圓也數多ノ時間及特別ノ技能ヲ要セシ手當」ト記載セラレ此請求金額ノ支給セラレタルコト該請求書末尾ノ附記ニ徵シテ明瞭ナリトス而シテ鑑定人高橋貞碩ノ住所ハ甲府市橘町一番地（私立山梨病院）ニシテ高橋貞碩ノ鑑定ヲ命セ

ラレタル場所モ亦同一ナルコト記錄上疑ナキ所ナリトス之ヲ詳言スレハ高橋貞碩ハ裁判所其他ノ場所ニ出頭シタルニ非ス豫審判事ハ高橋貞碩ノ住所ニシテ被害者田中たゑノ入院セル私立山梨病院ニ出張シテ鑑定ヲ命シタルモノナレハ鑑定人高橋貞碩ニハ日當ヲ支給スヘキモノニ非サルコト勿論ナルニ拘ハラス之ヲ支給シタルハ豫審判事ノ誤解ニ因ルモノニシテ法律上公訴ニ關スル訴訟費用ト云フコトヲ得ス然ルニ前示金五圓ノ負擔ヲ被告ニ命シタル原判決ハ法則ニ背反スル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○證人鑑定人及ヒ通事ニ日當ヲ給與スルハ此等ノ者カ裁判所ノ取調ノ爲メ失ヒタル利益ニ對スル其損害ノ賠償ニ外ナラサルヲ以テ刑法施行法第六十三條ニ所謂出頭トハ裁判所ノミニ限ラス臨檢其他何レノ場所ニテモ裁判所ノ取調ヲ受クルコトヲ云フモノト解スルヲ相當トス訴訟記錄ヲ閲スルニ豫審判事ハ私立山梨病院ニ出張シテ入院中ノ被害者田中たゑニ就キ高橋貞碩ニ鑑定ヲ命シタルモノナレハ該病院ハ同人ノ住所ナルニモセヨ同人ハ鑑定人トシテ裁判所ノ取調ヲ受ケタルモノニシテ即チ前示法條ニ所謂出頭ニ當ルヲ以テ豫審判事カ請求ニ因リ其日當ヲ給與シタルハ不當ニ非ス從テ論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與明治四十四年四月四日大審院第一刑事部

判旨第三點

○公務執行妨害ノ件

明治四十四年(れ)第三八二號
明治四十四年四月四日宣告

○判決要旨

一裁判所カ一旦辯論ヲ終結シタル後證人喚問ノ必要ヲ認メタルトキハ其職權ヲ以テ之ニ關スル決定ヲ爲シ辯論再開ノ決定ト共ニ之ヲ宣告スルコトヲ得而シテ其決定ヲ爲スニハ必スシモ辯論ヲ經ルコトヲ要セス

第一審　千葉地方裁判所　第二審　東京控訴院

被告人　色川佐太郎外一名　辯護人　石山彌平

右公務執行妨害被告事件ニ付明治四十四年二月二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

各被告辯護人石山彌平上告趣意書第一點原審ニ於テハ法律ニ違反セル決定ニ基ク證人ノ證言ヲ援用シ

テ判決セリ即チ第一審裁判所ハ明治四十三年四月二十二日一旦結審シナカラ更ニ同年二十九日辯論再開ヲ爲シ且ツ職權ヲ以テ證人沖森敎永ヲ喚問スルコトヲ決定セリ然ルニ同日ハ辯護人ヲ呼出サスシテ公判ヲ開延シタルハ不當ニ被告人ノ辯護權ヲ制限シタルモノニシテ法律ニ違反セルモノトス然ルニ第一審カ右違法ノ決定ニ基ク證言ヲ援用セルヲ看過シタルノミナラス原審ニ於テ更ニ之ヲ採用シテ被告等ニ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ訴訟手續ノ法規ニ違背セル不法アリト云フニ在レトモ○本件ノ如ク一旦辯論ヲ終結シタル後證人喚問ノ必要ヲ認メタル場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ニ關スル決定ヲ爲シ辯論再開ノ決定ト共ニ之ヲ宣告スルヲ得ヘク其決定ヲ爲スニ付テハ必ス辯論ヲ經ルヲ要スルモノニ非ス第一審公判始末書ニ依レハ第一審裁判所ハ本件ニ付一旦辯論ヲ終結シタル後更ニ沖森敎永ヲ證人トシテ喚問スルノ必要アリト認メ明治四十三年四月二十九日辯論ヲ經ス之ニ關スル決定ヲ爲シ辯論再開ノ決定ト共ニ之ヲ宣告シタルニ止マリ同日辯論ヲ再開シタルノ事跡ノ見ルヘキモノナケレハ辯護人ヲ呼出ササリシトテ被告人ノ辯護權ヲ制限シタルモノト云フヲ得ス故ニ前示證據決定ノ違法タルヘキ謂ハレナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

第二點原審ハ本件ニ對シ公務ノ執行ヲ妨害スル罪トナシ刑法第九十五條第一項第二項ヲ適用シテ處斷セリ然レトモ同條ニ依ルトキハ公務員ハ其當時必ス其公務ヲ執行スル正當ノ權限ヲ有セサルヘカラス換言スレハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘラルル公務員ハ其正當ノ權限ノ執行ヲ爲スニ際シ暴行又ハ脅迫ヲ受ケタルモノナラサル可カラス然ルニ本件ノ公務員タル工手補鈴木彖佐ハ其當時不足ノ砂利ヲ檢査スルノ職權ナキモノナリ即チ記錄第百十三頁ニ同人カ證人トシテ喚問サレタル際ニ「八日ニ命令ナケレハ檢査スル權限カナイコトト思ヒマシタ」ト云ヒ又第五工區主幹技手沖森敎永ノ聽取書ニモ工手補鈴木彖佐ニハ砂利檢査ノ權限ナキ旨ノ記載アリテ鈴木彖佐ハ全ク其當時正當權限ナキモノトス故ニ例令之ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ或ル職務以外ノ行爲ヲ要求スルモ刑法第九十五條ノ所謂公務員ノ職務ノ執行ヲ妨害スト論スルノ不當タルヤ明カナリ然ルニ原審ハ沖森敎永カ明治四十三年四月二十九日ノ違法決定ニ原キ出廷シ前言ト異ナル僞證ヲ爲シ鈴木彖佐ニ權限アルカ如ク陳述セル聽取書ト矛盾ノ供述ヲ採用シテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ啻ニ刑法第九十五條ヲ誤解シテ適用シタルノミナラス裁判ノ理由ヲ附セス採證法ニ背キタル違法アリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨判斷ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由トナラス

第三點原審ハ被告等ニ對シ刑法第九十五條ノ犯罪アリト認メタレトモ當條ヲ適用スルニ方リテハ先ツ被害者ニ於テ職權ヲ有スル公務員タル事實ヲ認定スルヲ要件トス然ルニ原審ハ鈴木彖佐カ直接監督權ヲ有スル文字ヲ使用シタルノミニテ之カ檢査ノ職權アルヲ示サス而シテ證據ニ依レハ千葉縣訓令ニモ亦沖森ノ聽取書鈴木ノ證言ニ於テ鈴木ニハ檢査ノ權限ナキ趣旨明カニシテ反對ノ事實明亮ナルニ拘ハラス此等ノ事實ノ理由ヲ判斷セス漫リニ前記法條ノ罪アリト認メタルハ罪トナルヘキ事實理由ヲ明示

セサル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○鈴木彖佐ハ千葉縣海上郡三川村地先縣道修繕工事ニ付直接監督權アル千葉縣工手補ニシテ同工事ニ關シ砂利檢査ノ職權アルモノナルコトハ原判文上自ラ明ナルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

第四點原審ハ被告佐太郎カ彖佐ノ部下ニシテ現場ニ在リタル千葉縣臨時雇川上啓之助ニ對シ「タタムナラ此野郎カラタタンテ仕舞ヘト暴言シ被告竹次郎モ亦兇器ヲ取出サントスルモノノ如ク懷中ニ手ヲ差入レ共ニ彖佐ヲ脅迫シ檢査ヲ强請シタリ」ト認定シ前段ニハ被告佐太郎竹次郎ハ彖佐ヲシテ强テ檢査ヲ了セシメントシ被告佐太郎ハ激昂セル態度ヲ以テ其雇人義次ト交〻彖佐ヲ罵リタル末義次カ愚圖云フトタタンテ仕舞フト稱シ懷中ニ手ヲ入ルルニ及ヒ云云トアレトモ强テ檢査ヲ了セシメントスル云云ハ本件ニ於テ專ロ脅迫檢査强要ノ事實ナレトモ鈴木彖佐ノ前約ニ基キ其反言ヲ詰責シタル事實ノ有無ハ爭點トナリタルモノニシテ決シテ暴行脅迫ヲ以テ檢査ノ强要ヲ爲セル企畫若クハ事實ハ證據及事實上發見シ得サルニ拘ハラス將又千葉縣臨時雇カ如何ナル職權ヲ有スルヤヲ明カニセス同人ニ對スル佐太郎竹次郎ノ行爲ヲ以テ彖佐ニ對スル脅迫トシ檢査强請ヲ認メタルハ理由不備ノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ○千葉縣臨時雇川上啓之助ハ同縣工手補鈴木彖佐ノ部下トシテ同縣海上郡三川村地先縣道修繕工事ノ現場ニ出張勤務シ居タルモノナルコト原判文上明瞭ナレハ同人カ如何ナル職權ヲ有シタルヤ其事實ノ如キハ之ヲ詳示スルノ要ナシ又原院ハ「被告佐太郎及鈴木彖佐ノ原審公廷ニ於ケル供述證人沖森敎永ノ第一審公判始末書ニ於ケル供述ヲ綜合シテ被告等カ暴行脅迫ヲ以テ檢査ノ强要ヲ爲シタル事實及其企圖アリシコトヲ認定シタルモノニシテ原判決ハ其理由ノ明示ニ缺クル所ナキヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

第五點原判決ハ被告佐太郎ハ激昂セル態度ヲ以テ其雇人大角義次ト交〻彖佐ヲ罵リタル末云云ト記載シタレトモ激昂セル態度トハ如何ナル態樣ナリヤ罵リトハ如何ナル言語ナリヤ之ヲ明示セサレハ具體的事實ヲ擧ケサル不法アリ又タタンテ仕舞フトハ如何ナル意味ナリヤ懷中ニ手ヲ入レ或ハ兇器ヲ取出サントスル云云ノ所謂懷中ニ手ヲ入ルルコトカ何故ニ脅迫ナリヤ兇器トハ何物ナリヤ是等抽象的若クハ意味不分明ノ文字ヲ以テ直ニ脅迫ノ事實ヲ認メタルハ裁判ニ理由ヲ附セサル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ「被告佐太郎ハ激昂セル態度ヲ以テ其雇人大角義次ト交〻彖佐ヲ罵リタル末」トアリテ被告佐太郎カ脅迫ノ手段トシテ彖佐ニ對シ暴言ヲ吐キタルコト判明ナレハ其當時被告カ如何ナル態度ナリシヤ又如何ナル言語ヲ用ヒタルヤ等其詳細ナル事實ハ之ヲ明示スルノ要ナク又原判決ニハ「云云義次カ愚圖々々云フトタタンテ仕舞フト稱シ懷中ニ手ヲ入ルルニ及ヒ被告佐太郎ハ云云臨時雇川上啓之助ニ對シタタムナラ此野郎カラタタンテ仕舞ヘト暴言シ被告竹次郎モ亦兇器ヲ取出サントスルモノノ如ク懷中ニ手ヲ差入レ云云」トアリテタタンテ仕舞フトハ斬テ仕舞フトノ意ヲ示シ懷中ニ手ヲ入レトハ兇器ヲ懷中ヨリ取出サントスル態度ヲ顯ハシ又兇器トハ人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ器

具ヲ云フモノニシテ原判決ノ説明ハ要スルニ被告等カ彖佐ニ對シテ同人等ヲ斬殺セント稱シ兇器ヲ懷中ヨリ取出サントスル態度ヲ示シ以テ彖佐ヲ脅迫シタリトノ趣旨ナルコト判明ナレハ原判決ハ所論ノ如キ不法ノ裁判ニアラサルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與明治四十四年四月四日大審院第一刑事部

○私文書僞造行使公私金横領等ノ件

明治四十四年(れ)第三八九號　明治四十四年四月六日宣告

●判決要旨

一豫審判事カ取調ノ便宜上作成シタル計算表ハ素ト何等ノ證明力ナキモノナレトモ之ヲ被告ニ示シテ其承認ヲ得タルトキハ該表ハ之ニ依リテ有效ノ證據ト爲ルモノトス(判旨第十二點)

一豫審判事カ取調ノ便宜上作成スル計算表ハ法律ノ規定ニ依ル文書ニ非サレハ貼紙ヲ爲シ文字ヲ訂正スルモ無效ニ非ス(判旨第二十點)

第一審　廣島地方裁判所　第二審　廣島控訴院

被告人　長谷裕外二名　辯護人　横山鎮太郎　高木益太郎　花井卓藏　波邊澄也

右被告裕佐市ニ對スル私文書僞造行使公私金横領被告佐太郎ニ對スル私文書僞造行使公金横領被告事件ニ付明治四十三年十二月二十二日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

豫審判事ノ作成シタル計算表ノ證明力○豫審判事作成ノ計算表ノ訂正

被告裕上告趣意書第一點原判決ハ犯罪ノ證據トシテ被告竹村勳ノ豫審調書（第一回乃至第七回）ヲ援用スルニ當リ「……自分等カ費消シタル金額ハ罹災救助金五十七圓二十錢……」ト供述記載アル旨ヲ記載シ恰モ右罹災救助金ハ上告人等カ共謀ノ上横領費消シタル如ク犯罪ノ證據トシテ說明セリ然レトモ同人第三回豫審調書ニハ「明治四十一年度ノ罹災救助金ヲ保管シ置キタルモノ五十七圓二十錢及明治四十年度罹災救助金五十七圓二十錢ヲ藤本佐市カ費消シタル爲メ……」「問藤本佐市ハ何時費消シタルカ」「答何時費消シタルカ知ラス」藤本佐市カ單獨ニ一人ニテ費消シタル旨ヲ供述シタル記載アルモ同人及上告人等カ藤本佐市ト共謀ノ上費消シタル意味ニ於ケル供述即チ前記原判決ニ於テ引用シタルカ如キ調書ノ記載アルコトナシ故ニ原判決ハ虛無ノ證據ヲ斷罪ノ證據ニ供シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ◎記錄ヲ閱スルニ竹村勳第四回豫審調書第二問答ノ部ニ論旨ニ摘示シアル原判決ノ證據說示ト同趣旨ノ供述記載アリ原判決ハ之レヲ採用シタルモノナレハ所論ノ如キ不法ナシ

第二點原判決ハ上告人ハ原審共同被告藤本佐市竹村勳ト共謀シ明治四十年十月二十五日ヨリ同四十二年七月三十日迄ノ間ニ同村（觀音村）公金千四百三十三圓五十七錢九厘ヲ横領シタル旨ヲ判示セリ然レトモ其横領金額中五十七圓二十錢ノ罹災救助金ハ藤本佐市ニ於テ單獨ノ費消ニ係ルモノナルコトハ原判決ノ援用セル同人ノ第二回豫審調書ニ明記スル所ニシテ而カモ原判決ハ其他ニ上告人ノ共謀關係ヲ見ルヘキ犯罪ノ證據ヲ說明セス故ニ原判決ハ犯罪證據ノ明示ヲ缺キタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ◎原判決ハ竹村勳ノ第二回豫審調書第二問答及第四回豫審調書第二問答ノ部ニ記載シアル同人ノ供述ヲ採用シ之ヲ判文列記ノ爾餘ノ證據ト綜合シ所論ノ判示事實ヲ認定シタルモノナレハ證據ノ明示ニ缺クル所ナク論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ上告人ハ右藤本佐市竹村勳ト共謀ノ上藤本佐市ノ保管ニ係ル愛國婦人會年醵金百二十二圓及赤十字社年醵金四圓ヲ明治四十一年二月ヨリ同四十二年十二月迄ノ間ニ横領費消シタル旨ヲ判示セリ然レトモ原判決ノ援用セル藤本佐市ノ豫審調書ニハ同人ノ保管中同人ニ於テ單獨ニ該金員ヲ費消セル旨ヲ明記シアリテ被告人ト共謀ノ上横領シタル旨ヲ記載セサルノミナラス其他原判決ハ上告人ノ共謀關係ヲ見ルヘキ犯罪ノ證據ヲ明示セス故ニ原判決ハ犯罪證據ノ明示ヲ缺キタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ◎原判決ハ竹村勳ノ第四回豫審調書第二問答ノ部ニ記載シアル同人ノ供述ヲ採用シ之ヲ判文所揭ノ爾餘ノ證據ト綜合シ被告裕等カ所論金員ヲ横領シタル事實ヲ判定シタルモノナレハ證據ノ說示ニ缺クル所ナク論旨ハ理由ナシ

同被告辯護人横山鑛太郎上告趣意書第一原判決第二事實ハ上告人ハ被告佐市勳ト共謀ノ上被告佐市ノ保管ニ係ル愛國婦人會年醵金百二十二圓及赤十字社年醵金四圓ヲ明治四十一年二月ヨリ同四十二年十月ノ間ニ飲食其他ニ費消シ之ヲ横領シタリト記載セラル然ルニ刑法第二百五十二條第一項ノ罪ハ占有中ニアル他人ノ物ヲ横領スルニ依リ成立シ同條ノ犯罪ヲ論スルニ當リテハ其費消シタル物カ他人ノ所

有タルコトヲ認定シ證據ニ依リテ之ヲ明示セサルヘカラス原判決ハ右ノ如ク單ニ愛國婦人會ノ年醵金若干及赤十字社ノ年醵金若干ヲ横領シタリト判示セルノミニテ該金ハ何人ヨリ醵出シ乃チ何人ノ爲メニ占有中ナリシヤ不明ニシテ横領罪ノ要件タル事實ノ認定ヲ缺キ理由不備ノ失當アル裁判ナリト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○刑法第二百五十二條第一項ノ横領罪ヲ斷スルニ當リテハ犯人ノ横領シタル物ハ犯人以外ノ者ニ屬シ犯人カ之レヲ占有セシコトヲ判示スルヲ以テ足リ論旨所揭ノ事實ノ如キハ之ヲ判示スルノ要ナシ而シテ原判決ニ被告裕ハ被告佐市勳ト共謀ノ上被告佐市ノ保管ニ係ル愛國婦人會年醵金百二十二圓及赤十字社年醵金四圓ヲ費消横領シタル旨ヲ判示シアル以上ハ該金員ハ犯人ノ占有ニ係ル他人ノ物ナルコト洵ニ明ナレハ原判決ハ該犯罪事實ノ判示ニ缺クル所ナク論旨ハ理由ナシ

第二原判決ハ第二事實ノ第三項ニ於テ上告人ニ對スル公金横領並ニ文書僞造行使ノ犯行ヲ認定セラルル而シテ文書僞造ト其行使トノ點ニ付「前畧其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ明治四十年十二月二十八日ヨリ同四十二年七月三十日迄ノ間ニ同村役場ニ於テ擅ニ左記人人ノ署名ヲ使用シ尙左記本人ノ印ヲ使用シテ觀音村收入役ニ宛テタル左記ノ領收證書ヲ僞造シ各其日附ノ當日同村役場ニ備附ケテ行使シタリ」ト判示シアリテ乃チ各領收證書ハ明治四十年十二月二十八日以降同四十二年七月三十日迄ノ間ニ各之ヲ僞造シ而シテ此各僞造領收證書ハ其證書面日附ノ當日ニ役場ニ備附ケテ行使ヲ遂ケタリトセラル然ルニ其領收證書ヲ表ニ編製シテ揭出セラレアル部ヲ見ルニ森岡七兵衛名義金額五圓三十錢ノ領收證書ノ日附ハ明治四十年十月二十五日ニシテ又增田清藏名義金額九十錢ノ領收證書ノ日附モ同ク明治四十年十月二十五日ナリ依テ右二通ノ領收證書ノ僞造及其行使ヲ前記原判決ノ認定ニ對應セシムルトキハ該證書ハ明治四十年十二月二十八日以後即チ其證書ノ日附以後ニ各僞造セラレ此僞造領收證書ハ其證書面日附ノ當日即チ明治四十年十月二十五日ニ各役場ニ備付ケテ行使シタルコトトナル左スレハ證書ノ僞造以前ニ既ニ其證書ノ行使ヲ爲シタリト云フ奇怪ナル現象タルニ歸シ右二通ノ僞造領收證書ノ行使ニ關スル判示頗ル違法ナリト云ハサルヘカラス本件六十有餘通ノ各領收證書ノ僞造及其行使ハ各連續犯ナリトセルモノナルヲ以テ其各僞造領收證書ノ行使ニ付テハ一一正確ニ之ヲ判示スルコトヲ要シ單ニ二箇ノ領收證書ニ關スルモノトハ云ヘ其行使ノ事實認定ニ付右ノ如ク違法アル以上ハ原判決ハ破毀セラルヘキ失當アリトナササルヘカラスト云フニ在リ○因テ原判決ヲ閲スルニ其判文ニ記載シアル所ハ洵ニ所論ノ如シ然レトモ論旨摘示ノ部前段ニ「被告裕ハ云云被告佐市ハ云云被告勳ハ云云三名共謀シテ明治四十年十月二十五日ヨリ同四十二年七月三十日迄ノ間ニ於テ同村收入役ノ保管ニ係ル觀音村公金千四百三十三圓三十七錢九厘ヲ云云擅ニ飲食其他ノ費用ニ費消シ」ト判示シアルノミナラス所論森岡七兵衛增田清藏ノ各領收證書ノ日附ハ何レモ明治四十年十月二十五日ナル旨ヲ判示シアリ且證據說明ノ部ニ乙第四號證ノ五（所論森岡七兵衛ノ領收證書）及乙第十二號證ノ四（所論增田清藏ノ領收證

書）ニ明治四十年十月二十五日金員ヲ受領セル旨ノ記載アリト說示シアルニ依レハ判文ニ「其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ明治四十年十二月二十八日ヨリ同四十二年七月三十日迄ノ間ニ云云」トアル「明治四十年十二月二十八日」ハ「明治四十年十月二十五日」ノ誤記ナルコト洵ニ明ナレハ原判決ハ所論ノ如キ理由齟齬ノ不法アルコトナシ

第三原判決ハ本件各横領行爲及各文書僞造竝ニ其行使罪ハ孰レモ各連續セル一罪ナリト認定處斷シナカラ刑法第五十五條ノ適用ヲ爲サヽリシハ擬律錯誤ノ失當アリト云フニ在レトモ○連續犯ヲ處斷スルニ當リテハ刑法第五十五條ノ規定ニ準據スルコトヲ要スルモ必シモ之ヲ判文ニ揭記スルヲ要セサルコトハ當院判例ノ夙ニ判示スル所ナリ原判決ハ被告裕ノ第一ノ横領文書僞造及其行使ノ各所爲竝ニ第二ノ横領ノ所爲ハ各連續セル旨ヲ判示シ刑法第五十五條ニ依リ各一罪トシテ處斷セルカ故ニ特ニ該法條ヲ判文ニ揭ケサルモ不法ニアラス

第四原判決第一事實中上告人ニ關スル部分ノ僞造領收書表中ノ島谷義郎名義明治四十一年三月三十一日附金額四圓七十錢乙第二十二號ノ二トアル領收證書ノ印章ハ有合印ナリト認定シアルモ之ニ對スル唯一ノ證據理由タル原判決擧示ノ證人「島谷フユ」ノ豫審調書ニ依ルトキハ「島谷義郎ノ觀音村役場ニ對スル賣品ノコトハ私カ一切爲シ居レリ乙第二十二號證ノ一及ヒ二ハ金ヲ受取リタルモノニアラス役場ノ使來リ計算ノ都合上領收證ヲ記シ呉レト云ヒ白紙ノ領收用紙ヲ出シタルヲ以テ私ハ其用紙ニ記名捺印シ渡シタル旨ノ供述記載アリ」トアリテ即チ右乙第二十二號證ノ二ノ印章ハ島谷義郎ノ印章ヲ押捺シタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ右領收證書ハ本人ノ印章ヲ不正ニ使用シテ僞造シタルコトトナル然ラハ原判決ハ前記ノ如ク島谷義郎ノ署名ノミヲ用ヒテ僞造シタルモノナリト認定セルハ其認定ト證據理由ト相副ハスシテ理由齟齬ノ失當アリト云ヒ」第五同上領收證書表中川崎善助名義明治四十二年月日記入ナキ金額十六圓四十五錢乙第三四號ノ九トアル領收證書ノ印章ハ有合印ナリト認定セラレタルモ原判決ニ擧示セラルル之レニ對スル唯一ノ證據理由タル同人ノ豫審調書ニ依ルニ「證人川崎善助ノ豫審調書ニ乙第二十六號（二十四號ノ誤記ト認ム）ノ二及三ハ全ク覺ナク名下ノ印モ私ノ印ニアラス同號證ノ六、八、九ハ私ノ實印押シナルモ覺エナキ旨ノ供述記載アリ」トアリテ乃チ右第二十四號證ノ九ナル領收證書ノ印ハ同人ノ實印ナリト云フニアルヲ以テ其署名ヲ僞造シ且印章ヲ不正ニ使用シテ領收證書ヲ僞造シタル筋合タルニ歸スヘシ然ルニ原判決ハ右ノ如ク單ニ川崎善助ノ署名ノミヲ使用シテ僞造シタリト認定セルハ其認定ト證據理由一致セスシテ所謂理由ノ齟齬アル失當ノ裁判ナリトスト云フニ在レトモ○所論領收證書ノ印章カ有合印ナリトノコトハ文書僞造罪ノ構成ニ關係ナキ事實ニシテ之カ證據ヲ說示スルノ要ナケレハ原審ハ判文所揭ノ證據ニ依リテ之ヲ認メタルモノニアラス故ニ論旨ハ理由ナシ

同被告辯護人高木益太郎上告趣意書第一點原院判決ハ被告佐市ノ豫審調書ヲ援用シ同豫審調書ニ（前

署)學校基本財產ナル有價證券額面五百圓一枚百圓券一枚ヲ明治三十九年中役場金庫中ニ保管シ置キタルニ盜難ニ罹リ云云ノ記載アリト摘示セラレタルモ同豫審調書ニハ百圓券二枚トアリテ一枚ナルコトノ見ルヘキナシ左レハ原院ハ虛無ノ證據ニ依リテ犯罪事實ヲ認定シタル違法アリトスト云ヒ」第二點原院判決ハ被告佐市ノ豫審調書ヲ援用シ同調書ニ(前署)村長長裕ト肥料立替金ノ計算ヲ爲シタル際佐太郎ノ辨償金六百十八圓八十錢ト相殺シタルカ云云ノ記載アリト摘示セラレタルモ同豫審調書ニハ辨償金六百八十一圓八十錢トアルモ六百十八圓八十錢ノ記載アルコトナシサレハ原院ハ虛無ノ證據ニヨリテ事實ヲ認定シタル違法アリトスト云フニ在レトモ○判文ニ「百圓券一枚」トアル「一枚」ハ「二枚」ノ誤記又判文ニ「金六百十八圓八十錢」トアルハ「金六百八十一圓八十錢」ノ誤記ナルコト所論各調書ニ對照シ洵ニ明ナレハ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ

第三點原院判決ハ被告佐市ノ豫審調書ヲ援用シ同調書ニ(前署)公金ヲ費消セシ爲メ役場內ニ於テ甲第一、三、四號乙第一號乃至二十八號證ノ領收證ヲ役場員ノ全部又ハ一部ノ者ト相談ノ上僞造セリ云云ノ記載アリト摘示シタルモ果シテ被告佐市ハ役場員ノ全部ト僞造ニ付キ相談セリヤ否ヤヲ同證書ニ就キ查閱スルモ役場員全部相談ノ事實ノ見ルヘキナシサレハ原院ハ虛無ノ證據ニヨリテ事實ヲ認定シタル違法アリトスト云フニ在レトモ○被告佐市第二回豫審調書(記錄三一三丁及三一四丁)ニ論旨ニ摘示シアル原判決ノ說示ト同趣旨ノ同人供述ヲ錄取シアリ原判決ハ之ヲ引用シタルモノナレハ論旨ハ謂ハレナシ

第四點原院判決ハ參考人原田樹樓ノ豫審調書ヲ援用シ同調書ニ明治四十一年三月及四十二年三月中役場員ノ全部及村會議員十二名カ自分方ニテ飲食シ(中署)自分方ニハ座敷ヲ貸シ其都度五十錢米若干宛ヲ賃受ケタル旨ノ供述記載アリト摘示セラレタルモ同豫審調書ニハ米代若干ヲ賃受ケトアリテ米若干ヲ賃受ケタルコトノ記載アルコトナシサレハ原院判決ハ虛無ノ證據ニヨリテ事實ヲ認定シタル違法アリトスト云フニ在レトモ○判文ニ「米若干」トアルハ「米代若干」ノ誤記ナルコト所論調書ニ對照シ洵ニ明ナレハ論旨ハ理由ナシ

第五點原院判決ハ證人平井瀨助ノ豫審調書ヲ援用シ同調書ニ乙第三號證ノ一及二ハ覺エナシト(ト)ノ字誤記ナラン)印モ私ノモノニアラス云云供述記載アリト摘示シタルモ同豫審調書ニハ乙第三號證ノ二ヲ示シ供述ヲ爲サシメタル記載アルコトナシサレハ原判決ハ虛無ノ證據ニヨリテ事實ヲ認定シタル違法アリトスト云フニ在レトモ○證人平本瀨助(論旨ニ平井トアルハ平本ノ誤記ト認ム)豫審調書ニ「此時乙第三號證ノ一、二ヲ示ス答更ニ覺ナシ云云」ト記載シアルヲ以テ豫審判事カ該證人ニ乙第三號證ノ二ヲ示シ供述ヲ爲サシメタルコト洵ニ明ナレハ論旨ハ謂ハレナシ

第六點原院判決ハ其事實認定ノ證據トシテ廣島地方裁判所豫審判事ノ作成ニ係ル第十一號表ヲ援用シ同表中消費金額總計表ト題スル部ニ左ノ記載アリ(中署)右ノ內一金百七圓六十三錢九厘僞造領收證中

正當支拂、一金千二十七圓三十四錢一厘村税ニテ正當支拂、一金四十八圓四錢九厘正當支拂、(中略)差引金千六百十九圓八十二錢一厘公金費消總計、云云ト摘示セラレタルモ該表ハ豫審判事カ違法ナル證據關ニヨリテ心證ヲ構成シ作成シタルモノナレハ採リテ斷罪ノ資料ニ供シ得ヘキモノニアラス左ニ逐一違法ノ點ヲ擧示スヘシ(一)明治四十二年十月六日檢事ハ長裕、藤本佐市ニ對スル公私文書僞造行使公金横領被告事件ニ付キ起訴ヲ爲シタルニ同年十月九日豫審判事ハ右事件ノ證人トシテ畠山元吉今本來次梅田八十六笠井唯一田原金藏川崎善助ヲ訊問シ同日檢事ハ竹村勳前田八重吉同同幸一ニ對シ長裕藤本佐市ノ共犯ナリトシテ起訴シタリサレハ爾後右證人等ヲ訊問スル必要アルトキハ更ニ刑事訴訟法第百二十三條ノ關係ヲ訊問シ其有無ヲ確メサルヘカラサルニ同月二十三日畠山元吉ヲ同年十一月四日今本來次ヲ同月六日梅田八十六笠井唯一田原金藏川崎善助ヲ證人トシテ訊問スルニ當リ刑事訴訟法第百二十三條ノ關係ノ有無ヲ確メス直チニ證人トシテ供述ヲ爲サシメタルニ拘ハラス之レニヨリテ第十一號表ヲ作成シタリ或ハ曰ハン右第十一號表ハ證人ノ供述ニ信ヲ措キタルノ形跡アルコトナシト然レトモ右證人等ノ訊問關審ヲ查閱スルニ十月二十三日ノ畠山元吉ノ訊問調書ニ乙第二一號證ノ二三ヲ示シ木炭其他役場ノ必要品代金ト飲食物トノ區別ヲ申立テシメ十二月四日ノ今本來次訊問調書ニ甲第四〇號證ノ一ヲ示シ學校建築人夫賃金額ヲ供述セシメ同月六日ノ梅田八十六訊問調書ニ乙第八號證ノ二並ニ乙第十八號證ノ三ヲ示シテ作物ノ損害金並ニ埋立土代ヲ明カニシ同日ノ笠井唯一訊問調書ニ小學校建築請負費ヲ供述セシメ同日ノ田原金藏訊問調書ニ菓子代及ヒ人夫賃ヲ供述セシメ同日ノ川崎善助訊問調書ニ甲第四十八號證ノ(ロ)ノ二十七ヲ示シテ學校敷地賣渡代ヲ明ニシ而シテ之等ハ正當支出トシテ一號表乃至十號表中ニ掲ケラル更ニ第十一號表ニ援用セラレ正當支出差引金千六百餘圓公金費消總計トナリテ表示セラレタリ之ニヨリテ見レハ豫審判事ハ右違法ノ證據ニヨリテ心證ヲ構成シ第十一號表ヲ作成スルニ至レルコト明ナリ然ルニ斯ル違法ノ證據ニヨリテ成レル第十一號表ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ亦從テ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リ○因テ記錄ヲ案スルニ所論第十一號表ハ豫審判事カ取調ノ便宜上作成シタルモノニ過キサレハ素何等證明力ナキモノナレトモ同判事カ之ヲ被告佐市及被告勳ニ示シ同人等カ之ヲ承認シタルコト明ナレハ(被告佐市第四回豫審調書第四問答ノ部及被告勳第五回豫審調書第四問答ノ部參照)該表ハ之ニ依リテ有效ノ證據トナリタルモノナリ故ニ該表ノ效力ヲ論スルニ當リテハ其資料トナリタル證人供述ノ效力如何ヲ問フノ要ナキモノトス然レハ原審ハ之ヲ斷罪ノ證據ニ採用シタルハ正當ニシテ不法ニアラス

第七點原判決ハ被告長裕等ハ有合印ヲ使用シ明治四十二年二月三十一日附小松貞吉名義觀音村收入役竹村勳宛佐方壽常小學校修繕費三十三圓四十三錢ノ受取證(乙第十三號證ノ二)ヲ僞造セリト判示セラレタリ然リト雖モ今證據説明ノ部ヲ見ルニ證人小松順造ノ供述トシテ「貞吉ハ私ノ父ナリ乙第十三號證ノ二ハ佐方壽常小學校ノ修繕ヲ爲シ其賃金三十三圓二十三錢ヲ受取リタル節ノ受取證ナルモ同證

判官第十二點

ニハ三十三圓四十錢トアリ父ノ記載シタルモノニアラサル故分ラサル旨記載アリ」トセラレタリ之ニヨリテ見レハ同證書ハ單ニ貞吉ノ自筆ニアラサルコトハ明ナルモ直チニ以テ被告等カ僞造シタルモノナリト云フヲ得スシテ却テ三十三圓二十三錢ヲ受取リタルトキ貞吉カ差出シタルモノニシテ正當ナル受領證ナルヲ知ルヘシ假リニ之レヲ僞造シタルモノトスルモ有合印ヲ押捺シタルヤ否ヤハ全ク不明ナリ要スルニ原判決ハ證據ニヨラスシテ事實ヲ認定シタルノ違法アルモノト信スト云フニ在レトモ○論旨前段ハ原審ノ職權ニ屬スル證據判斷事實認定ノ批難ニ過キサレハ上告ノ理由トナラス又所論領收證書ニ有合印ヲ使用シタリトノコトハ文書僞造罪ノ構成ニ關係ナキ事實ニシテ證據ニ依リテ之レヲ認定シタル所以ヲ說示スルノ要ナケレハ論旨後段モ亦理由ナシ

第八點原判決ハ有合印ヲ使用シテ明治四十一年三月三十一日附島谷義郎名義觀音村收入役竹村勳宛半紙代金四圓七十錢ノ受取證（乙第二二號證ノ二）ヲ僞造セリト判示セラレタリ然レトモ此點ニ關スル證據說明ノ部ヲ見ルニ證人島谷フユノ豫審調書ニ「島谷義郎ノ觀音村役場ニ對スル賣品ノ事ハ一切私カナシ居レリ乙第二二號證ノ一及二ハ金ヲ受取リタルモノニ非ス役場ノ使來リ計算ノ都合上領收證ヲ記シ呉レト云ヒ白紙ノ領收用紙ヲ出シタルヲ以テ私ハ其用紙ニ記名捺印シ渡シタル旨ノ供述トアルノミ之レニ仍リテ之レヲ見レハ被告等ハ有合印ヲ用ヒタルニアラサルハ明ナリト云フヘシ然ラハ原判決ハ同上ノ違法アリト云ハサルヘカラスト云ヒ」第九點原判決ハ被告等カ有合印ヲ用ヒテ明治四十二年（月日ナシ）附川崎善助名義收入役宛金十六圓四十五錢ノ受取證（乙第二十四號ノ九）ヲ僞造シタリト判示セラレタリト雖モ此點ニ關スル證據ヲ見ルニ川崎善助豫審調書ニ「（前署）同號證二十六號（二十四號ノ誤記ト認ム）ノ六、八、九ハ私ノ實印押シアルモ覺ナキ旨」トアルノミ然ラハ有合印ヲ用ヒタルニ非スシテ本人ノ印ヲ用ヒタルコトハ明ナリト云フヘシ果シテ然ラハ原判決ハ前同樣ノ違法アリト云ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○其理由ナキコトハ同被告辯護人横山鑛太郎上告趣意書第四及第五ニ對スル說明ニ依リ了解スヘシ

被告佐市佐太郎辯護人法學博士花井卓藏辯護人渡邊澄也上告趣意書第一點原判決ハ被告勳カ原院公廷ニ於テ「自分ハ（中署）四十年四月以來村ノ公金ヲ費消シ云云」ノ旨供述セリトナシ之ヲ斷罪ノ證據ニ採用シタリ依テ原審公判始末書ヲ閲スルニ同人ノ供述トシテ「私カ收入役トシテ實際ノ事務ヲ取扱ヒ始メシハ明治四十二年四月一日ヨリ同年七月三十日迄ノ間ニ於テ村公金ヲ飲食費等ニ費セリ云云」ノ旨錄取セラレ四十年以來村ノ公金ヲ費消シタル旨ノ供述記載アルコトナシ從テ原判決ハ四十年四月ヨリ四十二年四月ニ至ル迄ノ犯罪事實ニ關シ虛無ノ證據ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○判文ニ「明治四十年四月以來云云」トアル「明治四十年」ハ「明治四十二年」ノ誤記ナルコト所論公判始末書ニ對照シ明ナレハ原判決ハ所論ノ如キ不法ナシ

第二點原判決ハ證人增田清藏豫審調書ニ「乙第十二號證ノ一乃至五、七、八中五ノ分ハ名下ニ私ノ印

押シタリ（中略）其他ノ分ハ甥ナク名下ノ印モ私ノモノニアラザル」旨換言スレハ乙第十二號證中五ノ名下ノ印ハ同人ノ印章ナルモ其餘ハ全部知ラザルモノナリトシテ之ヲ證據ニ採用シタリ依テ同調書ヲ閲スルニ乙第十二號證ノ五ト六、八ハ私ノ印ニ相違ナク從テ同證ハ覺アル旨換言スレハ乙第十二號證中五ハ勿論六、八モ亦之ヲ承知スル旨ノ供述記載アリ從テ原判決ハ爰點ニ於テ虚無ノ證據ヲ採テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○增田清藏ノ豫審調書ヲ閲スルニ「答乙第一二號證ノ五ト六ハ私ノ印ニ相違ナキモ其他ハ私ノ印ヲアリマセシ更ニ覺ナキモノナリ」トアリ（論旨ハ該調書ニ「六、八」トアルハ「六、八」ナリト云フモ該調書中右記載ノ次ニ「間然ラハ乙第一二號證ノ五ト六ハ覺ナラン」トアルニ依レハ右「六、八」ハ「六ハ」ノ意味ニシテ「六及八」ノ意味ニアラサルコト疑ナシ）而シテ同調書ニ「同號ノ六ニ對シテハ全部受取リタリ」トアリテ原判決モ同號ノ六ニ付テハ横領又ハ文書僞造ノ罪アルコトヲ認定セサルヲ以テ原判決ノ證據說示ニ所論ノ如ク「六」ノ字ヲ遺脱シアルモ之レカ爲メニ被告ノ罪責ニ何等ノ影響ヲモ及ホスコトナケレハ論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ小松順造豫審調書中「乙第十三號證ノ一一ハ佐方尋常小學校ノ修繕ヲナシ其賃金三十三圓四十錢トアリ云云」ノ供述記載アリトナシ之ヲ證據理由ニ採用シタリ然ルニ同調書ヲ閲スルニ豫審判事ハ同人ニ對シテ乙第十三號證ノ一一ナルモノヲ示シタルコトナク從テ同人カ同證ニ關シ斯ノ如キ供述ヲナシタル事跡ノ見ルヘキモノナシ乃原判決ハ爰點ニ於テ虚無ノ證據ヲ採テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アルモノト信スト云フニ在リ○因テ證人小松順造（論旨ニ順藏トアルハ誤記ト認ム）ノ豫審調書ヲ閲スルニ「此時乙第一三號證ノ一、二ヲ示ス答（前略）乙第一三號ノ二ハ昨年中佐方尋常小學校修繕ヲ爲シ其賃金三十三圓二十三錢ヲ受取リタルモノナリ」トアリ原判決ハ此供述ヲ引用シタルモノニシテ判文ニ「一一」トアルハ「二」ノ誤記ナルコト洵ニ明ナレハ原判決ハ論旨ノ如キ不法ナシ第四點原判決ハ押收物件中甲第一號證甲第三號證甲第四號證ナルモノ存在セサ（サ）ノ一字誤記ナラン）リトナシ之ヲ採テ證據說明ノ用ニ供シタリ然レトモ一件記錄ニ就テ押收品目錄ヲ閲スルニ甲第一號證第三號證甲第四號證ナルモノ絶テ存スルコトナシ從テ原判決ハ爰點ニ於テ虚無ノ證據ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決ニ甲第一號證トアルハ證據物件目錄（記錄五丁）ニ掲ケアル一號ノ金十七圓八十五錢ノ領收證ヲ謂ヒ甲第三號トアルハ同目錄（記錄二一丁）ニ掲ケアル三號ノ金十六圓ノ領收證ヲ謂ヒ甲第四號證トアルハ該目錄（同丁）ニ掲ケアル四號ノ金四圓四十三錢ノ領收證ヲ謂フコト各證據ノ番號金額カ兩兩互ニ相符合スルニ依リテ洵ニ明ナリ故ニ原判決ハ論旨ノ如キ不法ナシ

第五點原判決ハ被告佐太郎同佐市共謀ノ上田原金藏名義（乙第一九號證ノ一）明治三十八年十一月三十日附金額十五錢ノ領收證ヲ僞造シタル事實ヲ認定スレトモ其證據理由ニ依レハ該僞造領收證ノ日附

ハ明治三十八年十一月一日ナリト說明セリ即チ原判決ハ爰點ニ於テ理由齟齬ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○判文事實判示ノ部ニ「明治三十八年十一月三十日」トアルハ「明治三十八年十一月一日」ノ誤記ナルコト判文上明ナレハ論旨ハ理由ナシ

第六點原判決ハ豫審判事勝沼保一郎作成ノ第十一號表（記錄七九六丁）中「金四十九圓三十二錢代納金差引金千六百十九圓八十二錢一厘公金費消總計」ノ記載アリト說明シテ之ヲ斷罪ノ證據ニ採用セリ依テ右第十一號表ナルモノヲ閲スルニ二箇所共ニ貼紙ヲ爲シテ右ノ記載ヲ爲シ貼紙ノ下前者ニハ五十圓三十四錢ト記載シ後者ニハ千六百十八圓八十錢一厘ト記載セルコト明白ナリトス而シテ刑事訴訟法第二十一條第一項ハ官吏公吏ノ書類作成ニハ改竄ヲ禁シ若シ挿入削除及欄下ノ記入アルトキハ字體ヲ存シテ之ニ認印スヘキ旨ヲ規定スルモ貼紙ヲ爲シテ挿入削除ニ代ユルハ其認メサル所ナレハ該貼紙竝ニ其記載ハ何等ノ效力ヲ生セサルヲ以テ貼紙ノ下ニ記載セラレタル金額ハ該文書ノ記載トシテ適正ノ效力ヲ保有スヘキモノトス果シテ然レハ該表ノ記載ト原判決援用ノ記載トハ其金額ヲ異ニスルヲ以テ原判決ハ被告等ノ費消シタル金額ニ付キ虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アルモノト信スト云フニ在リ○因テ按スルニ所論第十一號表ナルモノハ豫審判事カ取調ノ便宜上作成シタル計算表ニシテ法律ノ規定ニ依リテ作成シタル文書ニアラス故ニ刑事訴訟法第二十一條ノ規定ニ依ラス貼紙ヲ爲シテ文字ヲ訂正スルモ訂正ノ效ナキモノニアラス論旨ハ理由ナシ

第七點相被告竝ニ其辯護人ヨリ提出シタル上告趣意書ハ總テ之ヲ援用スト云フニ在レトモ○其理由ナキコトハ相被告竝ニ其辯護人ノ論旨ニ對スル說明ニ依リテ了解スヘシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事中川一介干與明治四十四年四月六日大審院第二刑事部

○詐欺恐喝竝詐欺ノ件

明治四十四年(れ)第四二二號
明治四十四年四月七日宣告

○判決要旨

一第一審裁判所カ未決勾留ノ日數ヲ誤算シタル場合ト雖モ其現ニ本刑ニ算入シテ宣告シタル日數中ヨリ誤算ニ係ルモノヲ控除シ其殘餘ノミヲ算入シタル第二審判決ハ刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告ノ不利益ト爲シタルモノニ外ナラス

（參照）被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス（刑事訴訟法第二百六十五條第一項）

刑事訴訟法第二百六十五條ノ適用

第一審　福岡地方裁判所久留米支部　第二審　長崎控訴院

被告人　酒井外吉　外二名

右末丸ニ對スル詐欺恐喝末吉外吉ニ對スル詐欺被告事件ニ付明治四十四年二月三日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ハ上告ヲ爲シタリ依テ判決スル左ノ如シ

被告外吉ニ關スル原判決ヲ破毀シ被告ヲ重禁錮七月ニ處ス

但未決勾留日數一百日ヲ算入ス

公訴裁判費用中金九圓四十四錢ハ被告外吉ニ於テ原審ノ相被告末丸末吉及第一審ノ共同被告森龜太郎ト共ニ金六圓二十三錢ハ被告ニ於テ同龜太郎ト共ニ連帶負擔ス可ク領置並ニ押收物件ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ各差出人ニ還付ス

被告末吉並ニ末丸ノ上告ハ何レモ之ヲ棄却ス

理由

被告末吉上告趣意書上告人ハ其肩書ニモアルカ如ク宿屋營業ノモノナレハ朝夕旅人ノ出入モ繁ク其ノ内ニハ賣買人モ工業人モアリ其他種種ナル投宿者アルハ是レ商業上ノ通例ナリ故ニ明治四十二年一月中第一審相被告森龜太郎同亡栗山辰五郎控訴審ノ共同被告末丸及ヒ小川幸平等カ上告人方ニ來リ種種談話ノ末金圓借用ノ必要アルヨリ小川幸平カ出金スル筈ナルモ當時持合ナキヨリ幸ヒ上告人カ同町内梅野茂三郎方ニハ遊金アルコトヲ推知シ上告人ニ借入レ方ノ相談ヲ受ケ之カ調金方周旋シタル迄ノコトナレハ他被告人等ト共謀詐欺ヲ爲シタルモノニ非サルナリ假リニ歩ヲ讓リ共謀ノ事實アリト認定セラルル時ハ其金員分配ノ事實ナカルヘカラス然ルニ一件記錄中他被告等ト共謀シテ詐取シタル金員ヲ分配シタルカ如キ記載ナキハ共謀詐欺ノ事實ナキ證憑ナリトス宿屋營業ノ如キハ客人待遇上ノ術トシテハ上告人カ本件ニ關シ口入レ且ツハ金借ノ周旋ヲ爲スカ如キハ普通ノ狀態ナリトス夫レ如上ノ事實ナルニ拘ラス之ヲ明瞭査覈セラレス各被告等ト共謀詐欺ヲ爲シタルモノナリトノ原院判決ハ違法タルヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ○右ハ原審ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ上告適法ノ理由トナラス

被告外吉上告趣意書第一點上告人ノ犯罪行爲カ假リニ原院ノ認メラレタル如キ事實アリトスルモ第一審判決主文ヲ取消サレ更ニ控訴審ニ於テ上告人ノ控訴ノミニ係ル控訴ニ付加重ノ刑ヲ加ヘラレタルハ違法ナリト信ス刑事訴訟法第二百六十五條ヲ按スルニ「被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスコトヲ許サス」「被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキ亦同シ」トアリ去レハ本件ノ如ク上告人ノ控訴ノミナル場合ニハ假令ヒ原審判決ニ如何ナル誤判アリトスルモ被告人ノ爲メ不利益ノ變更ヲ許ササルハ該法文ニ於テ明カナリトス然ルニ原院ニ於テモ上告人ニ對シ不利益ニ變更スルコトヲ許ササルコトヲ認メナカラ良シ未決勾留カ實際

七十六日ナルニ拘ハラス第一審カ未決勾留百日ナリト認定シタルヲ七十六日ナリト判定セラレタルニ於テハ明ニ上告人ニ對シ二十四日ノ不利益ノ刑ヲ與ヘラレタル違法アリト云ヒ」第二點若シ夫レ第一審カ未決勾留ノ算入ヲ許ササル犯行ニ付未決勾留ヲ算入シタル判決ハ違法ナリト認定セラルルナレハ其全部ヲ取消ササル可ラサルニ單ニ二十四日ヲ控除シテ原判決ヲ變更サレタリト雖モ刑事訴訟法第二百六十五條ニハ違反スルモノトス去レハ錯誤ナキ上告人ニ對シ二十四日ノ重刑ヲ加ヘラレタルハ刑事訴訟法第二百六十五條ヲ無視セシ違法ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ○仍テ按スルニ刑事訴訟法第二百六十五條規定ノ趣旨ハ右條文掲記ノ場合ニ於テハ控訴審ハ第一審判決ノ主文ヲ被告人ノ不利益ニ變更スルコトヲ許サスト云フニ在レハ本案ノ如ク第一審ノ判決カ顯著ナル誤算ニ出テタル場合ニ在リテ亦原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更スルコトヲ得サルモノトス左レハ縱シ判示ノ如ク第一審カ本刑ニ算入シタル未決勾留日數中二十四日ハ事實被告ニ於テ勾留セラレタルコトナキモノトスルモ第一審カ現ニ算入シテ宣告シタル一百日中ヨリ右日數ヲ控除シ單ニ七十六日ノミヲ算入シタル原判決ハ所揭條文ノ規定ニ違背シ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノニシテ此點ニ關スル本論旨ハ理由アリ原判決ハ全部破毀ヲ免レサルモノトス（中略）被告末丸上告趣意書第一點凡ソ事實ノ認定證據ノ取捨ハ裁判官ノ特權ナレハ敢テ之ヲ非難スルヲ得ス」ト雖モ其事實又ハ證據ヲ不當ニ認定セラルル時ハ違法ノ裁判タルヲ免レサルモノトス原院ニ於テ第二ノ所爲ニ對シ「被告末丸末吉ハ原審共同被告森龜太郎亡栗山辰五郎ト共謀シ」云云ト說示セラレタルモ上告人カ前示數名ノモノト共謀シタリトノ事ハ一件記錄中各人ノ申立ニ於テ見ルヘキ點アルコトナシ龜太郎辰五郎等カ上告人ノ名義ヲ利用シ幸平ヲ欺キタルノ事實ハ之ヲ認メ得ヘシト雖モ上告人カ共謀シタリトノ事實ハ之ヲ認メ得サルノミナラス其幸平ヨリ交付ヲ受ケタル金員ヲ上告人カ分配ヲ受ケタリトノ點モ之ナキナリ要スルニ龜太郎辰五郎等ハ上告人ノ名ヲ藉リテ以テ犯罪行爲ヲ爲シタルモノニシテ毫モ上告人ハ關係セサルモノナリ然ルニ原院ニ於テ共謀詐欺ト認定セラレタルハ違法ナリト信スト云ヒ」第二點第三點ノ事實ニ於テモ「原審共同被告森龜太郎亡栗山辰五郎ト共謀シ」云云トアルモ是レ亦龜太郎亡栗山辰五郎等ノ巧智ニ因ル行爲ニシテ上告人カ他被告等ヨリモ文筆アリテ上告人ノ名ヲ出スニ於テハ幸平カ大ニ信用スルトノ手段ニ出テタルモノナリ若シ夫レ上告人カ主タル犯者ナリトセハ龜太郎ノ如キハ進ンテ控訴ヲモ爲スヘキニ第一審判決ニ服從シタル點ヨリ考察スルモ上告人ニ共謀詐欺ナキコトヲ證スルニ足ル要スルニ第二第三ノ所爲ヲシテ上告人カ共謀者ナリトノ認定ハ不法ナリト信スト云ヒ」第三點第四ノ所爲ニ對シ猶「原審共同被告森龜太郎亡栗山辰五郎ト共謀シ」云云トアルモ上告人ハ龜太郎辰五郎等ト共謀シタルニアラス幸平カ上告人ノ內緣ノ妻「モト」ト姦通シタリトノコト世間ニ風評アリ憤懣ニ堪ヘス告訴セントノ決心ナリシニ龜太郎辰五郎等之ヲ聞キ只管私和セント幸平ノ爲メニ斡旋シ止ムナク告訴ヲ見合セ泣テ其懇請ヲ容レタル爲メ謝罪トシテ百圓ノ金圓ヲ

幸平ヨリ其仲人タリシ龜太郎等ニ交付シタルモノナレハ名譽上百圓ニテ其汚名ヲ雪クコト能ハサルモノナルニ右ニ付キ幸平ノ供述及ヒ「モト」ノ供述等ヲ證據トシテ斷罪ニ供セラレタルモ此申立ハ一モ信憑スヘキモノニ非ス如何トナレハ彼等カ不義ノ行爲アリト雖モ何ソ公廷ニ自白スヘキ若シ夫レ自白セリトセハ靦面不義ノ犯罪者タレハナリ人誰カ慾情ナカラン而シテ其内色慾程强キモノナシ若シ夫レ色慾ナシトセンカ吾ハ之ヲ人ト云ハサルナリ人ニシテ色慾アリテ开カ妻タルモノカ不義セリトセンカ之ヨリ甚シキ憤慨ハナカラン上告人モ是等ノ情勢ヨリ既ニ兩人ヲ一刀兩斷シテ身首處ヲ異ニセント迄考ヘタル折柄彼等カ仲裁アリ爲メニ忍ヒ難キヲ忍ヒテ爲シタル和解事實ヲ犯罪ナリト認定セラルルハ實ニ遺憾ナリ然リト雖モ世間有勝ナル斯ル人情ヲ諒察セラレスシテ冷酷ニモ犯罪者ナリト認定セラルルトセハ上告人ハ泣テ犯罪ニ服センノミ復何ヲカ云ハント云フニ在レトモ○右ハ何レモ原審ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ上告適法ノ理由トナラス

右ノ理由ナルヲ以テ被告末吉末丸ノ上告ニ付テハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却シ被告外吉ノ上告ニ付テハ同法第二百八十六條ニヨリ原判決ヲ破毀シ同法第二百八十七條ニ基キ本院ニ於テ直ニ判決スヘキモノトス

原審ノ確定シタル事實ニ據リ之ヲ法律ニ擬スルニ被告外吉ノ所爲ハ刑法施行前ノ犯罪ニ係ルヲ以テ刑法施行法第二條刑法第十條同第六條ニ依リ新舊刑法ヲ比照スルニ舊刑法ニ在リテハ其第二百九十條第一項同第三百九十四條ニ該リ刑法ニ在リテハ其第二百四十六條第一項ニ當ル處舊刑法ノ刑輕キヲ以テ前示舊刑法ノ法條並ニ刑法施行法第五條ヲ適用シ被告外吉ヲ重禁錮七月ニ處シ公訴裁判費用中金九圓四十四錢ハ被告外吉ニ於テ原審ノ相被告末丸末吉及第一審ノ共同被告森龜太郎ト共ニ金六圓二十三錢ハ被告外吉ニ於テ同龜太郎ト共ニ刑法施行法第六十七條ニヨリ連帶負擔スヘク領置並ニ押收物件ハ刑事訴訟法第二百二條ニヨリ各差出人ニ還付ス可キモノトス但シ第一審ニ於テハ舊刑法ヲ適用シ前掲ト同一ノ處分ヲナシタルニ拘ラス刑法第二十一條ヲ適用シ未決勾留日數一百日ヲ本刑ニ算入シタルハ不法ナルモ本件ハ被告ノミノ上訴ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十五條ノ明文ニ遵ヒ右判決ヲ被告ノ不利益ニ變更セス依テ主文ノ如ク判決ス

檢事板倉松太郎干與明治四十四年四月七日大審院第一刑事部

○文書僞造行使詐欺取財ノ件

明治四十四年(ヒ)第四三九號
明治四十四年四月十日宣告

○判決要旨

一　苟モ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルニ於テハ其自己ノ爲メニスルト